基地内文化財 10

― 確認調査報告書 ―

喜友名東原第四遺跡

喜友名前原第三遺跡

喜友名東原第三遺跡

令和５（2023）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成 25・26 年度に実施した基地内埋蔵文化財分布調査の成果をまとめたものです。

本調査は、沖縄県内に所在する米軍施設等における埋蔵文化財の分布状況を把握するために実施している事業で、文化庁の補助を受けて実施しています。

平成 25・26 年度は平成 14 年度の試掘調査によって確認された喜友名東原第四遺跡、平成 11・12 年度の試掘調査によって確認された喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡の範囲や遺構・遺物の内容等を確認するための調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代晩期から近代までの遺構や遺物を確認することができました。主な遺構は、喜友名東原第四遺跡では縄文時代晩期の竪穴建物、喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡ではグスク時代のピット群、３遺跡から近世から近代の耕作跡等を検出しました。また、現在の遺跡範囲外に遺構を確認したことから、遺跡範囲が広がる可能性があることが分かりました。

本報告書が文化財保護の基礎資料として活用されると共に、地域における埋蔵文化財の保存活用及び地域研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本事業の実施にあたり、多大な御協力を賜りました宜野湾市教育委員会、在沖米軍海兵隊等の関係機関及び関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和５(2023)年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所　長　　前田　直昭

例　言

1　本報告書は、沖縄県宜野湾市字喜友名(普天間飛行場内)に所在する喜友名東原第四遺跡、喜友名前原第三遺跡、喜友名東原第三遺跡の確認調査の成果を記したものである。

2　本事業は、平成９(1997)年度から文化庁の補助を受け沖縄県教育委員会が実施している基地内文化財分布調査である。

3　現地調査の実施にあたっては、宜野湾市教育委員会文化課、在沖米国海兵隊施設技術部環境保全課の協力を得た。

4　本書に掲載した地図は、宜野湾市都市計画課作成の都市計画基本図を使用している。

5　本書に掲載した航空写真は宜野湾市総務部税務課から提供を受けたものを使用している。

6　遺構図等の座標値は平面直角座標系第 XV 系を使用し、日本測地系で表示している。ただし、報告書抄録の経緯度は世界測地系で表示している。

7　遺構は、遺構の種類を示す以下の記号と番号を組み合わせて表記し、トレンチごとの通し番号としている。
SD：溝、溝状遺構、SI：竪穴建物、SK：土坑、SP：ピット、SX：その他

8　土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。

9　本書の編集は、当センター職員の協力を得て、知念隆博が行った。執筆は下記以外を知念が行った。
廣岡　凌　土器、石器
亀島慎吾　第６章・第７章
パリノ・サーヴェイ株式会社　第８章

10　本書に掲載した遺構写真は大堀皓平、宮城淳一、遺物写真は知念、小渡直子、嘉数　渚、儀間真章、工藤孝美が撮影した。X 線透過画像は知念が撮影した。

11　発掘作業で得られた遺物及び写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

目 次

序
例言

第１章　調査の経過
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査体制……1
　第３節　調査経過
　　第１項　発掘作業の経過……2
　　第２項　資料整理の経過……3

第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境……4
　第２節　歴史的環境……8

第３章　調査の方法……10

第４章　基本層序……12

第５章　調査の成果
　第１節　トレンチ１……13
　第２節　トレンチ２……16
　第３節　トレンチ３……22
　第４節　トレンチ４……30
　第５節　トレンチ５……35
　第６節　トレンチ６……39

第６章　自然遺物
　第１節　脊椎動物遺体……46
　第２節　貝類遺体……47

第７章　人骨……48

第８章　自然科学分析
　第１節　喜友名東原第四遺跡の年代測定……49
　第２節　喜友名前原第三遺跡の年代測定……54
　第３節　喜友名東原第四遺跡出土黒曜石の産地同定
　　……58

第９章　総括……61

参考文献……63
巻末図版……65
報告書抄録……97

図目次

図 1　宜野湾市の位置……4
図 2　普天間飛行場の位置……5
図 3　宜野湾市の地形分類図……5
図 4　調査箇所周辺の地形断面モデルのライン設置図
　……6
図 5　調査箇所周辺の地形断面モデル……6
図 6　地質図……7
図 7　土壌図……7
図 8　昭和 20 年米軍撮影の航空写真と調査箇所……8
図 9　普天間飛行場内と周辺の遺跡……9
図 10　普天間飛行場地区割……10
図 11　調査トレンチと過去の調査箇所……11
図 12　基本層序模式図……12
図 13　トレンチ１東・南・北壁土層断面図……13
図 14　トレンチ１遺構平面図……14
図 15　トレンチ１遺構土層断面図……14
図 16　トレンチ１出土遺物……15
図 17　トレンチ２東・南壁土層断面図……16
図 18　トレンチ２平面図……17
図 19　トレンチ２SI １、SI ２平面図……18
図 20　SI １、SI ２遺物取上場所……18
図 21　トレンチ２SI １、SI ２断面図……18
図 22　トレンチ２出土遺物……21
図 23　トレンチ３東・南壁土層断面図……22
図 24　トレンチ３第１遺構面平面図……23
図 25　トレンチ３第２遺構面平面図……24
図 26　トレンチ３SX 周辺遺構平面図……25
図 27　トレンチ３北側第１遺構面平面図、第２遺構面平
面図……26
図 28　トレンチ３遺構土層断面図……27
図 29　トレンチ３出土遺物……28
図 30　トレンチ４平面図……30
図 31　トレンチ４西壁土層断面図……31
図 32　トレンチ４西壁・南壁土層断面図……31
図 33　トレンチ４出土遺物（１）……34
図 34　トレンチ４出土遺物（２）……35
図 35　トレンチ５東壁土層断面図……35
図 36　トレンチ５平面図……36
図 37　トレンチ５出土遺物……38
図 38　トレンチ６北壁土層断面図（１）……39
図 39　トレンチ６北壁土層断面図（２）……40
図 40　トレンチ６平面図……41
図 41　トレンチ６第１遺構面平面図……42
図 42　トレンチ６第２遺構面平面図……43
図 43　トレンチ６ピット断面図……43

図 44　トレンチ６出土遺物……45
図 45　暦年較正曲線図……52
図 46　黒曜石原産地……59
図 47　縄文時代の遺構分布図……61
図 48　グスク時代の遺構、遺物包含層分布図……61

図版目次

図版 1　作業状況……53
図版 2　作業状況１……56
図版 3　作業状況２……57
図版 4　作業状況……60
図版 5　トレンチ１（１）……65
図版 6　トレンチ１（２）……66
図版 7　トレンチ１（３）……67
図版 8　トレンチ１（４）……68
図版 9　トレンチ２（１）……69
図版 10　トレンチ２（２）……70
図版 11　トレンチ２（３）……71
図版 12　トレンチ３（１）……72
図版 13　トレンチ３（２）……73
図版 14　トレンチ３（３）……74
図版 15　トレンチ３（４）……75
図版 16　トレンチ３（５）……76
図版 17　トレンチ３（６）……77
図版 18　トレンチ３（７）……78
図版 19　トレンチ４（１）……79
図版 20　トレンチ４（２）……80
図版 21　トレンチ５（１）……81
図版 22　トレンチ５（２）……82
図版 23　トレンチ６（１）……83
図版 24　トレンチ６（２）……84
図版 25　トレンチ６（３）……85
図版 26　トレンチ１（１～５）、トレンチ２（６～ 11）……86
図版 27　トレンチ２（12 ～ 23）……87
図版 28　トレンチ２（24 ～ 36）……88
図版 29　トレンチ２（37 ～ 39）、トレンチ３（40 ～ 49）……89
図版 30　トレンチ３（50 ～ 52）、トレンチ４（53 ～ 61）……90
図版 31　トレンチ４（62 ～ 73）……91
図版 32　トレンチ４（74 ～ 83）……92
図版 33　トレンチ５（84 ～ 94）……93
図版 34　トレンチ５（95・96）、トレンチ６（97 ～ 103）……94
図版 35　トレンチ６（104 ～ 110）……95
図版 36　脊椎動物遺体……96
図版 37　貝類遺体……96

表目次

表 1　トレンチ１出土遺物観察一覧……15
表 2　トレンチ１遺物出土状況一覧……15
表 3　トレンチ２出土遺物観察一覧……19
表 4　トレンチ２遺物出土状況一覧……20
表 5　トレンチ３出土遺物観察一覧……28
表 6　トレンチ３遺物出土状況一覧……29
表 7　トレンチ４出土遺物観察一覧……32
表 8　トレンチ４遺物出土状況一覧……33
表 9　トレンチ５遺物出土状況一覧……37
表 10　トレンチ５出土遺物観察一覧……38
表 11　トレンチ６出土遺物観察一覧……44
表 12　トレンチ６遺物出土状況一覧……44
表 13　鳥類・哺乳類出土状況一覧……46
表 14　脊椎動物遺体種類一覧……46
表 15　魚類出土状況一覧……47
表 16　貝類の生息地類型……47
表 17　巻貝出土状況一覧……47
表 18　二枚貝出土状況一覧……47
表 19　人骨出土状況一覧……48
表 20　年代測定試料……49
表 21　放射性炭素年代測定・暦年較正・樹種同定結果……51
表 22　放射性炭素年代測定結果……55
表 23　暦年較正結果……55
表 24　試料一覧……58
表 25　元素比組成結果……59
表 26　黒曜石の産地同定結果……59

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

基地内文化財分布調査は、沖縄県内に所在する米軍施設・区域及び自衛隊基地内の埋蔵文化財を把握することを目的として、平成９(1997)年度から文化庁の補助を受けて実施している。

普天間飛行場については、平成８(1996)年 12 月２日の日米安全保障協議委員会(SCC)にて承認された沖縄に関する特別行動委員会(SACO)最終報告で返還について示された。沖縄県は平成 11(1999)年８月に国へ要望書を提出し、これを受けて同年 11 月 28 日に政府方針が閣議決定され、その中で、「駐留軍用地跡地利用の促進及び円滑化等に関する方針」も示された。跡地利用の促進及び円滑化については平成 12(2000)年５月 31 日に発足した準備協議会で協議され、取り組むべき分野ごとの課題と対策がまとめられ、その中で埋蔵文化財の分布調査の実施、遺跡地図の作成、取扱い基準の作成、調査体制の整備・充実等を進めることが明記された。

沖縄県教育委員会(以下「県教委」と言う。)では平成 11 年度から普天間飛行場において試掘・確認調査を実施しており、宜野湾市教育委員会も平成 13 年度から同飛行場にて試掘・確認調査を実施している。両教育委員会で実施した試掘調査は普天間飛行場の面積の約３割となり、残りの７割は返還後に調査を実施する見込みである。

今回報告する喜友名東原第四遺跡は県教委が平成 14(2002)年度に試掘調査を行い、縄文時代晩期の土層を確認している。喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡は県教委が平成 11 (1999)年度、平成 12(2000)年度に実施した試掘調査で確認されたもので、ピットや溝跡等を検出している。平成 17(2005)年度には確認調査を実施し、遺構や遺物包含層の広がりを確認している。

喜友名東原第四遺跡の試掘調査は調査面積が限られていることから、土層の広がりや遺跡の性格を把握するまでには至らず、また、隣接する喜友名前原第三遺跡との関連性も明らかとはなっていなかった。

喜友名前原第三遺跡は確認調査を実施していたものの、南東側への遺構や遺物包含層の広がり及び喜友名東原第三遺跡との関係を確認するために補足調査が必要であった。そのようなことから３遺跡にトレンチを設定し、遺跡の範囲、遺構の広がり、遺物分布等を把握するための確認調査を実施した。

第２節　調査体制

本報告書で掲載している喜友名東原第四遺跡、喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡の確認調査は、平成 25(2013)年度及び平成 26(2014)年度に発掘作業、令和４(2022)年度に資料整理作業及び報告書作成を行った。事業実施体制は以下のとおりである。

平成 25(2013)年度

事業主体　沖縄県教育委員会　諸見里　明(教育長)

事業主管　沖縄県教育庁文化財課　新垣悦男(課長)
盛本　勲(記念物班長)、田場直樹(指導主事)

調査実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
下地英輝(所長)
総務班　新垣勝弘(総務班長)、西島康二(主査)
調査班　島袋　洋(副参事)、金城亀信(調査班長)
調査担当　大堀皓平(主任)、宮城淳一(専門員)
調査補助　池原悠貴、高山厚子、又吉幸嗣、宮城瑠美子(文化財調査嘱託員)
発掘調査作業員　新垣隆仁、新垣良雄、新垣瑠美子、伊佐秀敏、大城銀河、喜納幸男、桑江利尚、佐々木秀治、玉寄守郎、西平陽子、前川敦子、前田　叶、又吉利文、宮城明子、宮城圭子、宮城康司、宮城友香、屋比久辰也

業務委託　株式会社大洋土木コンサルタント(発掘調査支援業務)
パリノ・サーヴェイ株式会社(年代測定)
株式会社パスコ(壁面図化)

平成 26(2014)年度

事業主体　沖縄県教育委員会　諸見里　明(教育長)

事業主管　沖縄県教育庁文化財課
嘉数　卓(参事兼課長)、金城亀信(記念物班長)
田場直樹(指導主事)

調査実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
下地英輝(所長)
総務班　新垣勝弘(総務班長)、比嘉　睦(主査)
調査班　島袋　洋(副参事)、盛本　勲(調査班長)
調査担当　大堀皓平(主任)、宮城淳一(専門員)
調査補助　天久瑞香、井上奈々、大屋匡史、翁長圭乃子、新屋敷小春、高山厚子、玉城　綾、徳嶺里江、仲嶺真太、波木基真、又吉幸嗣、宮城瑠美子(文化財調査嘱託員)
発掘調査作業員　新垣良雄、大城武治、大城友嘉、兼城菊夫、川満　正、儀間守男、金城政子、知名　薫、桃原隆信、前川敦子、真喜屋　斉、宮城明子、宮城康司

業務委託　株式会社大洋土木コンサルタント(発掘調査支

援業務）
パリノ・サーヴェイ株式会社（年代測定、産地同定）
株式会社パスコ（壁面図化）

令和４（2022）年度

事業主体　沖縄県教育委員会　半嶺　満（教育長）
事業主管　沖縄県教育庁文化財課
瑞慶覧勝利（課長）、仲座久宜（記念物班長）
金城貴子（主任専門員）、具志堅清大（主任）
調査実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
前田直昭（所長）
総務班　池田みき子（総務班長）、渡久山盛之（主査）
調査班　中山　晋（調査班長）
整理担当　知念隆博（主幹）、廣岡　凌（主任）
調査補助　久場大暉、比嘉玲奈、古堅あゆみ、メレン千穂（史跡・埋蔵文化財調査員）
資料整理補助　上原園子、小渡直子、嘉数　渚、儀間真章、工藤孝美、宮城かの子（埋蔵文化財資料整理員）
資料整理協力　金城亀信（主任専門員）、宮城淳一、奥平大貴（主任）、伊藤恵美利、小橋川里江（埋蔵文化財資料整理員）
調査指導及び協力（所属等は当時）
森田直哉、伊藤　圭、長濱健起（宜野湾市教育委員会文化課）
與那覇政之、Bob Peterson（在沖米国海兵隊施設技術部環境保全課）
甲元眞之（熊本大学名誉教授）
禰冝田佳男（文化庁文化財部記念物課）
丸山真史（東海大学）

第３節　調査経過

第１項　発掘作業の経過

発掘作業は、平成 25（2013）年度は平成 25 年 12 月 10 日から平成 26 年３月 26 日まで実施し、平成 26（2014）年度は平成 26 年９月２日から平成 27 年３月 24 日まで実施した。両年度ともトレンチを各４ヶ所設置し調査を行った。経過については以下に示す。

平成 25 年度調査

平成 25 年
12 月 10 日　環境整備を開始。
12 月 18 日　表層の磁気探査を実施。
12 月 20 日　表土掘削を開始し、トレンチ１は完了し、表面清掃を実施。
12 月 24 日　トレンチ２・３の表土掘削完了。
12 月 26 日　トレンチ１・２でサブトレンチを設定し、下層の確認。
12 月 27 日　トレンチ２で SI １を検出。

平成 26 年
１月　６日　トレンチ１で近世･近代の溝状遺構を検出。
１月　８日　トレンチ１南側の遺構検出写真撮影。
１月　９日　トレンチ２で遺構検出写真撮影。
１月　10日　トレンチ２で近世・近代の溝状遺構を検出。
１月　16日　トレンチ１・２で溝状遺構の調査を実施。トレンチ３で磁気探査（経層探査）後に耕作土層を掘削。
１月　17日　トレンチ１・２の遺構調査。トレンチ３で遺構検出作業開始。
１月　24 日　トレンチ３で遺構検出写真撮影。
１月　27 日　トレンチ３のグスク時代以前の土層を掘削開始。
１月　30 日　トレンチ２の東側を拡張、トレンチ３遺構調査に着手。
１月　31 日　トレンチ２の東側拡張部分で SI の続きを確認。
２月　４日　トレンチ３でグスク時代の遺構検出撮影。遺構調査。
２月　14 日　トレンチ４周辺の環境整備。
２月　17 日　トレンチ２の SI 内を調査し、SI が二つに別れることが分かった。
２月　26 日　トレンチ１・３は岩盤確認の深掘りを実施。トレンチ４の表土掘削を開始。
２月　27 日　トレンチ２の SI １・２にサブトレンチを設定し、内部の状況調査に着手。
３月　５日　トレンチ１の完掘状況撮影。
３月　６日　トレンチ３の完掘状況撮影。
３月　７日　トレンチ４で耕作土層の掘削を開始。
３月　14 日　トレンチ４の調査終了写真撮影。
３月　17 日　トレンチ１の埋戻し。
３月　18 日　トレンチ４の埋戻し。
３月　19 日　トレンチ２の完掘状況撮影。トレンチ３の埋戻し。
３月　20 日　トレンチ２の埋戻し。
３月　26 日　種子吹付けにて養生し調査終了。

平成 26 年度調査

平成 26 年
９月　２日　環境整備を開始。
９月　５日　トレンチ４の表土掘削開始。
９月　９日　トレンチ４の表土掘削完了。Ⅱ層掘削開始。
９月　10 日　トレンチ４のⅡ層下から溝状遺構を確認。
９月　12 日　トレンチ４のⅡ層掘削を完了。遺構検出作業を実施。

10月　1日　トレンチ３・４の磁気探査を実施。
10月　7日　トレンチ３の表土掘削を開始。
10月　8日　トレンチ３の遺構検出作業を開始。トレンチ６の環境整備を開始。
10月　9日　トレンチ５の環境整備を実施。
10月 10日　トレンチ３下層の磁気探査を実施。
10月 14日　トレンチ３の表土掘削完了。
10月 21日　トレンチ４にサブトレンチを設定し、下層確認を開始。
10月 22日　トレンチ３で溝状遺構を確認。
10月 24日　トレンチ３南側にサブトレンチを設定し掘削を開始。
10月 30日　トレンチ６の磁気探査を実施。
11月　4日　トレンチ３でSX 1、円弧状遺構(SX 2)等を確認。
11月　6日　トレンチ３のSX 1に土層確認用畦を設定し、掘削を開始。
11月 12日　トレンチ６の表土掘削を開始。
11月 13日　トレンチ５の磁気探査を実施。
11月 14日　トレンチ５の表土掘削開始。トレンチ６の表土掘削完了。遺構検出作業開始。
11月 17日　トレンチ５の表土掘削完了。
11月 20日　トレンチ５の遺構検出作業開始。
11月 21日　トレンチ６の表土掘削完了。遺構検出開始。東側でグスク時代以前と考えられる包含層を確認。
11月 22日　トレンチ３のサブトレンチ掘削完了。
12月　8日　トレンチ５のⅡ層掘削。トレンチ６のⅡ層掘削。その後遺構検出。
12月 15日　トレンチ４のサブトレンチ調査完了。
12月 17日　トレンチ５で畝間跡及び溝状遺構を確認。トレンチ６でピット及び畝間跡を確認。
12月 26日　トレンチ６で遺構検出を完了し、写真撮影。

平成27年

1月　9日　トレンチ４の完掘状況撮影。
1月 19日　トレンチ５の遺構掘削。
1月 20日　トレンチ５の南側でグスク時代以前と考えられる土層を確認。
1月 21日　トレンチ５の南側で遺構検出。
2月　2日　トレンチ５南側で黒色土の遺構(SX 1)を確認。
2月　6日　トレンチ５南側調査範囲を東側に２m拡張し、表土掘削を開始。
2月　9日　トレンチ６のピット調査開始。
2月 13日　トレンチ６の遺構調査完了。
2月 17日　トレンチ５南側拡張部へ遺構が広がっていることを確認。
2月 20日　トレンチ６東側の遺構検出撮影。
2月 25日　トレンチ５遺構検出状況撮影。
3月　3日　トレンチ３・４の完掘状況撮影。
3月 19日　トレンチ３・４の埋戻し。
3月 20日　トレンチ５・６の埋戻し。
3月 24日　種子吹付けにて養生し調査終了。

第２項　資料整理の経過

発掘作業時に作成した台帳類の確認、修正作業からはじめた。出土遺物は洗浄、注記、分類、接合、選別、実測、トレースの順序で作業を行った。注記、分類、接合、選別はトレンチごとに行った。

土器はトレンチ２のSIから多く出土しており、口縁部の形態から大きく２つに分類できた。

Ⅰ類：口縁部断面が肥厚するもの。
Ⅰａ…口縁部断面が逆Ｌ字状。室川式に相当。
Ⅰｂ…口縁部断面が薄く方形に肥厚。カヤウチバンタ式に相当。
Ⅰｃ…口縁部断面が三角形に肥厚。宇佐浜式に相当。
Ⅱ類：口縁部が薄く、丸みを帯びているもの。
Ⅱａ…口縁部断面がやや丸い四角形で弱く外反。仲原式に相当。
Ⅱｂ…Ⅱａと同じだが直口気味。仲原式に相当。
Ⅱｃ…口縁部は直口で口縁部外面がややふくらむ。仲原式に相当。

層序はトレンチごとの土層断面の検討、整理を行いつつ、『基地内文化財９　普天間飛行場内試掘調査総括報告書』で提示された統一層序(暫定)との整合を図った。

遺構図は発掘作業で作成した実測図の整理を行いつつ、遺構検出面の確認、整理を行った。

遺物実測図及び遺構図はデジタルトレースし、レイアウトもパソコンで行った。

自然科学分析は、年代測定及び石器原石の産地同定を分析委託した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

宜野湾市は沖縄本島のやや南側、直線距離で那覇市の約12.5km北側に位置し、北側は北谷町及び北中城村、東側は中城村、南側は西原町及び浦添市、西側は東シナ海に接している。

宜野湾市の面積は約19.8km^{2}で、そのうち普天間飛行場は約4.76km^{2}となっており、市面積の約４分の１を占めている。

宜野湾市を取囲むように南東側から北側に普天間川、南側から西側に宇地泊川が流れている。地形は４つの平坦面を持つ３段の段丘で形成されており、海に面する西側から東側に向け段丘に合わせて高くなっている。平坦面の第１面は標高30 m以下の海岸低地、第２面は標高20～30 mで国道58号線、第３面は標高50～90 mで普天間飛行場が作られている。一番広い平坦面である第４面は90m以上で国道330号線となっている。

普天間飛行場の土壌は島尻マージが多いが、東側ではジャーガルも見ることができる。土壌の下の地質は琉球石灰岩となっており、その下には泥岩を主体とする島尻層群が不整合の関係で堆積している。

今回調査を行った喜友名東原第四遺跡、喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡は、普天間飛行場の北側に位置し、喜友名集落の南端から約60 m～210 m南側に離れたところに所在する。現在の地形図を基にした断面図では、北西から南東の断面は東側に緩やかに高くなり、南西から北東の断面だと少し窪む地形となっている。沖縄戦前までは畑として使用されていたようである。

図１　宜野湾市の位置

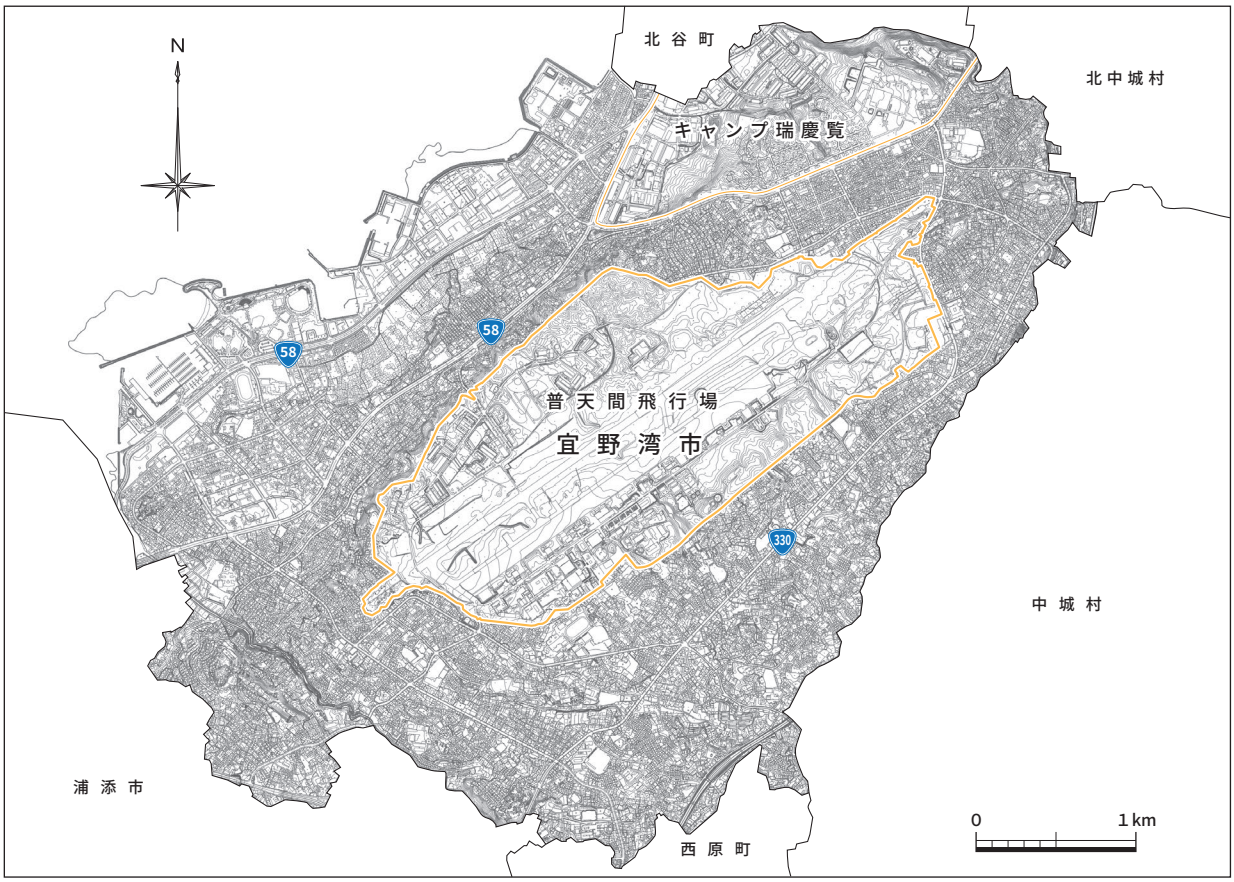


図２　普天間飛行場の位置

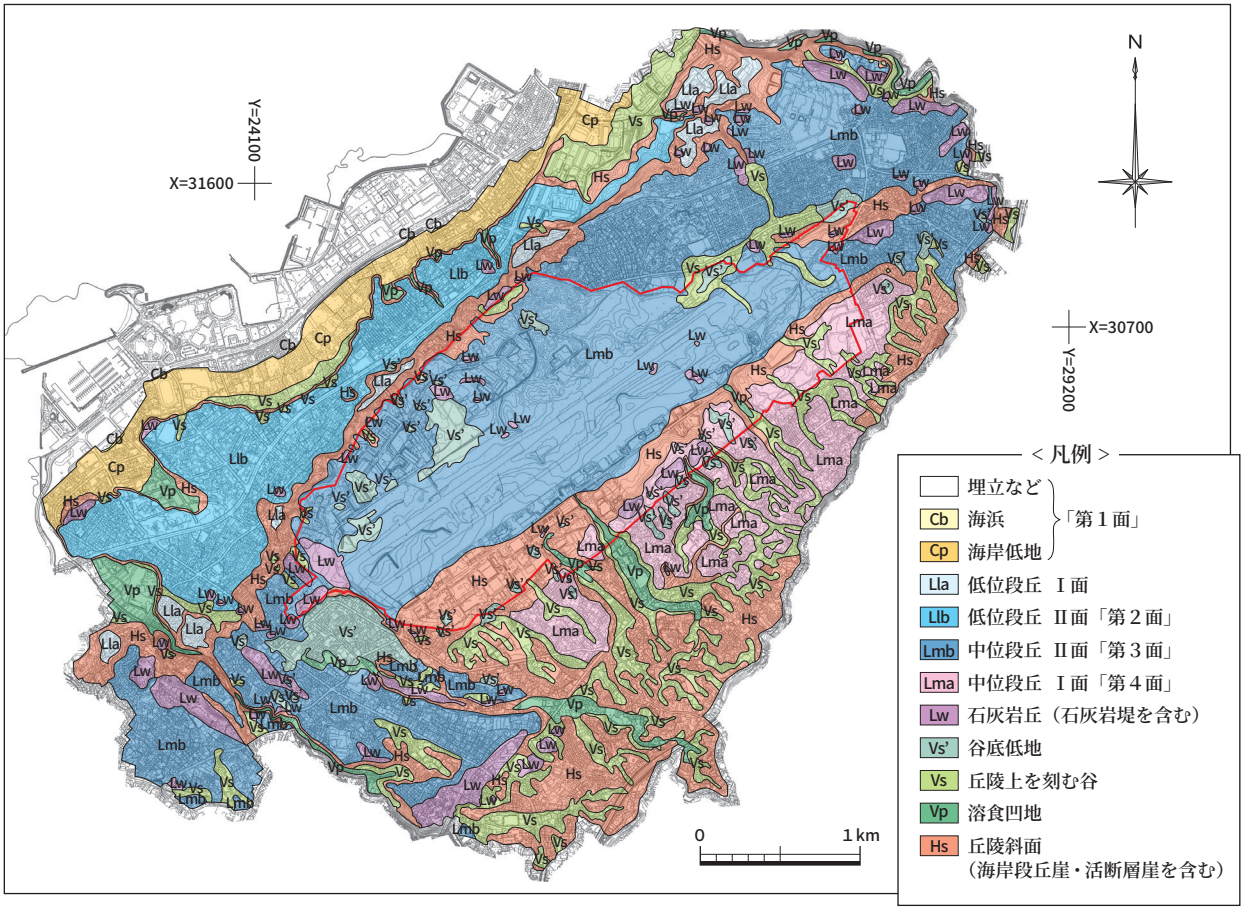


図３　宜野湾市の地形分類図（宜野湾市教育委員会 2002『宜野湾市史 第９巻 資料編８ 自然』の図を改変）

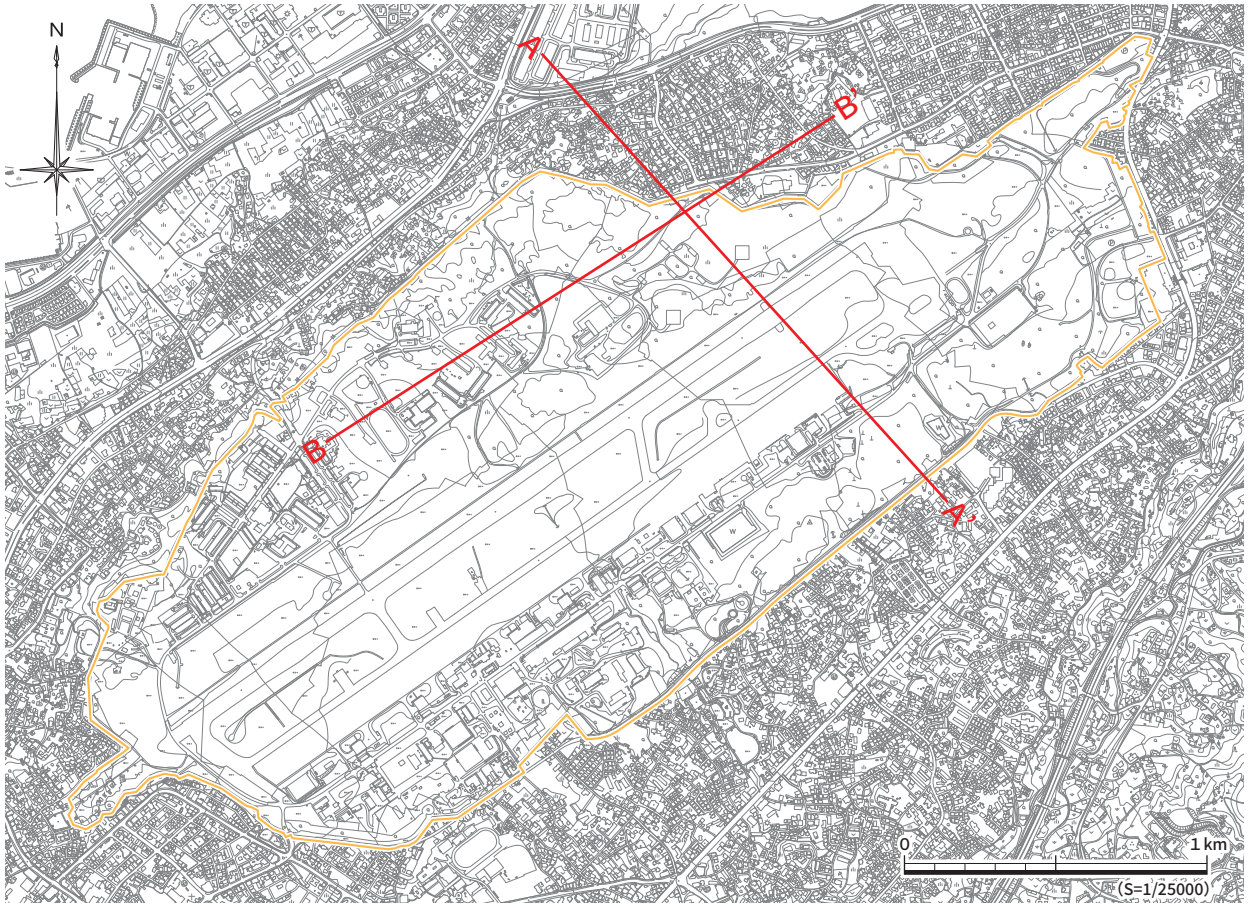
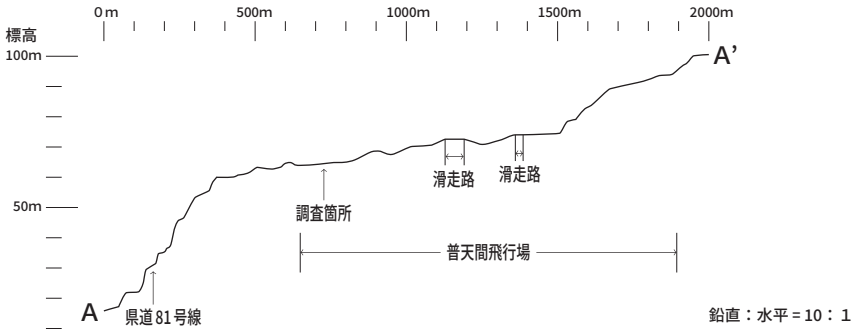


図４　調査箇所周辺の地形断面モデルのライン設置図



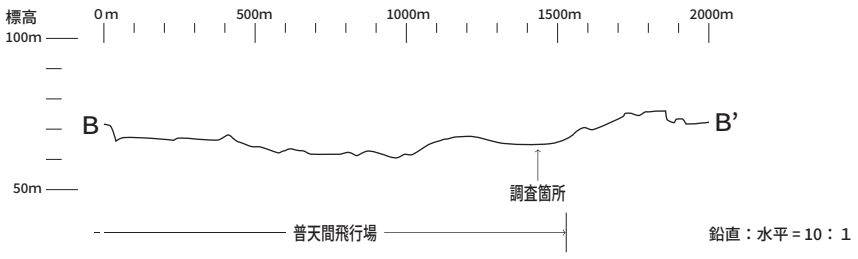


図５　調査箇所周辺の地形断面モデル（地理院地図の断面図ツールデータを改変）

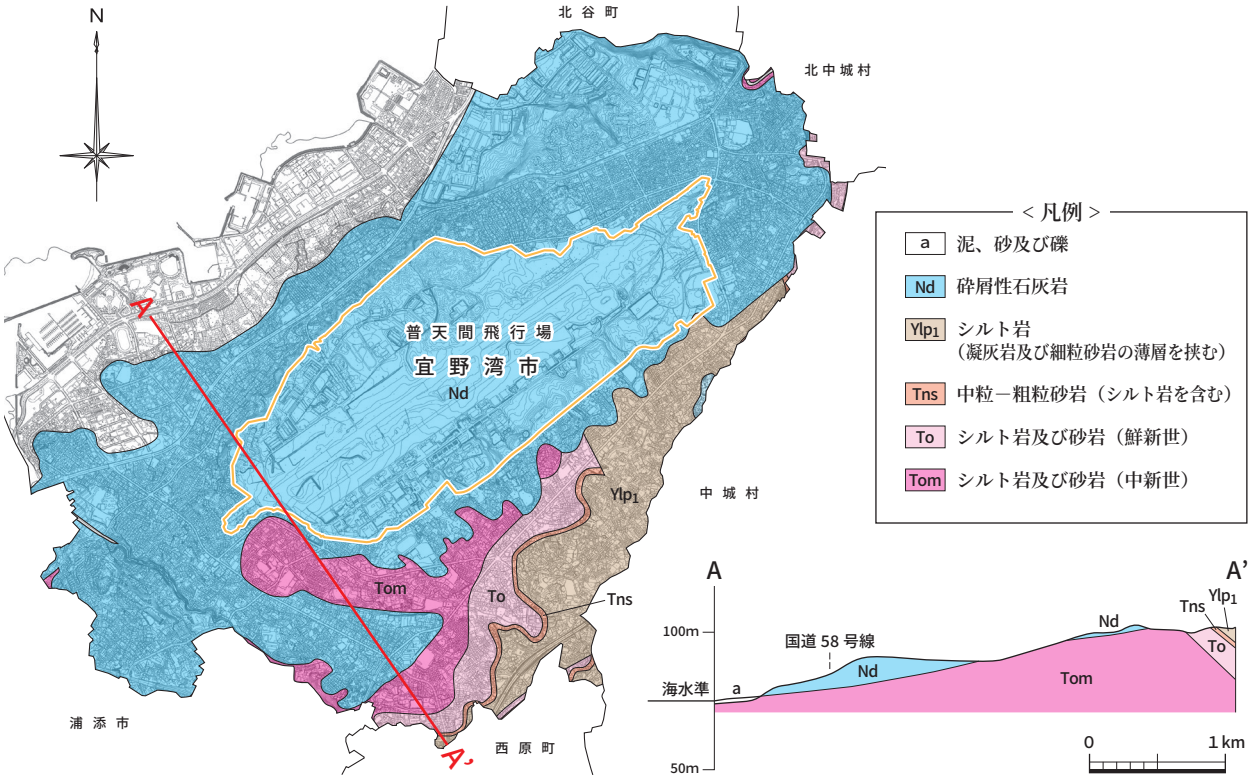


図６　地質図（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2006「1:50,000 地質図幅　那覇及び沖縄市南部」を改変）

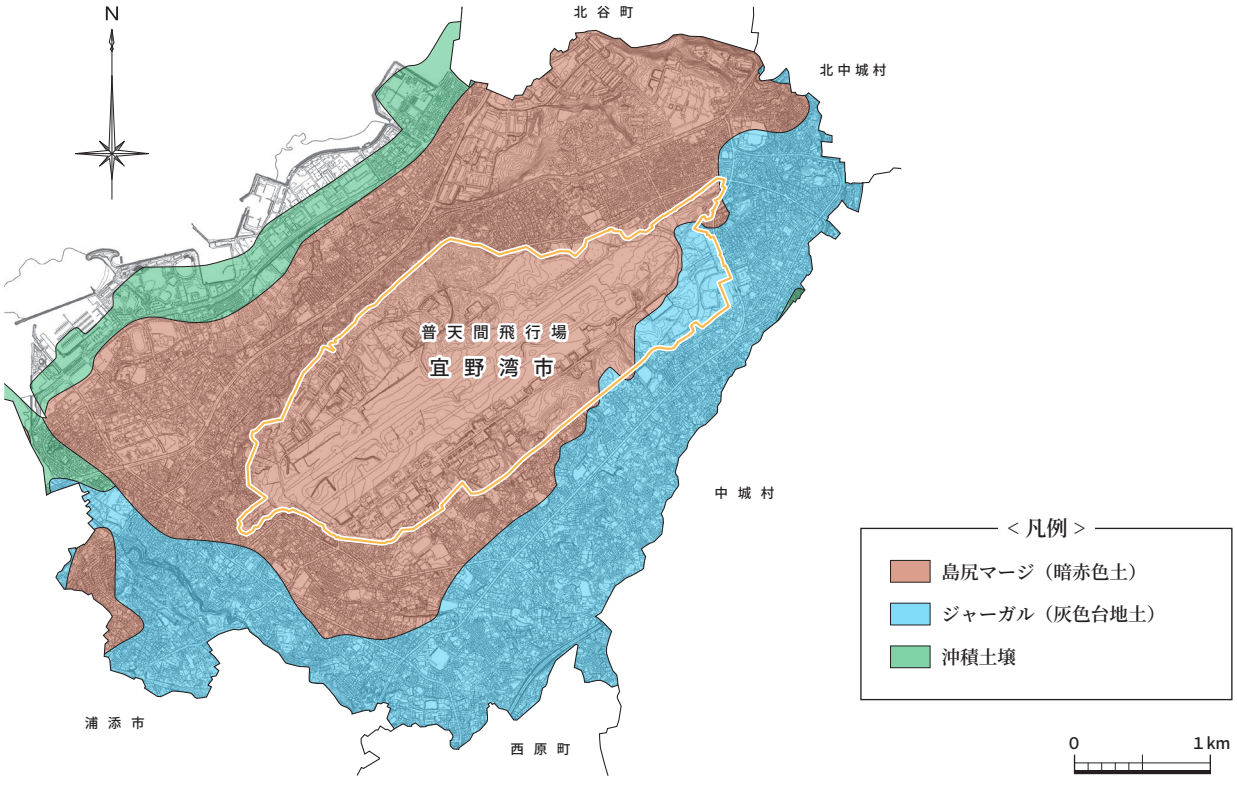


図７　土壌図（国土庁土地局発行 1977「土地分類図（土壌図）沖縄県」を改変）

第２節　歴史的環境

普天間飛行場内の遺跡は令和４年３月時点で 101 遺跡が確認されており、先史またはグスク時代に形成された遺跡（近世以降の遺構も確認された複合遺跡を含む）が 63 遺跡、近世以降に形成された遺跡が 38 遺跡となっている。

普天間飛行場北側における先史時代の遺跡は段丘の縁辺部に多く所在する。今回の調査箇所は縁辺部から約 400 m離れており、1948 年に米軍が作成した地形図を参考にすると少し窪んだ箇所に位置する。

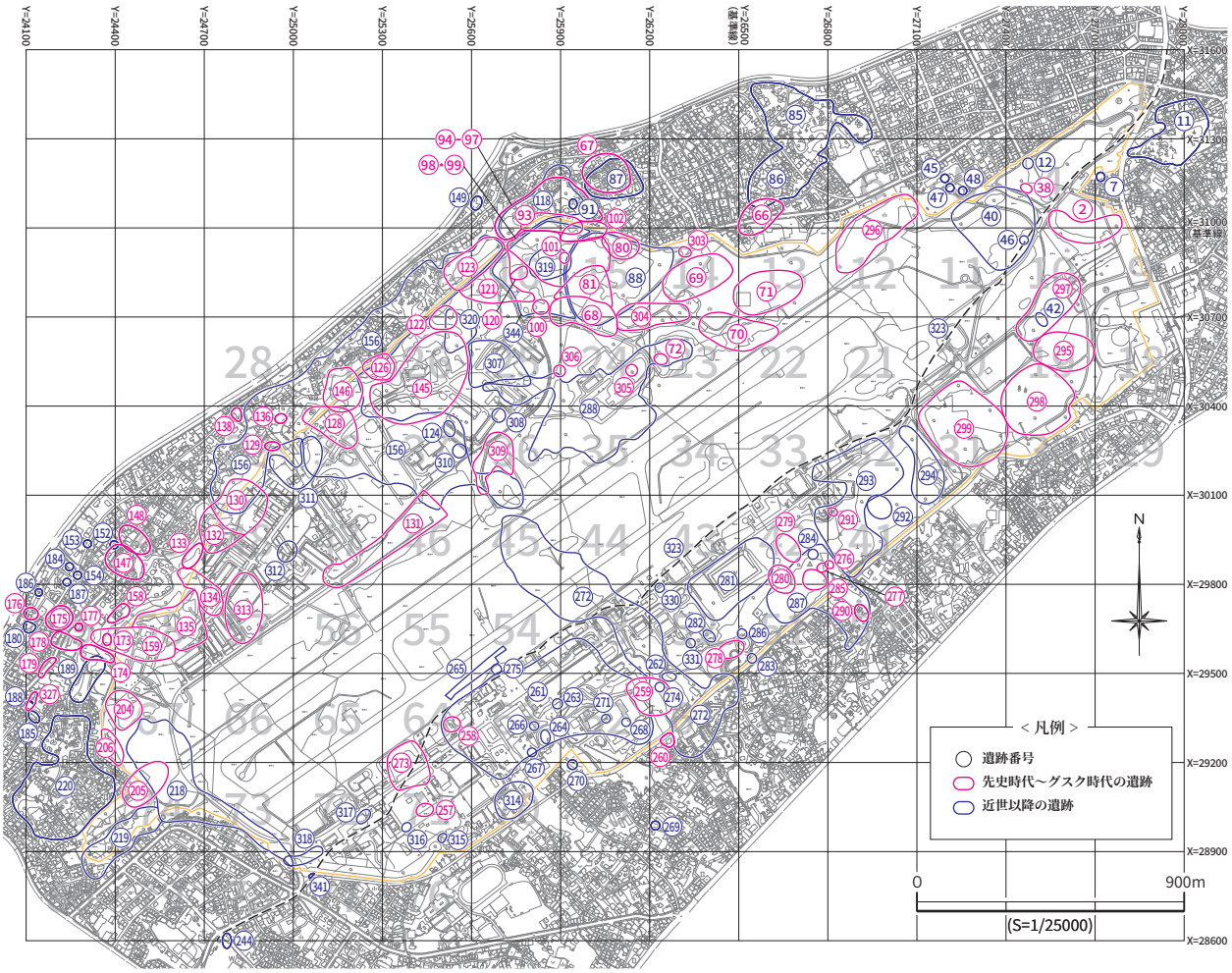
今回調査を行った喜友名東原第四遺跡、喜友名前原第三遺跡、喜友名東原第三遺跡の周辺には縄文時代晩期の遺跡として竪穴建物跡、土坑等を確認した喜友名東原ヌバタキ遺跡、土坑や畝間状溝列遺構等を確認した上原濡原遺跡、竪穴建物跡等を確認した伊佐上原第一遺跡、喜友名前原第二遺跡がある。

複合遺跡が多いことから、グスク時代の遺構や遺物包含層を確認した遺跡は縄文時代晩期の遺跡と重複しているが、試掘調査でピットを検出した喜友名前原第五遺跡や遺物が確認された喜友名ウフシー遺跡等のグスク時代に形成された遺跡もあり、縄文時代より遺跡が増えている。

調査箇所周辺は古地図や 1945 年に米軍が撮影した航空写真等を見ると、戦前までは喜友名集落の耕作地となっていたことが分かる。調査によっても耕作に関係のある畝間等が確認されている。

その他周辺の丘陵地では地形を利用した古墓群が広い範囲で形成されている。

図８　昭和 20 年米軍撮影の航空写真と調査箇所



② 野嵩タマタ原遺跡
⑦ 野嵩ピンジェルモー遺跡
⑪ 野嵩西表原古墓群
⑫ 野嵩長迫原古墓群
㊳ 新城原石器散布地
㊵ 新城古集落
㊷ 新城シマヌカー
㊺ 新城トゥンヌヤマ祭祀遺跡
㊻ 新城ウィーヌ毛遺跡
㊼ 新城トゥン遺跡
㊽ 新城ジトゥーヒヌカン遺跡
㊻⑥ 喜友名東原ヌバタキ遺跡
⑥⑦ 喜友名前原第一遺跡
⑥⑧ 喜友名前原第二遺跡
⑥⑨ 喜友名前原第三遺跡
⑦⓪ 喜友名東原第二遺跡
⑦① 喜友名東原第三遺跡
⑦② 喜友名アジミー洞穴遺跡
⑧⓪ 喜友名ウフシー遺跡
⑧① 喜友名前原第四遺跡
⑧⑤ 喜友名後原丘陵古墓群
⑧⑥ 喜友名勢頭原丘陵古墓群
⑧⑦ 喜友名前原第一古墓群
⑧⑧ 喜友名前原第二古墓群
⑨① 伊佐「たけたう原」銘の印部土手
⑨③ 伊佐上原第一遺跡
⑨④-⑨⑦ 伊佐上原第二遺跡
⑨⑧･⑨⑨ 伊佐上原第三遺跡
⑩⓪ 伊佐上原第四遺跡
⑩① 伊佐ケレンケレンガマ洞穴遺跡
⑩② 伊佐上原東方遺跡
⑪⑧ 伊佐上原第一古墓群
⑫⓪ 大山岳之佐久原第一洞穴遺跡
⑫① 大山岳之佐久原第一遺跡
⑫② 大山岳之佐久原第二遺跡
⑫③ 大山岳之佐久原第三遺跡
⑫④ 大山加良当原第一遺跡
⑫⑥ 大山ウフォーアブ遺物散布地
⑫⑧ 大山苧久保原第三遺跡
⑫⑨ 大山勢頭原第一遺跡
⑬⓪ 大山勢頭原第二遺跡
⑬① 大山勢頭原第三遺跡
⑬② 大山富盛原第一遺跡
⑬③ 大山貝塚
⑬④ 大山富盛原第二遺跡
⑬⑤ 大山富盛原第三遺跡
⑬⑥ 大山マヤーガマ洞穴遺跡
⑬⑧ 大山一里原遺物散布地
⑭⑤ 大山苧久保原第二遺跡
⑭⑥ 大山チャシグスク遺跡
⑭⑦ 大山前門原第一遺跡
⑭⑧ 大山前門原第二遺跡
⑭⑨ 大山フルチンガー
⑮② 大山メームトゥブヌトゥン遺跡
⑮③ 大山メーフヌトゥン遺跡
⑮④ 大山カンサギモー遺跡
⑮⑥ 大山東方丘陵古墓群
⑮⑧ 真志喜富盛原第三遺跡
⑮⑨ 真志喜富盛原第一遺跡
⑰③ 真志喜マヤーアブ洞穴遺跡
⑰④ 真志喜製立原遺跡
⑰⑤ 真志喜森川原第一遺跡
⑰⑥ 真志喜森川原第二遺跡
⑰⑦ 真志喜ウンサクモー遺跡
⑰⑧ 真志喜富盛原第二遺跡
⑰⑨ 真志喜蔵当原遺跡
⑱⓪ 真志喜ノロ殿内遺跡
⑱④ 真志喜奉行屋跡
⑱⑤ 真志喜カンガー
⑱⑥ 真志喜ムラヌヒヌカン遺跡
⑱⑦ 真志喜カンサギモー遺跡
⑱⑧ 真志喜クッンガー遺跡
⑱⑨ 真志喜製立原古墓群
⑳④ 大謝名軍花原第一遺跡
⑳⑤ 大謝名久永地原遺物散布地
⑳⑥ 大謝名軍花原第二遺跡
㉑⑧ 大謝名軍花原古墓群
㉑⑨ 大謝名久永地原第一古墓群
㉒⓪ 大謝名久永地原第二古墓群
㉔④ 佐真下ナガサクガマ遺物散布地
㉕⑦ 宜野湾前原第一遺物散布地
㉕⑧ 宜野湾前原第二遺物散布地
㉕⑨ 宜野湾クシヌウタキ遺跡
㉖⓪ 宜野湾後原遺物散布地
㉖① 宜野湾古集落
㉖② 宜野湾ヌールガー
㉖③ 宜野湾サクヌカー
㉖④ 宜野湾メーヌカー
㉖⑤ 宜野湾馬場跡
㉖⑥ 宜野湾メーヌウタキ遺跡
㉖⑦ 宜野湾ウタキグヮー遺跡
㉖⑧ 宜野湾トゥン遺跡
㉖⑨ 宜野湾トゥーティークー遺跡
㉗⓪ 宜野湾クマイーアブ遺跡
㉗① 宜野湾ノロ殿内遺跡
㉗② 宜野湾シリガーラ流域古墓群
㉗③ 宜野湾大吹原遺跡
㉗④ 宜野湾カニクェーウマヌヤー跡
㉗⑤ 宜野湾間切番所跡
㉗⑥ 神山マーカー遺跡
㉗⑦ 神山ウクマバカ洞穴遺跡
㉗⑧ 神山カンミン遺跡
㉗⑨ 神山トゥン遺跡
㉘⓪ 神山同原遺跡
㉘① 神山古集落
㉘② 神山メーヌカー
㉘③ 神山クシヌカー
㉘④ 神山後原ウシナー跡
㉘⑤ 神山テラガマ洞穴遺跡
㉘⑥ 神山カンミンヌウタキ遺跡
㉘⑦ 神山後原丘陵古墓群
㉘⑧ 神山黒数原古墓群
㉘⑨ 赤道渡呂寒原遺跡
㉙① 赤道渡呂寒原洞穴遺跡
㉙② 赤道渡呂寒原屋取古集落
㉙③ 赤道渡呂寒原古墓群
㉙④ 赤道シキロー流域古墓群
㉙⑤ 上原同原遺跡
㉙⑥ 上原濡原遺跡
㉙⑦ 新城東原遺跡
㉙⑧ 上原仲毛原遺跡
㉙⑨ 中原同原遺跡
㉚③ 喜友名東原第四遺跡
㉚④ 喜友名前原第五遺跡
㉚⑤ 神山黒数原第一遺跡
㉚⑥ 神山黒数原第二遺跡
㉚⑦ 大山岳之佐久原第四遺跡
㉚⑧ 大山加良当原第三遺跡
㉚⑨ 大山加良当原第四遺跡
㉛⓪ 大山加良当原第五遺跡
㉛① 大山勢頭原第四遺跡
㉛② 大山勢頭原第五遺跡
㉛③ 大山大久保原遺跡
㉛④ 宜野湾東原遺跡
㉛⑤ 宜野湾前原第一遺跡
㉛⑥ 宜野湾前原第二遺跡
㉛⑦ 佐真下同原遺跡
㉛⑧ 佐真下西原遺跡
㉛⑨ 伊佐上原第二古墓群
㉜⓪ 大山岳之佐久原古墓群
㉜③ 宜野湾並松街道
㉜⑦ 真志喜ジャナミチ古道
㉝⓪ 神山アカムゥイ遺跡
㉝① 神山ウィームゥイ遺跡
㉞① 佐真下屋取古集落
㉞④ 伊佐上原南遺跡

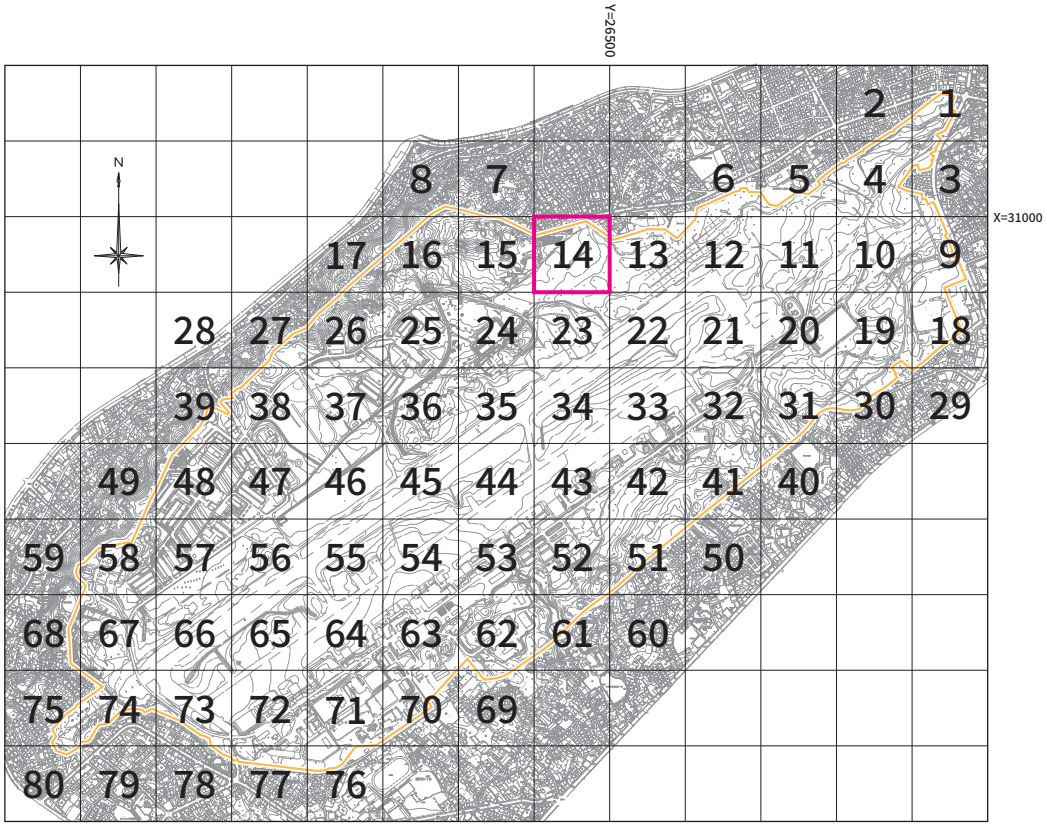
図９　普天間飛行場内と周辺の遺跡

第３章　調査の方法

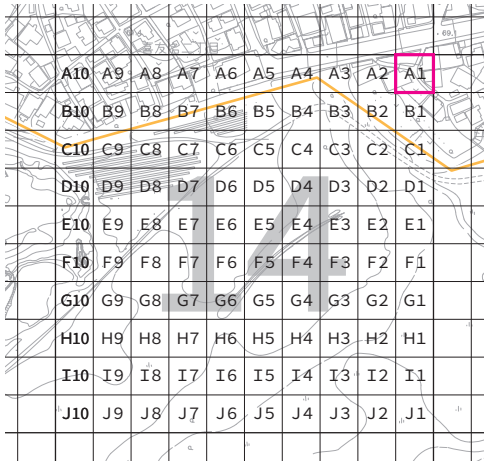
普天間飛行場における試掘・確認調査は、平成 13 年度から日本測地系の平面直角座標系 XV 系に基づき、座標値が X：31000、Y：26500 の地点を基準として、第Ⅰ区画を 300 ｍごと、第Ⅱ区画を 30 ｍごと、第Ⅲ区画を６ｍごとの３段階に分けている。第Ⅰ区画は１から 80 までの 80 区画、第Ⅱ区画はＡ１からＪ 10 までの 100 区画、第Ⅲ区画はアからノまでの 25 区画を設定している。調査箇所は各区画を並べて「フテ 14- Ａ１- ア」のように表記する。試掘調査は基本的に第Ⅱ区画のＡ１- ア地点を調査することにより遺跡の有無確認を行っている。

今回報告する調査は、試掘調査により遺構及び遺物包含層が確認された喜友名東原第四遺跡、喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡の詳細な範囲と内容を確認することを目的として実施した。喜友名前原第三遺跡と喜友名東原第三遺跡の一部については、平成 17 年度に確認調査を実施しているが、遺跡範囲の南東側の範囲と内容に関する情報を補足するために調査を実施した。

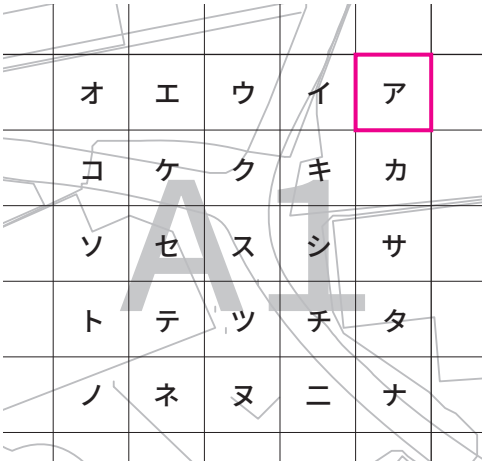
トレンチは試掘箇所から南北または東西方向へ遺跡範



第Ⅰ区画（300mグリッド）



第Ⅱ区画（30mグリッド）



第Ⅲ区画（６mグリッド）

図 10　普天間飛行場地区割

囲をまたぐように７本設定した。平成 25 年度は喜友名東原第四遺跡を中心に４本、平成 26 年度は喜友名前原第三遺跡の北側と南東側に４本設定した。トレンチ３は平成 25 年度に東西方向の調査、平成 26 年度は南北方向の調査を行っており、両年度に重複する箇所があるため今回の報告では１つのトレンチとしてまとめている。

調査はトレンチ設定後に除草作業、不発弾等の有無確認のための磁気探査を行いバックホウにより表土除去を行った。耕作土及び遺物包含層は人力により掘削を行った。各トレンチの調査終盤に一部をバックホウで深掘りし、岩盤深度及び地山の堆積状況の確認を行った。調査を終えたトレンチは遺構を養生し、バックホウ等の重機にて埋戻しを行い、最後に芝生張りや種子吹付けを行い調査を終了した。

図化作業は主にトータルステーション及びレベルを使用し、手作業で実測を行ったが、一部の壁面は長いことからオルソ画像を使用した作図を業者に委託した。記録写真は 35 ㎜カメラ及び６×７㎝判カメラを用い、リバーサルフィルム及びモノクロフィルムにて撮影した。デジタル一眼レフカメラも使用した。

年代測定及び黒曜石の産地同定等の自然科学分析は、委託して行い、年代測定の試料は発掘作業中に現地で採取した。

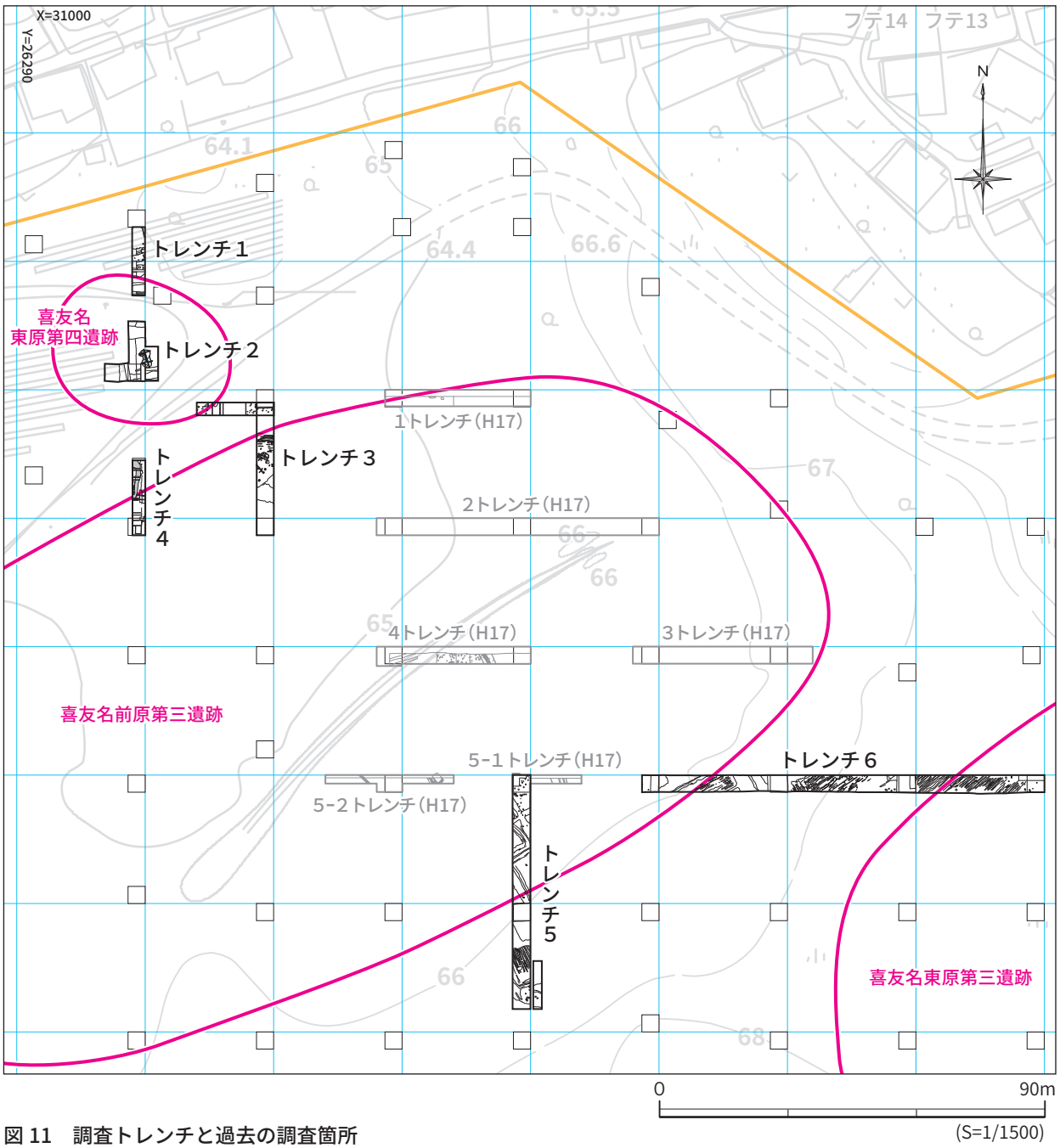


図 11　調査トレンチと過去の調査箇所

第４章　基本層序

今回の調査ではトレンチごとに堆積状況は異なるものの、表土から岩盤（琉球石灰岩）までを大きく５層に整理できた。『基地内文化財９』で過去の普天間飛行場内の試掘・確認調査を基に現時点での共通層序を示しており、可能な部分は対応関係を記した。

Ⅰ層

褐色や灰黄褐色で粒は粗く、１～10㎝の礫を含む。表土、造成土で現代の土層と考えられる。統一層序Ⅰ層に対応する。

Ⅱ層

褐色、暗褐色、オリーブ褐色等で砂質シルト。焼土、マンガン、石灰岩礫等を含み締りは良い。この層と下層との境に畝間跡が確認できることから耕作土と考えられる。近世・近代の多くの遺物が出土している。全てのトレンチで確認できる。統一層序のⅡ層及びⅢ層に対応するが、明確に分けることはできない。

Ⅲ層

暗褐色や黒褐色の砂質シルト。グスク時代以前の耕作土または遺物包含層と考えられる土層で焼土、マンガンを含み土器、石器等が出土する。トレンチ３、５、６で確認されている。統一層序のⅣ層に対応する。

Ⅳ層

明褐色、明黄褐色等で地山（島尻マージ）。粒子の大きさや粘性等により細分できる。部分的にマンガンや鉄分の蓄積が見られる部分もある。統一層序のⅦ層に対応する。

Ⅴ層

琉球石灰岩の岩盤。Ⅳ層との境目では風化等により脆くなっている部分がある。統一層序のⅧ層に対応する。

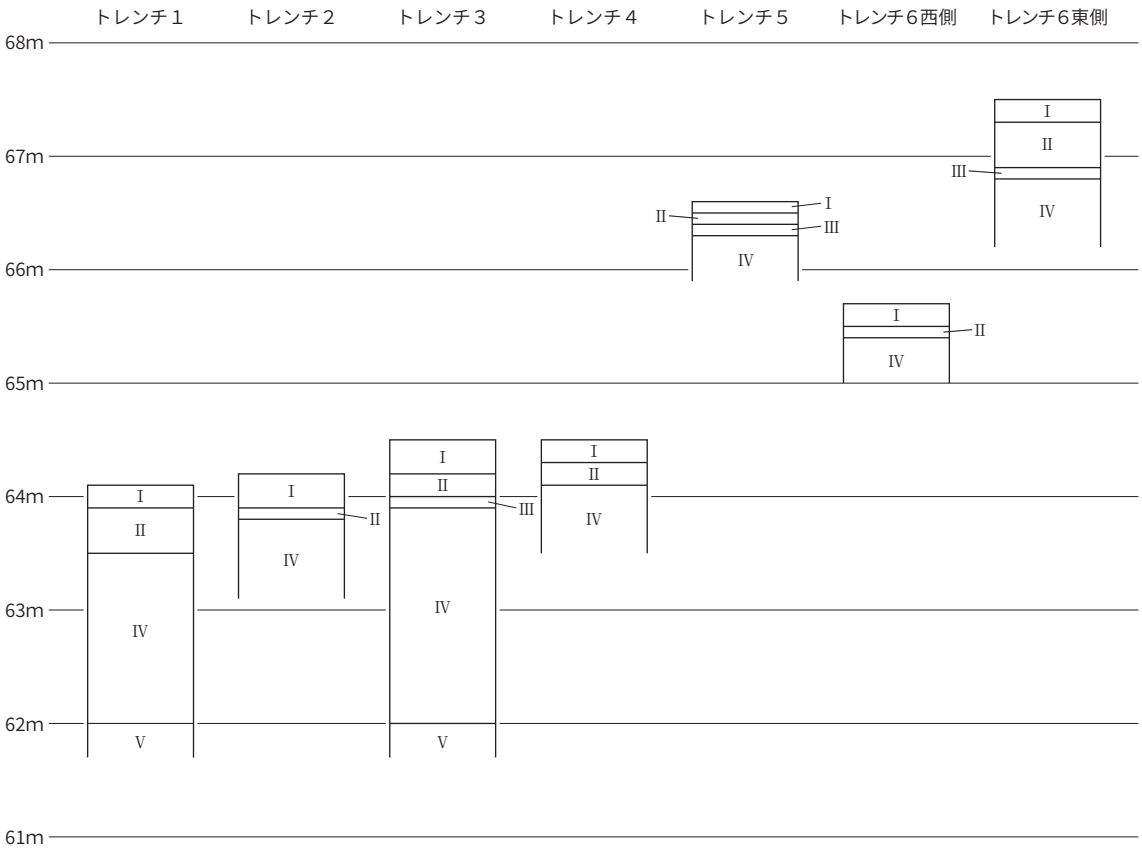


図 12　基本層序模式図

第１節　トレンチ１

喜友名東原第四遺跡範囲の北側に幅３m、長さ16 mのトレンチを設定した。普天間飛行場の境界フェンスから約６mに位置し、現状の地形は平坦で芝地となっている。

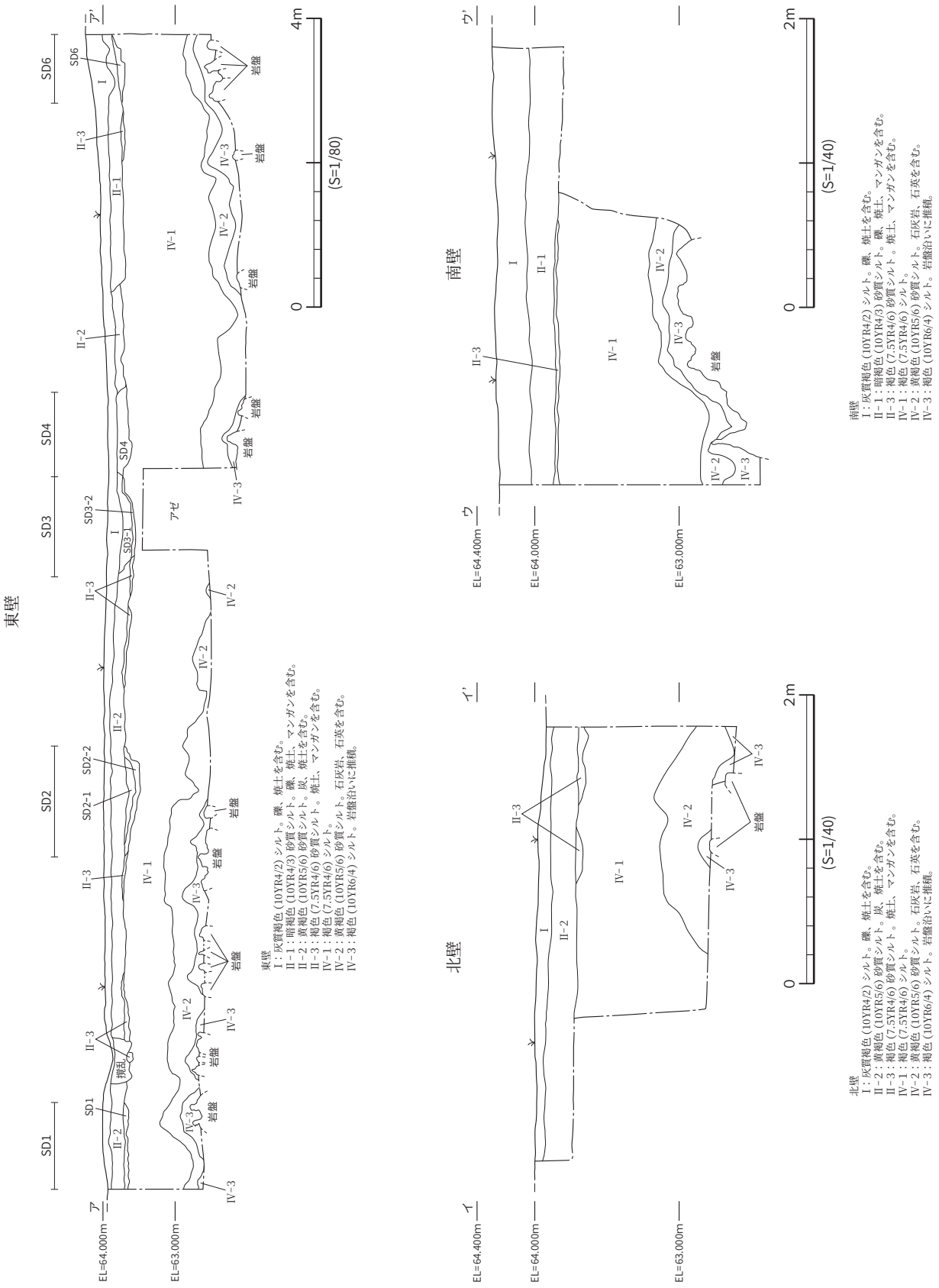


図 13　トレンチ１東・南・北壁土層断面図

層序

Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅳ層、Ⅴ層を確認した。Ⅰ層は 10 ～ 30 ㎝、Ⅱ層は約 20 ㎝、Ⅳ層は 120 ～ 180 ㎝堆積し、Ⅴ層へと続く。ほとんどの遺物はⅠ層から出土する。Ⅱ層は３つに細分できる。Ⅳ層は質、粘性などにより３つに細分できる。

遺構

Ⅳ層上面に溝状遺構（SD）とピット（SP １）を確認している。溝状遺構は東西方向へ延びているものが５基、南北方向へ延びているものが１基ある。戦前の耕作地に関連するものと考えられる。ピットは直径 24 ㎝、深さ 14 ㎝を測る。

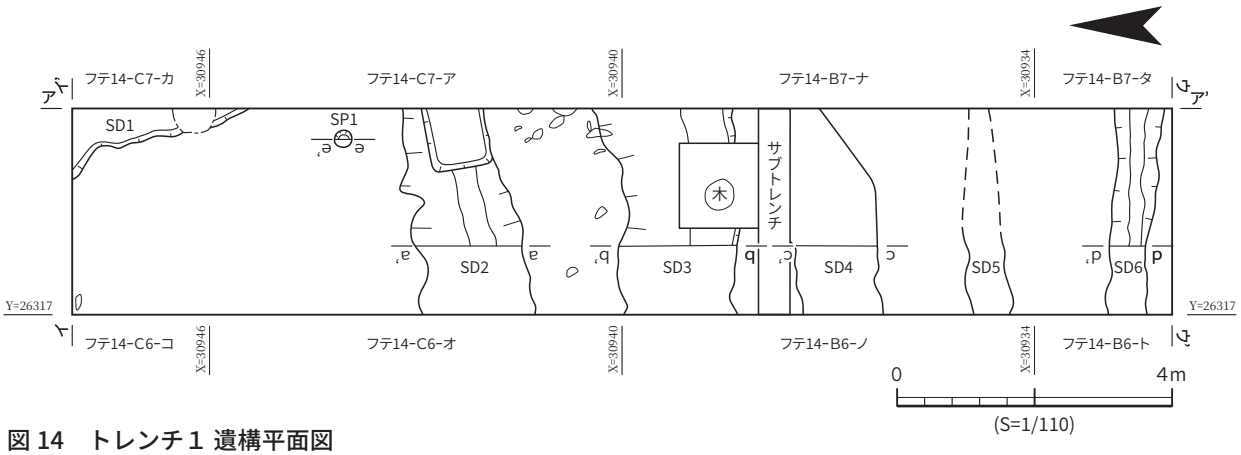


図 14　トレンチ１ 遺構平面図

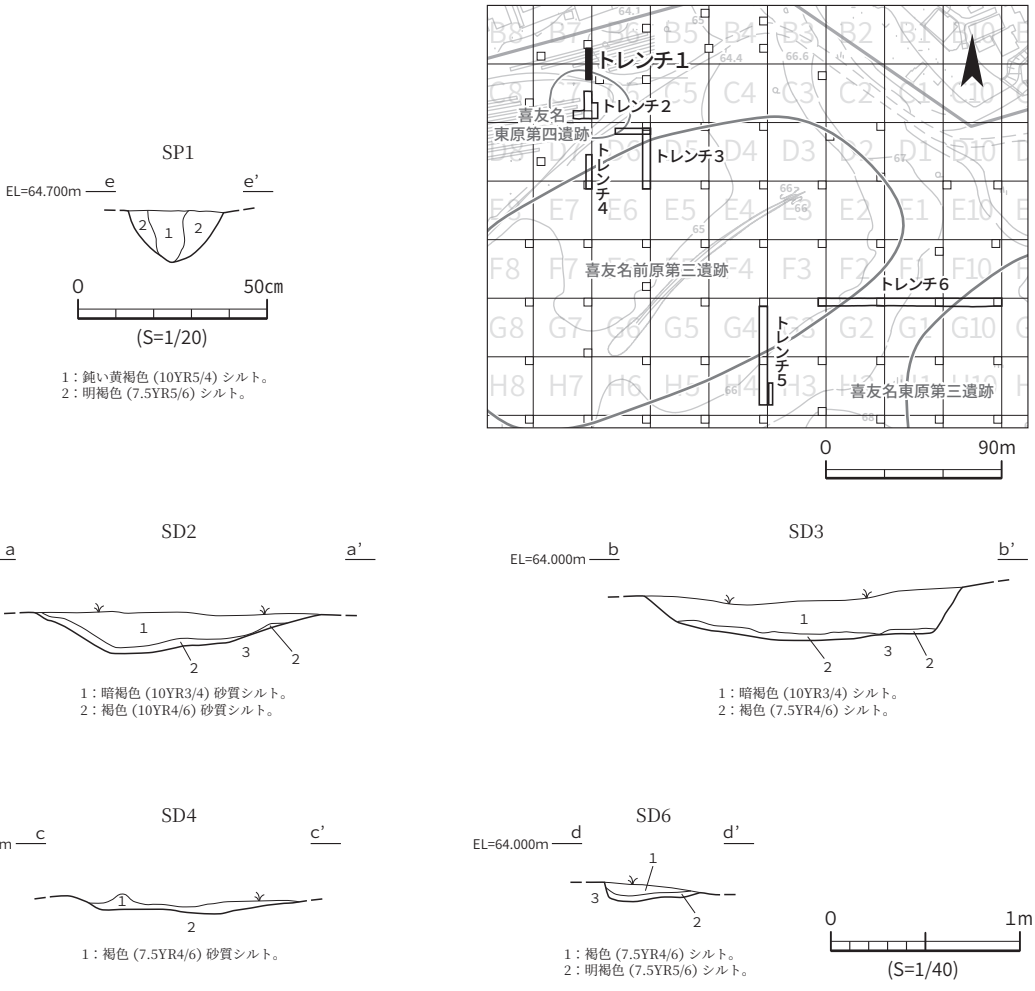


図 15　トレンチ１ 遺構土層断面図

遺物

遺物は大部分がⅠ層からの出土である。種類は沖縄産陶器が多く、中国産青花、カムィヤキ、黒曜石等も出土している。

表１　トレンチ１ 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	番号	種類	器種	部位	法量（単位：cm） 口径 / 長軸	器高 / 短軸	底径 / 厚さ	観察事項	出土位置
図 16 図版 26	1	本土産近代磁器	碗	口縁部	—	—	—	素地は白色で緻密。型紙摺り。砥部産。	Ⅰ層
	2	沖縄産施釉陶器	碗	口縁部	—	—	—	内外面に白化粧後に透明釉。胎土は浅黄色。	Ⅰ層
	3	円盤状製品	—	—	3.7	3.5	1.1	沖縄産無釉陶器の壺または甕の胴部を利用。内外面から剥離。重量：18.1g。	Ⅰ層
	4	ガラス製品	瓶	口～底部	1.95	5.5	2.6	底部に「６」または「B」の型番、「◇」の社標のエンボス。透明。	Ⅰ層
図版 26	5	石材		—	1.85	1.5	0.75	黒曜石。剥片。打撃。重量：1.8g。	Ⅰ層

表２　トレンチ１ 遺物出土状況一覧

種類 / 器種 / 材質 ＼ 出土地		SD 2	Ⅰ層	総計
石製品	砥石		1	1
石材	黒曜石		1	1
中国産青花	碗		5	5
	皿		3	3
本土産近代陶器	蓋		1	1
本土産近代磁器	碗		3	3
沖縄産施釉陶器	碗		50	50
	小碗		1	1
	皿		1	1
	急須	1	4	5
	壺		3	3
	器種不明	1	11	12
沖縄産無釉陶器	壺	1	31	32
	鉢		2	2
	擂鉢		8	8
	器種不明		13	13
カムィヤキ	壺		1	1
陶質土器	鍋 or 急須		6	6
	蓋		3	3
	器種不明		6	6
円盤状製品	沖縄産無釉陶器		3	3
煙管	瓦質土器		1	1
青銅製品	砲弾片		1	1
鉄製品	丸釘	1	5	6
	指輪		1	1
明朝系瓦	平瓦		6	6
	丸平不明		7	7
ガラス製品	瓶		1	1
総計		4	179	183

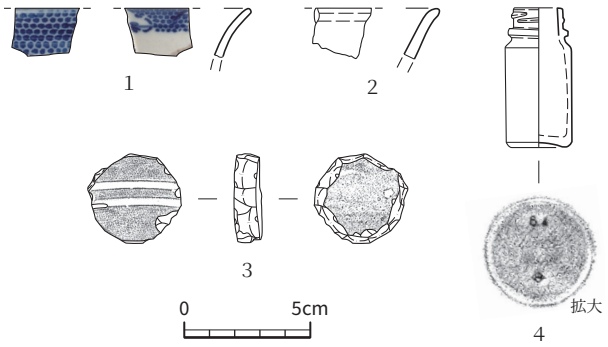


図 16　トレンチ１ 出土遺物

第２節　トレンチ２

試掘調査で縄文時代晩期の土器を含む土層が確認された地点を基点として南北に 14 m、東西に 10 mのトレンチを設定し調査を開始し、その後、遺構の広がりを確認するため東側へ３m調査区を広げた。

層序

Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅳ層を確認した。Ⅰ層は 20 ～ 40 ㎝、Ⅱ層は約 20 ㎝の堆積となる。Ⅱ層は SD に切られている部分もあり、南側では２つに細分できる。

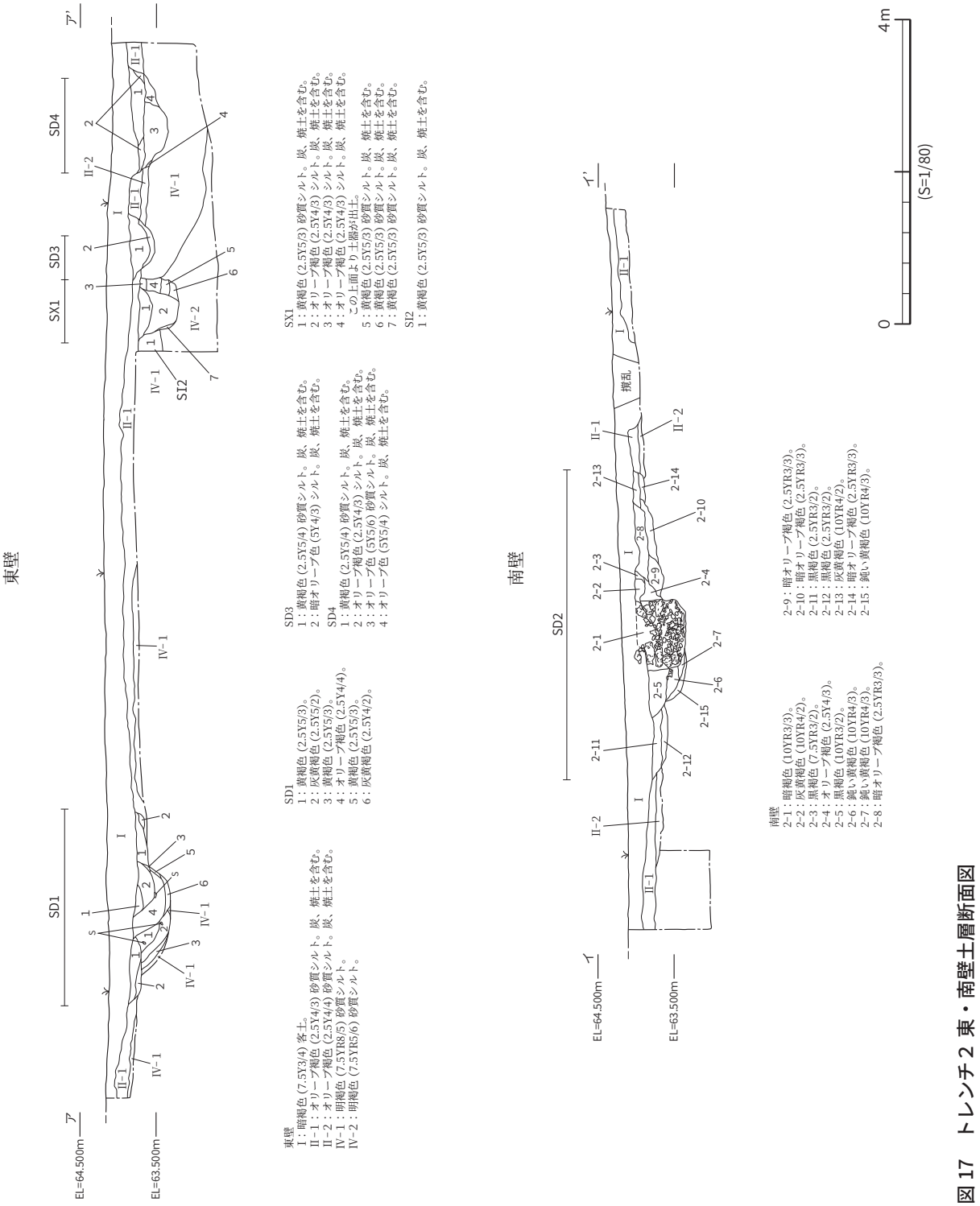


図 17　トレンチ２ 東・南壁土層断面図

遺構

溝状遺構（SD）４基、竪穴建物（SI）２基、土抗（SX）１基を確認した。SD １は東西方向へ延びており、SD ２を切っている。中心部分の深さは約 50 ㎝あり、南側の縁に石が配置されている部分もある。SD ２は南北方向へ延びている。中心部分は石灰岩が詰められており、断面形は縦横約 90 ㎝の方形となっている。用途は排水効率を上げることを目的とした暗渠と考えられる。SD ２は SD ３及び SD ４を切る。

SI １及び SI ２は切り合いがあり、SI １が SI ２を切っている。確認調査のため遺構全体の調査ではなく、サブトレンチの調査を行った。サブトレンチは東西と南北に 20 ㎝幅で設定し、SI 内部の確認を行った。SI １は長軸 2.4 m、短軸２m、深さ約 30 ㎝を測る。埋土は大きく３つにわけることができ、上から黄褐色土、暗褐色土、褐色土となっている。黄褐色土はⅡ層の影響を受けており、炭、焼土、土器等を含む。暗褐色土は厚さ 12 ～ 20 ㎝で、炭、焼土、土器を多く含み、黒曜石、石材も僅かに含む。褐色土は締りが強く遺物を含まない。炭化物等の年代測定の結果、補正年代が 2,580 ± 30BP から 2,400 ± 30BP の値にまとまりがあることが分かった。SI ２は長軸が推定 2.4 m、短軸が 2.3 m、深さは確認できた範囲では 20 ～ 30 ㎝となっている。SI １と異なり暗褐色土の土層は見られない。含まれる土器等は SI １と同じである。

SX １は SI ２と切り合いがあり、SI 2を切っている。土器が出土していること及び堆積した土の状況から SI ２と同時期と考えられる。

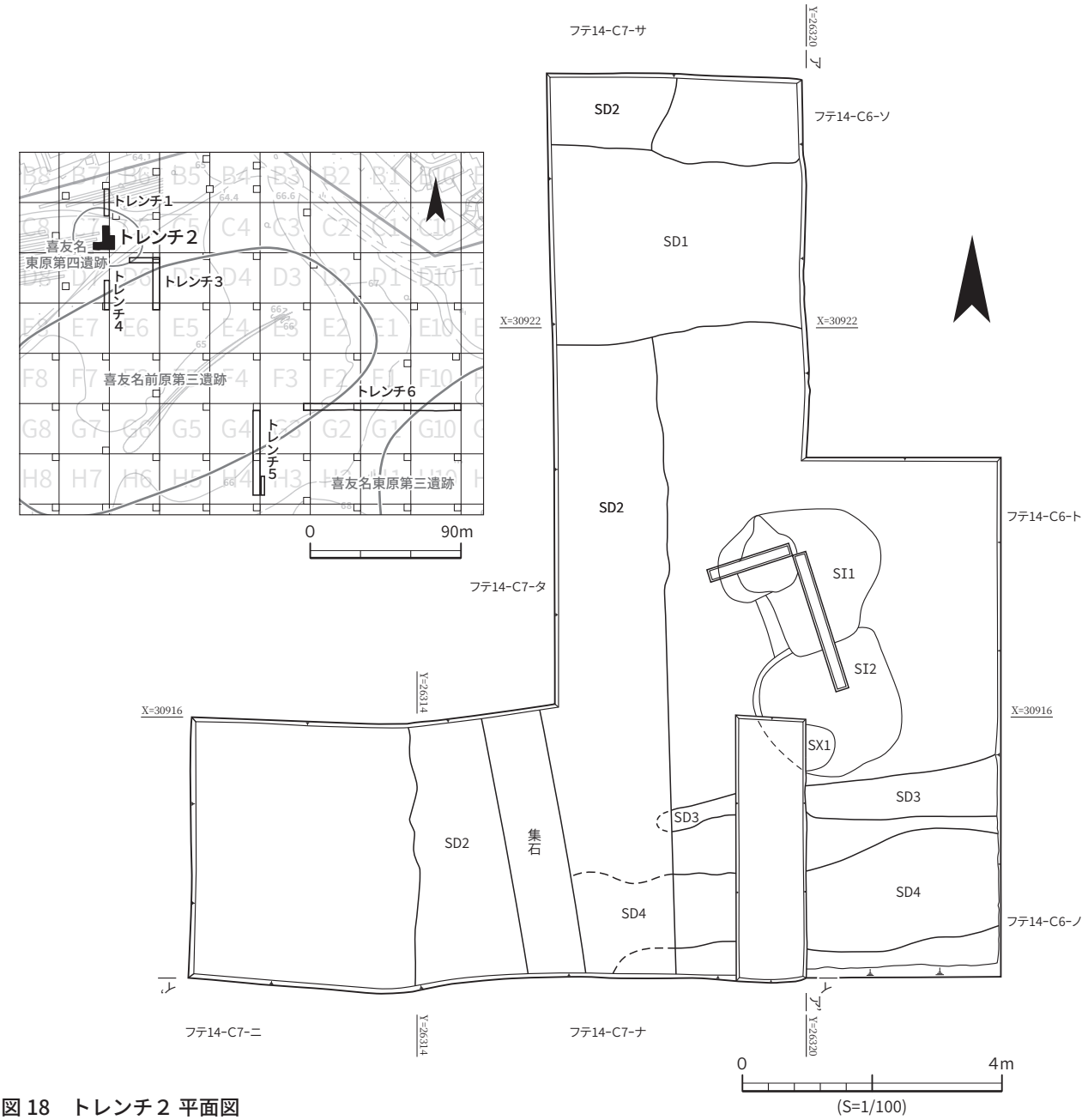


図 18　トレンチ２ 平面図

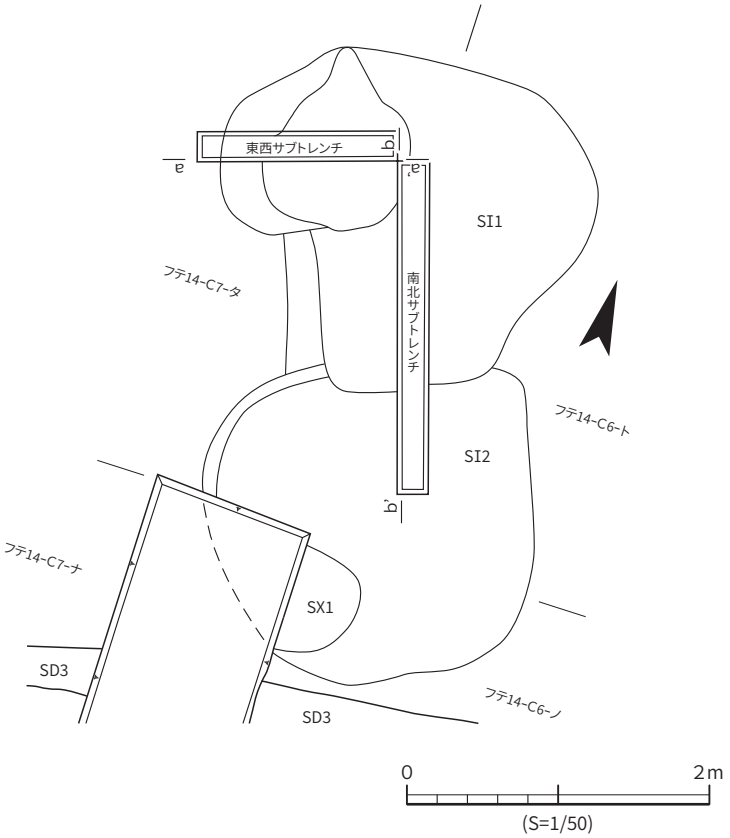


図 19　トレンチ２ SI １、SI ２ 平面図

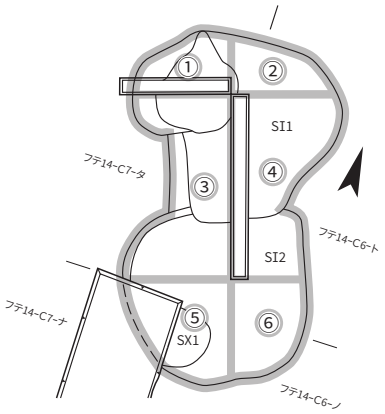
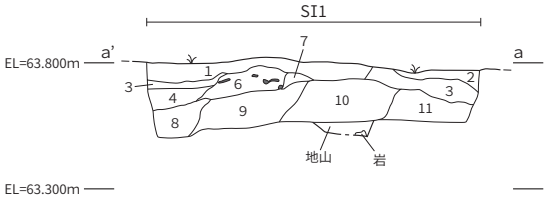
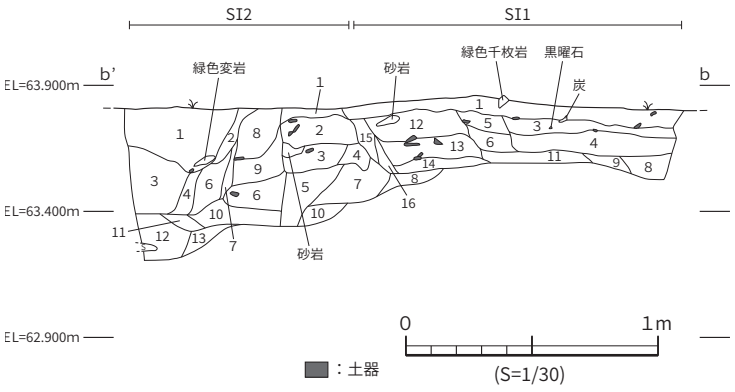


図 20　SI １、SI ２ 遺物取上場所

東西サブトレンチ土層断面図



南北サブトレンチ土層断面図



SI1
1：暗褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
2：明褐色 (7.5YR5/6) シルト。炭、焼土を含む。この下面より土器が出土。
3：暗褐色 (7.5YR3/3) シルト。炭、焼土を含む。
4：黒褐色 (7.5YR3/2) シルト。炭、焼土を含む。この上面より土器が出土。
5：黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
6：黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
7：暗褐色 (7.5YR3/4) シルト。炭、焼土を含む。
8：褐色 (7.5YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。
9：褐色 (7.5YR4/6) シルト。炭、焼土を含む。
10：暗褐色 (7.5YR3/3) シルト。炭、焼土を含む。
11：褐色 (7.5YR4/6) シルト。炭、焼土を含む。
12：暗褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
13：褐色 (7.5YR4/6) シルト。
14：褐色 (7.5YR4/6) シルト。
15：褐色 (7.5YR4/6) シルト。
16：褐色 (7.5YR4/6) シルト。

SI2
1：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
2：褐色 (10YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。
3：褐色 (10YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。
4：褐色 (10YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。
5：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
6：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
7：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
8：褐色 (10YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。
9：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト炭、焼土を含む。
10：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
11：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
12：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
13：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。

図 21　トレンチ２ SI １、SI ２ 断面図

遺物

SIから縄文時代晩期の土器、石器、石材が出土している。土器は胴部が多く、器種を特定できるものは少ない。南北サブトレンチから出土した黒曜石３点は分析により佐賀県の腰岳産と分かった。他の遺構ではSD １及びSD ２から沖縄産無釉陶器が多く出土している。遺構以外ではⅠ層、Ⅱ層から本土産近代磁器、沖縄産陶器、陶質土器、瓦が多く出土している。

表３　トレンチ２ 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	番号	種類	器種	部位	法量（単位：cm） 口径 / 長軸	器高 / 短軸	底径 / 厚さ	観察事項	出土位置
図 22 図版 26	6	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.8	口縁部分類：Ⅱ a。胎土：赤褐色。細粒砂粒小量。焼成：良。文様なし。仲原式。	SI １②
	7	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.6	口縁部分類：Ⅱ b。赤褐色。やや粗粒。石英・砂岩粒少量。焼成：やや良。文様なし。仲原式。	SI １・２ 南北サブトレ
	8	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.7	口縁部分類：Ⅱ a。明褐色。細粒。石英・砂粒少量。焼成：やや良。文様なし。仲原式。	SI １・２ 南北サブトレ
	9	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.8	口縁部分類：Ⅱ c。明赤褐色。やや粗粒。砂粒少量。焼成：やや良。文様なし。仲原式。	SI １・２ 南北サブトレ
	10	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.75	口縁部分類：Ⅱ c。明赤褐色。やや粗粒。砂粒少量。焼成：良。文様なし。仲原式。表面に少々光沢あり。	SI １ 東西サブトレ
	11	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.7	口縁部分類：Ⅱ c。暗褐色。やや粗粒。石英・砂粒多量。焼成：やや良。文様なし。仲原式。	SI １・２ ③
図 22 図版 27	12	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.9	口縁部分類：Ⅱ c。明褐色。泥質。砂粒少量。焼成：やや不良。文様なし。仲原式。	SI １・２ 南北サブトレ
	13	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.65	口縁部分類：Ⅱ b。褐色。やや細粒。砂粒少量。焼成：良。文様なし。仲原式。山型口縁。	SI １・２④
	14	土器	深鉢	底部	—	—	0.5	明褐色。泥質。砂粒少量。焼成：やや不良、文様なし。仲原式か。	SI １ 東西サブトレ
	15	石器	—	—	(6.6)	(4.9)	(5.2)	緑色片岩製。磨石。磨り跡。重量：252.6g。	SI １・２ 南北サブトレ
図版 27	16	石材		—	1.55	1.0	0.2	黒曜石。剥片。打撃。重量：0.4g。	SI １・２ 南北サブトレ
	17	石材		—	2.2	1.2	0.55	黒曜石。剥片。打撃。重量：0.9g。	SI １・２ 南北サブトレ
	18	石材		—	0.95	0.75	0.3	黒曜石。剥片。打撃。重量：0.1g。	SI １・２ 南北サブトレ
図 22 図版 27	19	沖縄産施釉陶器	碗	底部	—	—	6.6	内面見込み付近から外面高台脇まで灰釉。胎土は淡黄色。	SD ２
	20	沖縄産無釉陶器	鉢	底部	—	—	—	高台が僅かに作られ、外面は調整跡が残る。内面黒褐色。外面赤褐色と黒褐色。	SD ２
	21	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	内面に摺目。口縁の平坦面に３条の沈線。外面に記号。鈍い褐色。	SD ２
	22	沖縄産無釉陶器	擂鉢	底部	—	—	—	内面に摺目。橙色。胎土に赤褐色粒。	SD ２
	23	瓦質土器	コンロ	口縁部	25.8	—	—	器物を受ける突起を補強するように口縁は厚く作られる。突起周辺に煤が付着する。明赤褐色。	SD ２
図 22 図版 28	24	沖縄産施釉陶器	碗	底部	—	—	—	内外面共に白化粧後に透明釉。見込みは蛇の目釉剥ぎ。胎土は浅黄橙色。	SD ４
	25	沖縄産施釉陶器	蓋	庇	—	—	—	外面に暗褐色釉。庇の先は無釉とする。	SD ４
	26	本土産近代磁器	小杯	口～底部	4.2	2.55	2.3	口唇から内面は透明釉。外面は青磁釉。畳付は無釉。	SD ４
	27	中国産青花	皿	底部	—	—	9.4	高台脇に２条の圏線。見込みに花卉文。畳付は無釉。	Ⅰ層
	28	中国産青花	小杯	口縁部	6.2	—	—	外面胴部に花卉文。口縁部に圏線。釉は少し濁る。	Ⅰ層
	29	沖縄産施釉陶器	碗	口縁部	—	—	—	口縁は僅かに外反。内外面共に白化粧。口唇の一部は釉欠け。胎土は浅黄橙色。	Ⅰ層
	30	沖縄産無釉陶器	壺	口縁部	13.8	—	—	外面は黒褐色、鈍い橙色。内面は鈍い赤褐色。口縁平坦面に重ね焼きの跡。	Ⅰ層
	31	沖縄産無釉陶器	壺 or 甕	底部	—	—	17.3	外面は暗赤褐色。内面は黒褐色。底面の一部に欠け。	Ⅰ層
	32	瓦質土器	鉢	口縁部	—	—	—	口縁を厚く作る。内外面共に黒色。断面は浅黄橙色で黒色粒、赤褐色粒、白色粒を多く含む。	Ⅰ層
図版 28	33	ガラス製品	瓶	口～底部	4.9	4.0	3.7	化粧瓶。底部に「JUJU」と「T ５」のエンボス。白色。	Ⅰ層
	34	ガラス製品	ビー玉	—	1.6			内部に赤褐色で十字型の模様。	Ⅰ層
	35	ガラス製品	おはじき	—	1.7	1.65	0.3	製作時の刻み目。内部に青色の模様。	Ⅰ層
図 22 図版 28	36	明朝系瓦	平瓦	広端部	—	—	—	内外面共に橙色。赤色粒含む。重量：79.1g。	Ⅰ層
図 22 図版 29	37	沖縄産施釉陶器	火入	口縁部	—	—	—	口唇は僅かに突出る。口縁内面から外面に灰釉。細かい貫入。	Ⅱ層
	38	石器	—	—	(4.8)	(5.3)	(1.5)	輝緑岩製。磨製石斧二次加工品。研磨。敲打痕。重量：65.3g。調整途中に折半、その後に敲石に転用か。	Ⅱ層
図版 29	39	石材		—	1.95	1.9	0.6	黒曜石。剥片。打撃。重量：1.6g。	Ⅱ層

表４　トレンチ２ 遺物出土状況一覧

種類 / 器種 / 材質 ＼ 出土地		SD 1	SD 2	SD 3	SD 4	SI 1			SI 1・2			SI 2		Ⅰ層	Ⅱ層	総　計
						①	②	東西サブトレ	③	④	南北サブトレ	⑤	⑥			
土器	壺										1					1
	深鉢	1				1	2	4	3	3	4					18
	器種不明	3	1		4	16	19	32	39	41	79	10	5	12	14	275
石器	磨製石斧		1			1					1				1	4
	磨石・敲石										1					1
	磨石										2					2
石材	黒曜石										3				1	4
	チャート								2	2			1	1	1	7
	石英							1							2	3
	砂岩	1			3	1	1	1			1	1		1	1	11
	片状砂岩					1					3					4
	千枚岩							1			1					2
	緑色千枚岩					1										1
	凝灰質緑色岩									1						1
	輝緑岩														1	1
	ヒン岩											3			2	5
	石灰岩													1		1
	不明								1							1
中国産青磁	碗		1											1		2
中国産白磁	小碗													2	1	3
中国産青花	碗														1	1
	皿													2		2
	小杯													1		1
中国産褐釉陶器	壺		1											1	3	5
	器種不明													1		1
タイ産褐釉陶器	壺				1										1	2
本土産近代陶器	皿													3		3
	器種不明													2	1	3
本土産近代磁器	碗													25	5	30
	小碗	1												8	1	10
	皿													4	1	5
	小皿													5	1	6
	小杯				1											1
	瓶													1		1
	急須													1	1	2
	器種不明													14	3	17
沖縄産施釉陶器	碗	11	12		8									51	42	124
	小碗	1		1	1									2		5
	皿	1			1									4		6
	盤													1		1
	瓶	1													2	3
	鉢		2											2	2	6
	火入														2	2
	蓋				1									1	2	4
	急須		2		1									4	2	9
	酒器													1		1
	袋物													1	2	3
	器種不明		1											1	4	6
沖縄産無釉陶器	小皿													1		1
	壺	6	23		3									18	10	60
	壺 or 甕	2	17		3									14	16	52
	鉢	1	2											3	1	7
	擂鉢	3	9		1									8	6	27
	甕		1													1
	袋物	1	2												1	4
	器種不明	3	2		2									13	4	24
陶質土器	鉢		2											2	2	6
	鍋 or 急須	4	2		1									6	5	18
	火炉				1										1	2
	火入													1	1	2
	蓋				1									2	2	5
	急須													4	1	5
	器種不明		5		1						1			5	6	18
瓦質土器	鉢													1		1
	コンロ		1													1
	器種不明		1											1		2
円盤状製品	本土産磁器白磁		1													1
	沖縄産施釉陶器													1		1
	沖縄産無釉陶器													2	1	3
	陶質土器														1	1
銭貨	青銅製品													1		1
青銅製品	砲弾片		1												2	3
	銃弾片													7		7
鉄製品	丸釘													17		17
	角釘	1														1
明朝系瓦	丸瓦													11	2	13
	平瓦	1	2											41	2	46
	丸平不明													26		26
瓦	－													3		3
ガラス製品	瓶													3		3
	ビー玉													1		1
	おはじき													1		1
土製品	器種不明													2		2
レンガ	－													3		3
総　計		42	92	1	34	21	22	39	45	47	97	14	6	352	164	976

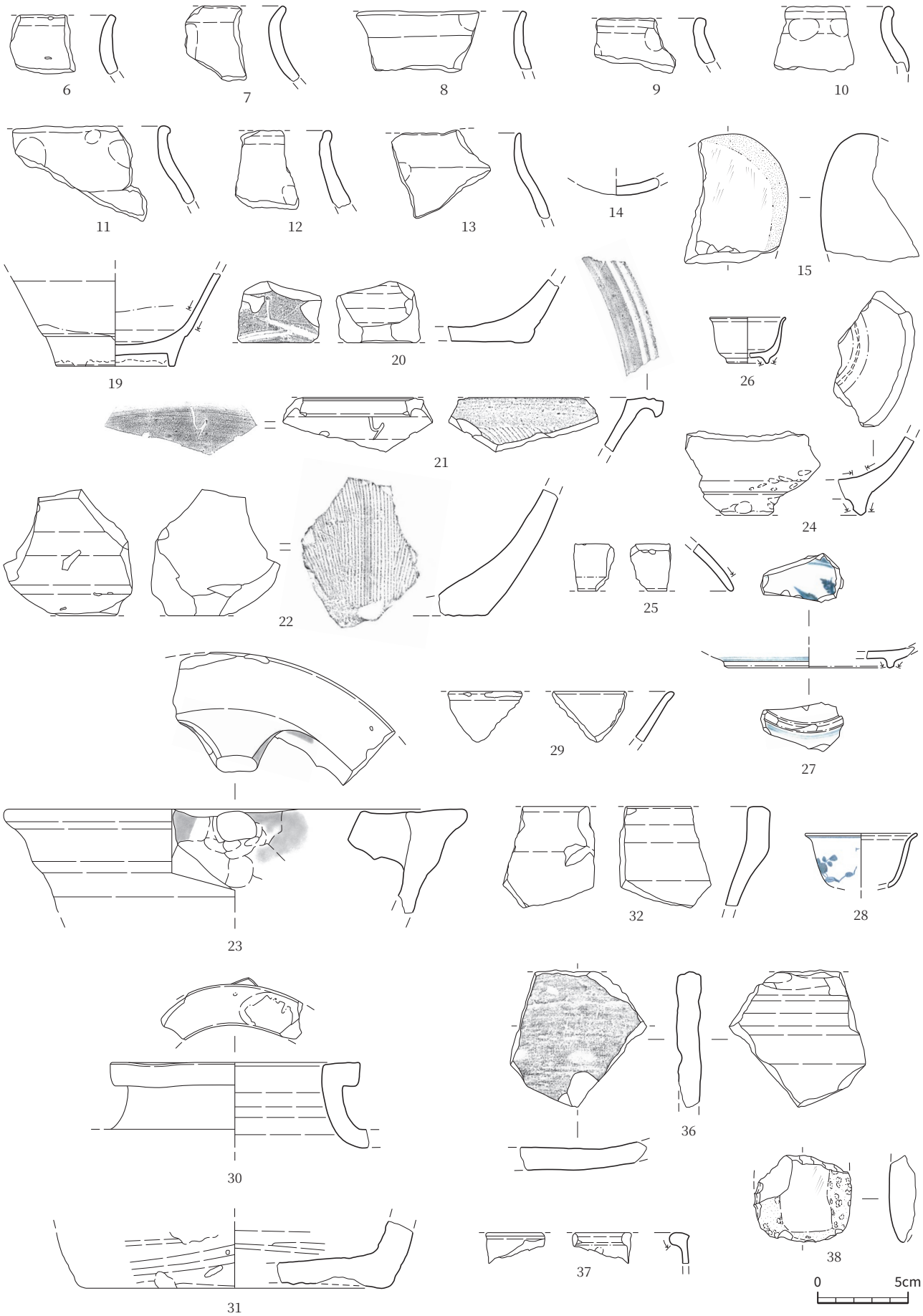


図 22　トレンチ２ 出土遺物

第３節　トレンチ３

試掘調査で喜友名東原第四遺跡と喜友名前原第三遺跡の間にピットが確認されていたことから、今回の調査では両遺跡の関連を確認するため東西方向と南北方向へトレンチを設定した。東西方向のトレンチは長さ 18 m、幅３m、南北方向のトレンチは長さ31 m、幅４mとした。

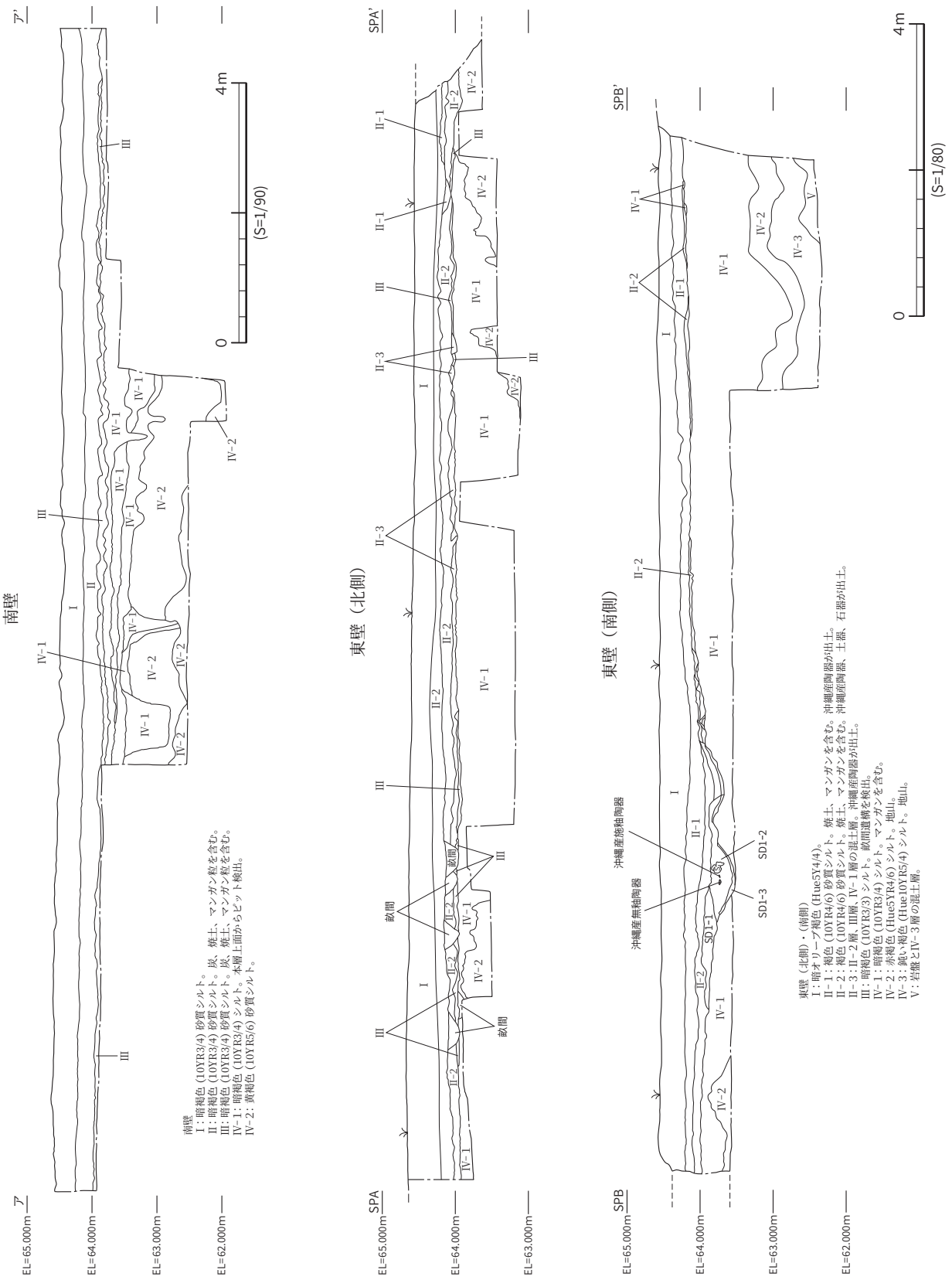


図 23　トレンチ３東・南壁土層断面図

層序

Ⅰ層からⅤ層を確認した。東西方向トレンチでは、Ⅰ層は約 30 ㎝、Ⅱ層は約 20 ㎝、Ⅲ層は約５㎝、Ⅳ層は 100 ㎝以上の厚さとなっている。Ⅳ層とⅤ層の境目は凹凸がある。南北方向のトレンチではⅠ層は 30 ～ 40 ㎝、Ⅱ層は約 30 ㎝、Ⅲ層は一部分での確認で約５㎝の厚さとなる。Ⅳ層は南側で２m以上の深さがある。

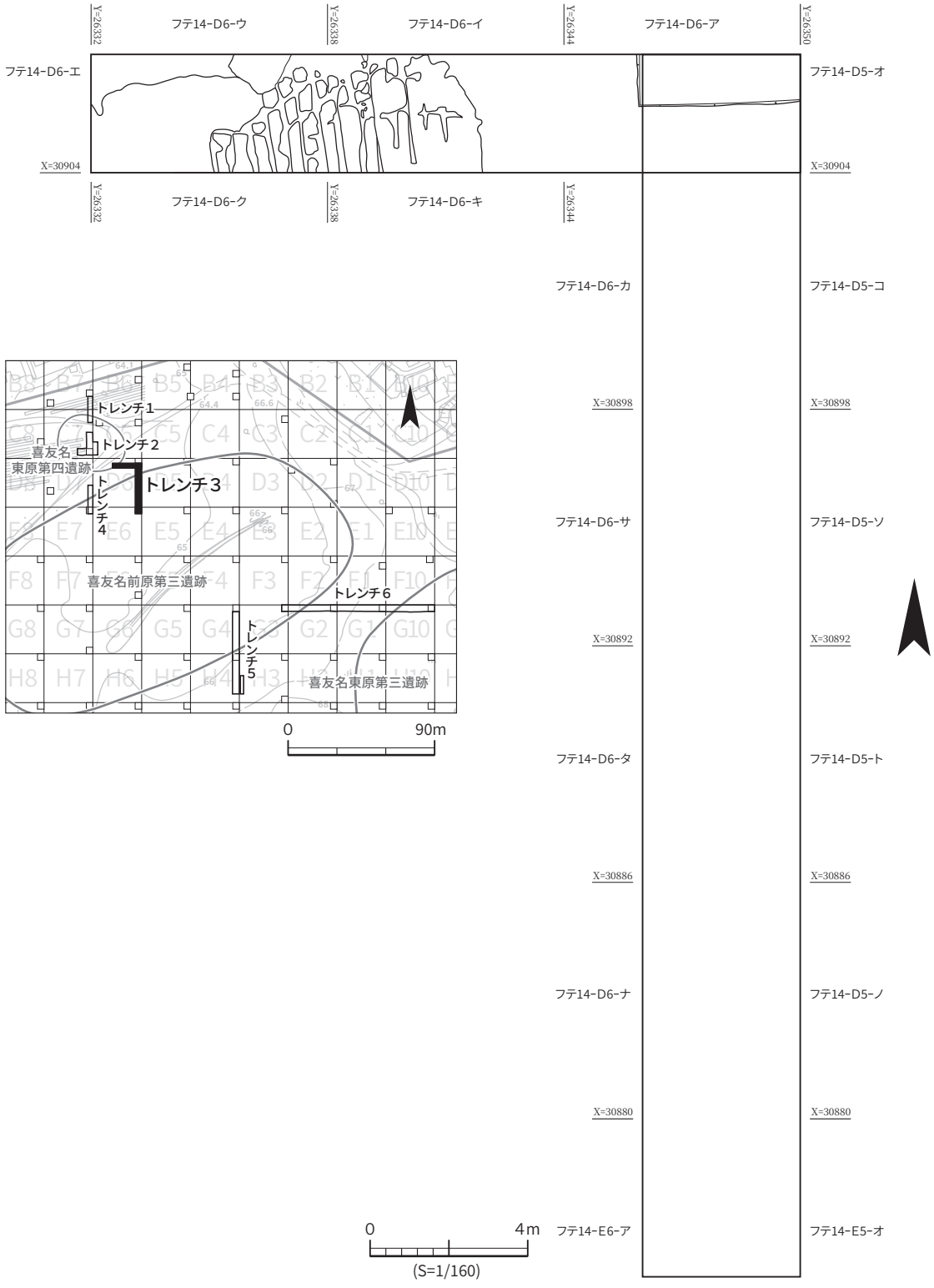


図 24　トレンチ３ 第１遺構面平面図

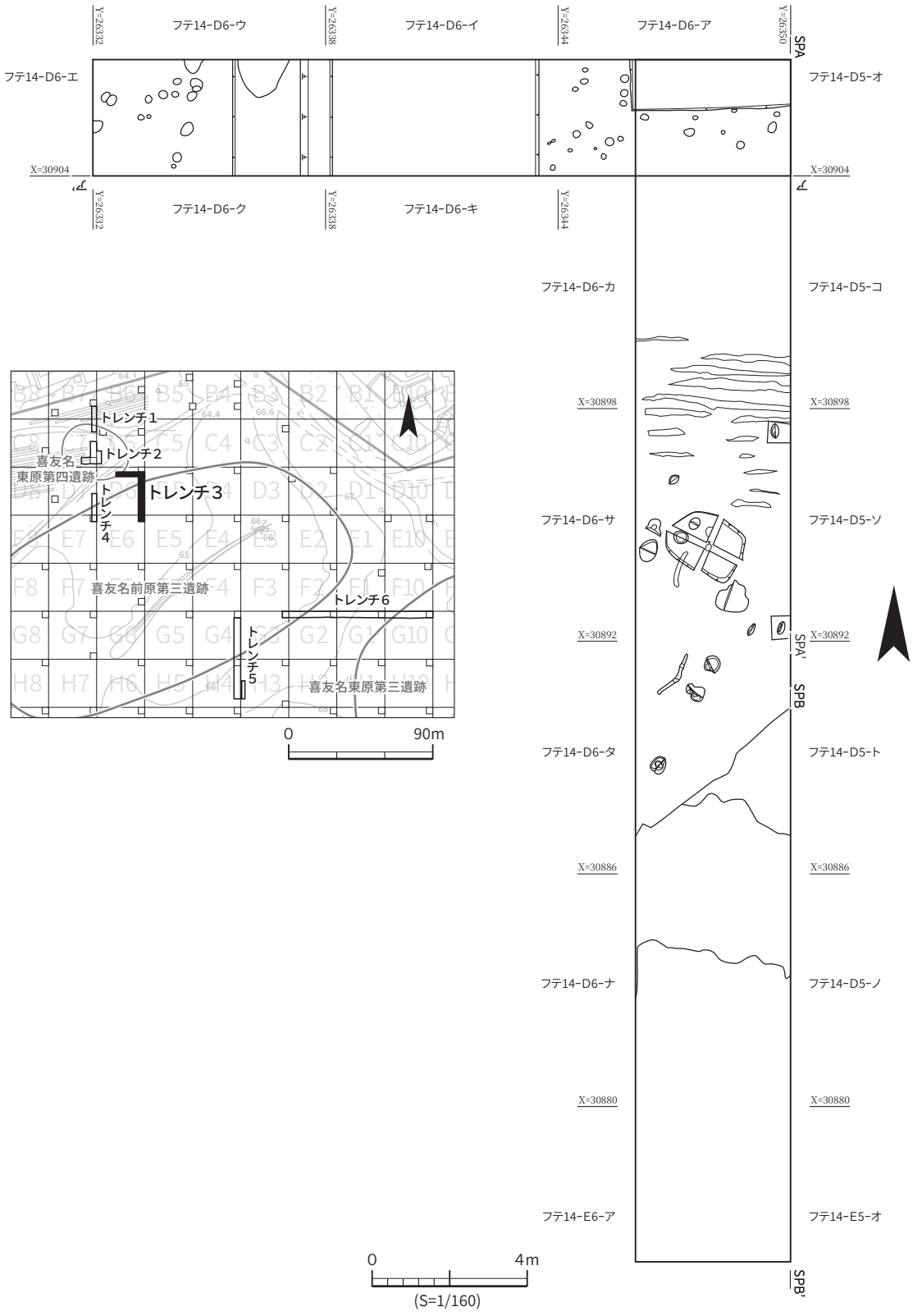


図 25　トレンチ３ 第２遺構面平面図

遺構

遺構面は２面あり、第１遺構面では、フテ 14-D6- イとフテ 14-D6- ウからⅢ層を掘り込む畝間跡を確認した。北から 10°西へ振った方向へ延びる。フテ 14-D6- カとフテ 14-D6- サではⅣ層を掘り込む溝跡を確認した。方向はほぼ東西方向となっている。第２遺構面では、フテ 14-D6- アとフテ 14-D6- ウのⅣ層上面では直径 10 ～ 20 ㎝ピット（SP）を多く検出している。年代測定では補正年代 900 ± 20BP の値となりグスク時代に相当することが分かった。フテ 14-D6- サの遺構（SX １）は竪穴の遺構と想定していたが、遺構埋土や遺物がなかったこと、年代測定では補正年代 12,570 ± 50BP と古い値となったことから遺構ではない可能性もある。フテ14-D6-タの遺構（SX ２）は円弧状遺構の一部と考えられ、年代測定では補正年代 1,910 ± 20BP の値となっている。

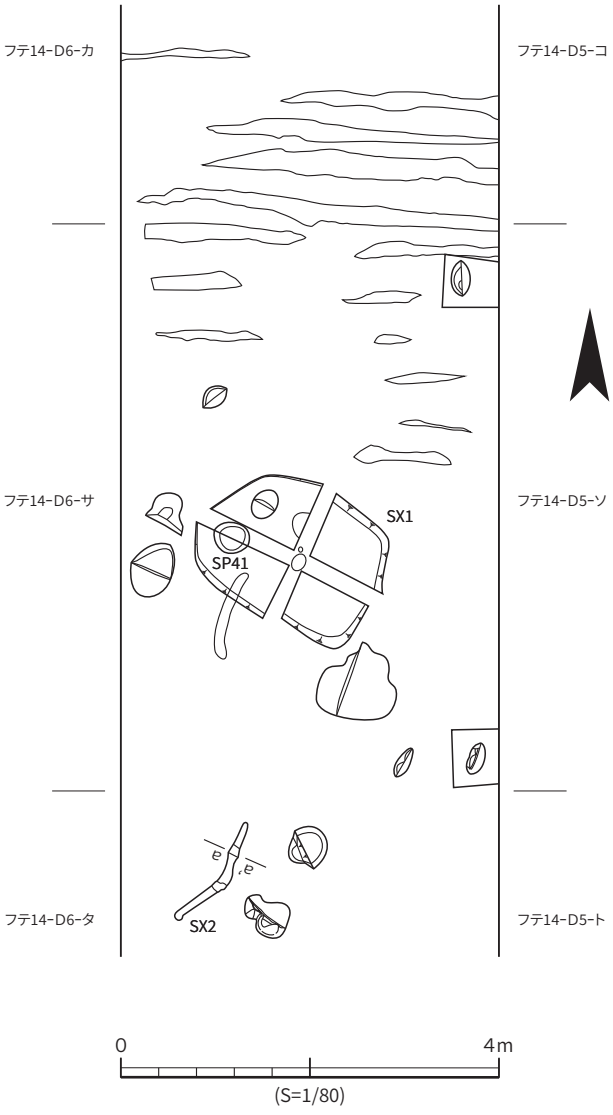
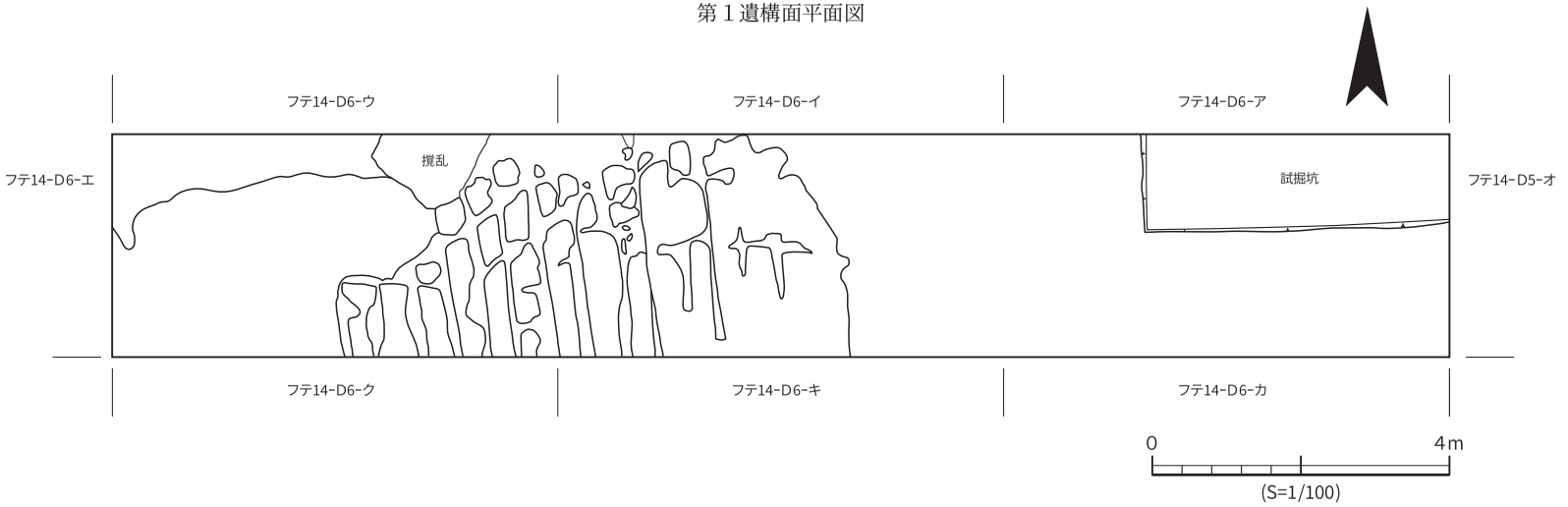


図 26　トレンチ３ SX 周辺遺構平面図

第１遺構面平面図



第２遺構面平面図

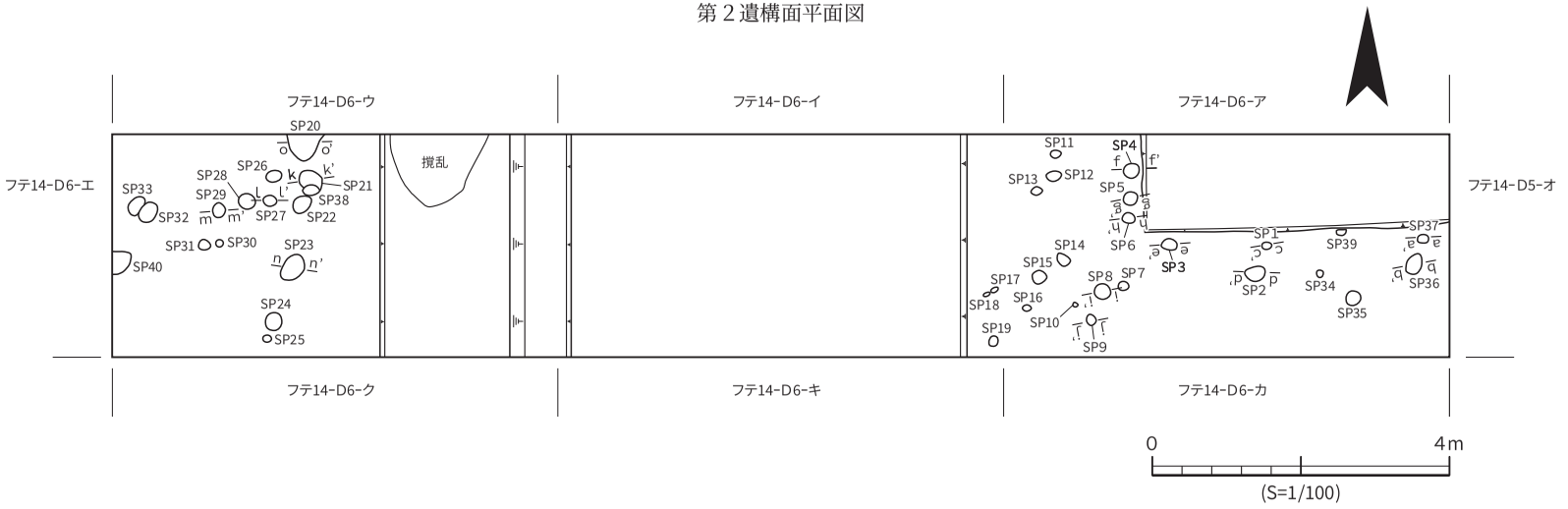
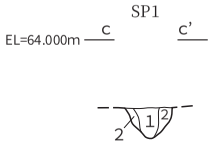
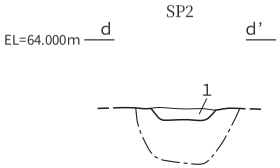


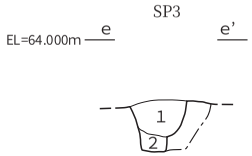
図 27　トレンチ３ 北側第１遺構面平面図、第２遺構面平面図



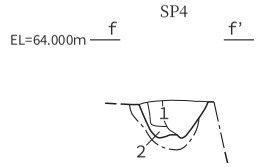
SP1
1：明褐色 (7.5YR5/6) シルト。
2：シルト。



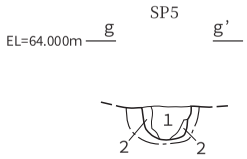
SP2
1：シルト。



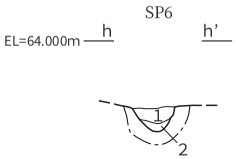
SP3
1：シルト。炭、焼土を含む。
2：明褐色 (7.5YR5/6) シルト。



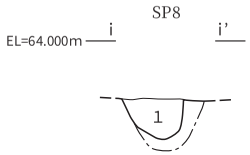
SP4
1：シルト。焼土を含む。
2：明褐色 (7.5YR5/6) シルト。



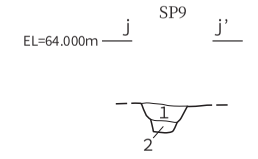
SP5
1：シルト。焼土を含む。
2：明褐色 (7.5YR5/6) シルト。



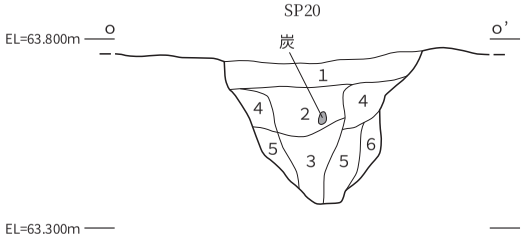
SP6
1：砂質シルト。
2：シルト。



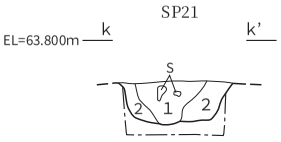
SP8
1：シルト。焼土を含む。



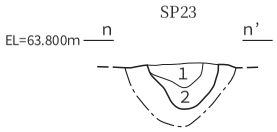
SP9
1：明褐色 (7.5YR5/6) シルト。
2：シルト。焼土を含む。



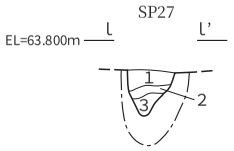
SP20
1：黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。焼土を含む。
2：暗褐色 (10YR3/3) シルト。炭、焼土を含む。
3：暗褐色 (10YR3/4) シルト。黄褐色（2.5Y5/4）土をブロック状に含む。
4：黒褐色 (10YR2/3) シルト。
5：黒褐色 (10YR3/1) シルト。
6：黒褐色 (10YR3/2) シルト。黄褐色（10YR5/6）土を含む。



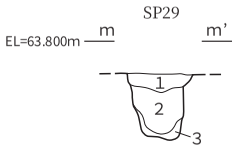
SP21
1：シルト。炭、焼土、石灰岩を含む。
2：シルト。炭を含む。



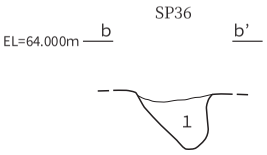
SP29
1：暗褐色 (10YR3/3) シルト。炭、焼土を含む。
2：黒褐色 (10YR2/3) シルト。炭を含む。



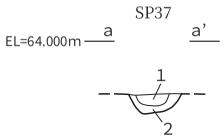
SP27
1：シルト。炭、焼土を含む。
2：シルト。炭を含む。
3：シルト。炭を含む。



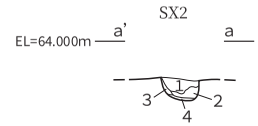
SP29
1：シルト。炭、焼土を含む。
2：シルト。
3：シルト。



SP36
1：明褐色 (7.5YR5/6) シルト 。



SP37
1：シルト。
2：シルト。



SX2
1：黒褐色シルト。炭、焼土を含む。
2：黒褐色シルト。
3：黒褐色シルト。2 層と類似。
4：地山。

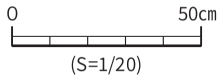


図 28　トレンチ 3 遺構土層断面図

遺物

沖縄産陶器、陶質土器を主とし、Ⅱ層から多く出土している。土器、石器等の古い時期の遺物はⅢ層及びⅣ-１層直上から多く出土している。

表５　トレンチ３ 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	番号	種類	器種	部位	法量（単位：cm） 口径 / 長軸	器高 / 短軸	底径 / 厚さ	観察事項	出土位置
	40	中国産青花	碗	口縁部	—	—	—	外面胴部に花卉文。内外口縁部に圏線。徳化窯。	SD 1
	41	沖縄産施釉陶器	鉢	口縁部	—	—	—	外面口唇部まで褐釉。口唇部から内面は白化粧後に透明釉。白化粧部分に貫入。	SD 1
	42	金属製品（青銅）	不明	—	—	—	0.2	両端を欠損。一部に捻じり。断面形は方形。青銅。重量：5.1g。	SD 1
	43	本土産近代磁器	小碗	底部	—	—	3.0	高台内に「岐 464」の統制番号。瀬戸・美濃系。	Ⅰ層
図 29 図版 29	44	銭貨	—	—	2.3	—	0.15	一銭。桐の文様。発行年号は見えない。重量：3.1g。	Ⅰ層
	45	中国産青磁	碗	口縁部	—	—	—	外面口縁に雷文。内外面に貫入。	Ⅱ層
	46	円盤状製品	—	—	5.6	4.7	1.0	内外面から剥離。重量：36.4g。	Ⅱ層
	47	明朝系瓦	平瓦	広端部	—	—	—	内外面共に橙色。赤色粒含む。重量：108.8g。	Ⅱ層
	48	石器		—	1.5	1.3	0.5	黒曜石製。 チョッピングツール。 打撃。 先端部を使用。 重量:0.8g。	Ⅱ層
	49	沖縄産施釉陶器	碗	口縁部	—	—	—	内外面に白化粧後、透明釉。胎土は浅黄橙色。	Ⅲ層
	50	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.9	口縁部分類：Ⅰa。胎土：暗褐色。粗粒。石英粒多量。焼成：やや良。文様なし。室川式。	Ⅲ層
図 29 図版 30	51	土器	深鉢	口縁部	—	—	1.0	口縁部分類:Ⅰb。胎土:赤褐色。粗粒。石英･砂岩粒多量。焼成:やや良。文様なし。カヤウチバンタ式。	Ⅲ層
	52	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.9	口縁部分類：Ⅰc。胎土：赤褐色。やや粗粒。石英・砂岩粒多量。焼成：やや良。文様なし。宇佐浜式。	Ⅳ-1 層直上

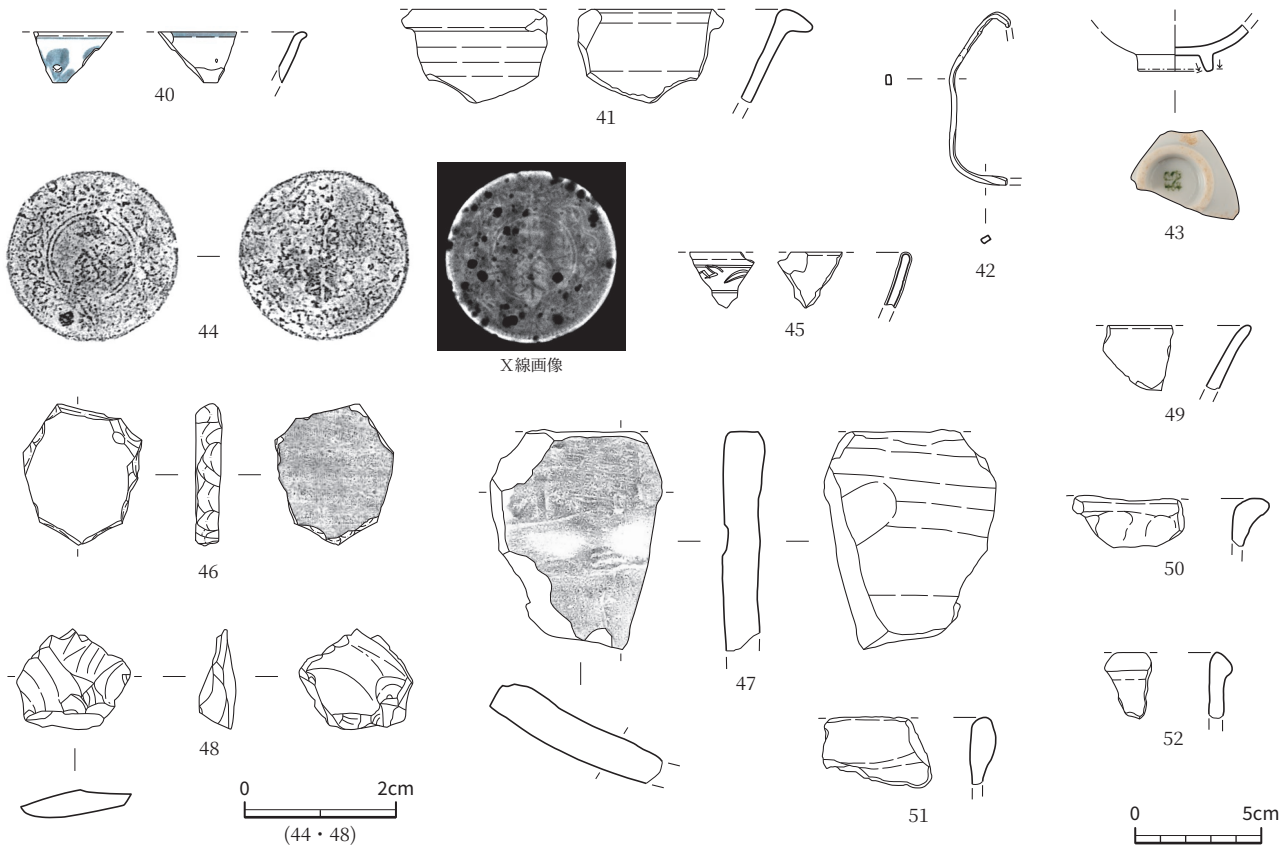


図 29　トレンチ３ 出土遺物

表６　トレンチ３ 遺物出土状況一覧

種類 / 器種 / 材質 ＼ 出土地		SD 1	SP	SX 2	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ-1 層直上	総　計
土器	深鉢					2	2	2	6
	器種不明		5		5	8	38	63	119
石器	チョッピングツール					1			1
	磨製石斧						1		1
	石鏃未製品						1		1
	チップ					1			1
石材	チャート					4	1		5
	石英					1			1
	砂岩				2	6			8
	細粒砂岩					2	1		3
	片状砂岩					1	4	2	7
	千枚岩					1			1
	粘板岩				1				1
	緑色千枚岩			1					1
	凝灰質緑色岩						2		2
	輝緑岩					2			2
	石灰岩				1				1
中国産青磁	碗				2	9	1		12
	皿				1				1
	器種不明						1		1
中国産白磁	碗					1	1		2
	小碗				1	3			4
	瓶				1				1
中国産青花	碗	1			5	10			16
	小碗				3	1			4
	皿					1	1		2
	器種不明					3			3
中国産青磁染付	盤				1				1
中国産褐釉陶器	壺				3	3	2		8
タイ産褐釉陶器	壺					4			4
	器種不明				2				2
本土産白磁	人形	1							1
本土産近代磁器	碗				3	1	1		5
	小碗				2	5			7
	皿					1			1
	蓋				1				1
	急須				2				2
沖縄産施釉陶器	碗	1			33	81	19		134
	小碗				4	6	1		11
	瓶				1	2	1		4
	壺					1			1
	鉢	1							1
	火入				1	1			2
	蓋				1	2			3
	急須				5	3	3		11
	酒器				1				1
	袋物	2			1	3			6
	器種不明				5	9	3		17
沖縄産無釉陶器	皿				1				1
	小皿					1			1
	瓶					1			1
	壺	2			12	19	8		41
	鉢				1	3			4
	擂鉢	1			6	8			15
	蓋					1	1		2
	器種不明	2			14	13	5		34
陶質土器	壺					1			1
	鉢				1	1			2
	鍋				2	4			6
	蓋	2			2	3			7
	急須				8	10	1		19
	器種不明	1			4	19	2		26
瓦質土器	器種不明					1			1
円盤状製品	沖縄産無釉陶器					1			1
	陶質土器				1				1
煙管	陶質土器					1			1
銭貨	青銅製品				1				1
青銅製品	針金				1	1	1		3
	不明	1							1
鉄製品	丸釘	1				1			2
	角釘				1				1
明朝系瓦	丸瓦				2				2
	平瓦				2	3			5
	丸平不明				8	4			12
瓦	－				2				2
土製品	器種不明				1				1
総　計		16	5	1	158	275	102	67	624

第４節　トレンチ４

喜友名前原第三遺跡の北側に遺跡範囲をまたぐように長さ 18 m、幅３mのトレンチを設定した。平成 25 年度では調査を終えることができなかったため、平成 26 年度に継続して調査を実施した。

層序

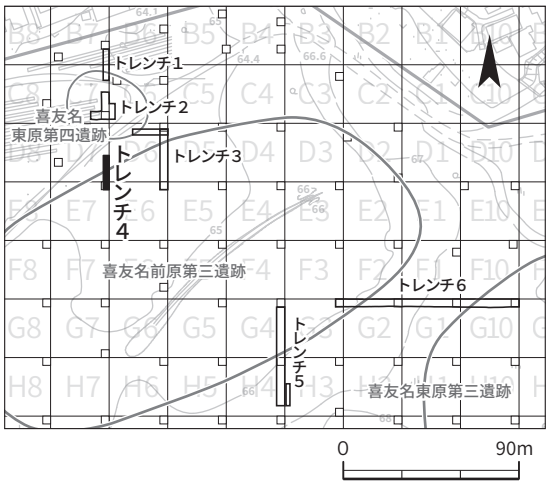
Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅳ層を確認した。Ⅰ層は 10 ～ 20 ㎝、Ⅱ層は約 25 ㎝の堆積となる。地表面から 40 ～ 50 ㎝でⅣ層を確認できる。

遺構

溝状遺構（SD）と性格不明な遺構（SX）を確認した。SD 1 は南北に延びている。遺構上部は拳大の石灰岩が集積しており、その下層は暗渠と考えられ、石灰岩を密に充填している。暗渠は西壁方向へ延びている。SD 2 及び SD 3 は東西方向に延びており、SD 2 は SD 1 の暗渠に当たり、SD 3 は SD 1 を切る。SD は出土遺物から近代に属すると考えられる。SX 1 は北側へ舌状に延びるが全体を把握できていないため性格は不明である。

遺物

沖縄産陶器、陶質土器を中心に石器、中国産陶磁器、青銅製品等が出土している。今回の調査では比較的大きめの遺物が多い。



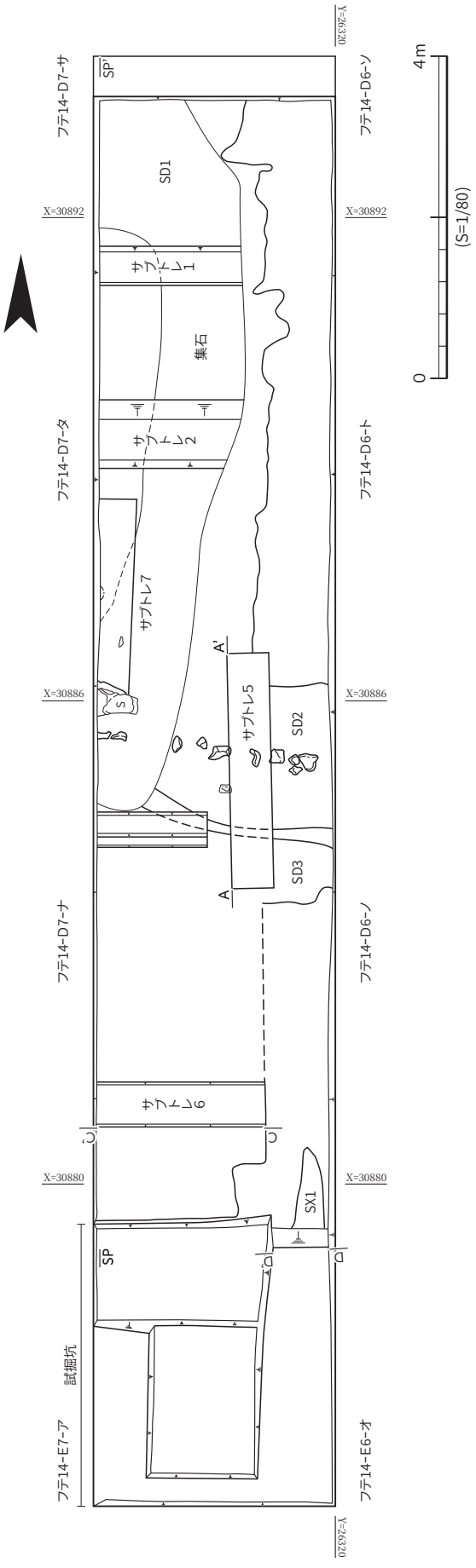
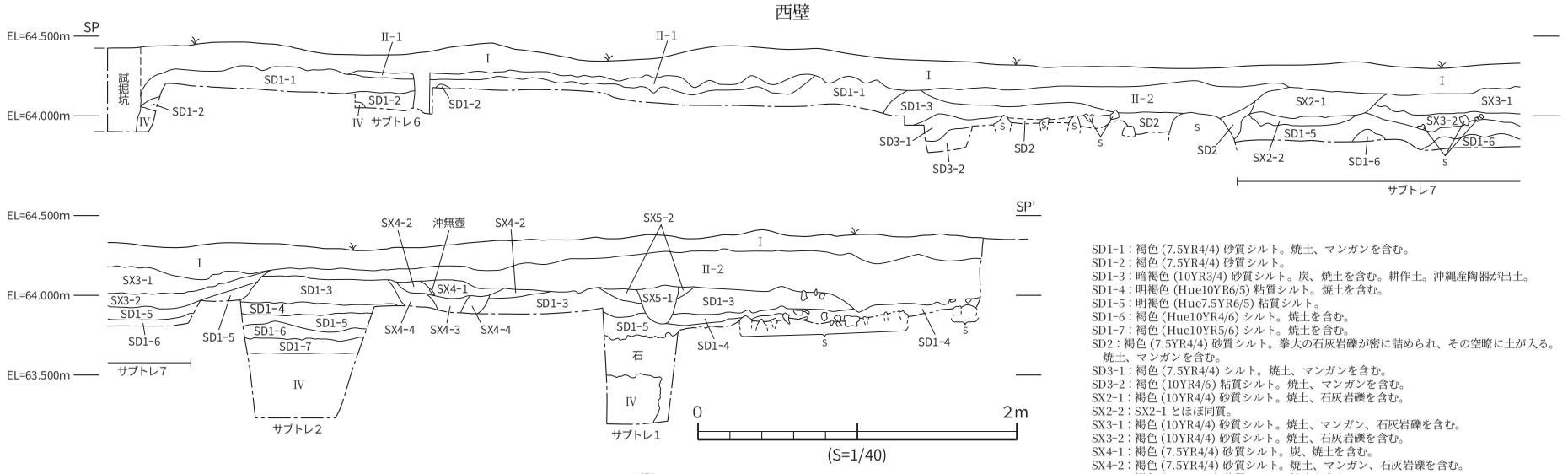


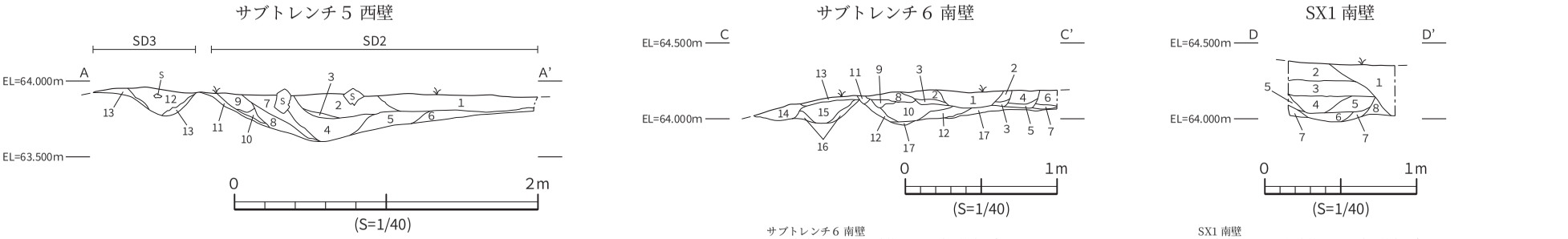
図 30　トレンチ４ 平面図



西壁
Ⅰ：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。石灰岩礫を含む。
Ⅱ-1：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。焼土、黒色粒を含む。
Ⅱ-2：暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト。炭、焼土を含む。耕作土。沖縄産陶器が出土。
Ⅳ：明赤褐色 (Hue5YR5/6) シルト。

SD1-1：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。焼土、マンガンを含む。
SD1-2：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。
SD1-3：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。耕作土。沖縄産陶器が出土。
SD1-4：明褐色 (Hue10YR6/5) 粘質シルト。焼土を含む。
SD1-5：明褐色 (Hue7.5YR6/5) 粘質シルト。
SD1-6：褐色 (Hue10YR4/6) シルト。焼土を含む。
SD1-7：褐色 (Hue10YR5/6) シルト。焼土を含む。
SD2：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。拳大の石灰岩礫が密に詰められ、その空隙に土が入る。焼土、マンガンを含む。
SD3-1：褐色 (7.5YR4/4) シルト。焼土、マンガンを含む。
SD3-2：褐色 (10YR4/6) 粘質シルト。焼土、マンガンを含む。
SX2-1：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。焼土、石灰岩礫を含む。
SX2-2：SX2-1 とほぼ同質。
SX3-1：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。焼土、マンガン、石灰岩礫を含む。
SX3-2：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。焼土、石灰岩礫を含む。
SX4-1：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
SX4-2：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。焼土、マンガン、石灰岩礫を含む。
SX4-3：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。焼土を含む。
SX4-4：褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト。焼土、マンガンを含む。
SX5-1：褐色 (7.5YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。沖縄産陶器が出土。
SX5-2：褐色 (7.5YR4/4) シルト。炭、焼土を含む。
石：握り拳程度の大きさの石灰岩礫が密に詰まる。

図 31　トレンチ 4 西壁土層断面図



サブトレンチ5 西壁
1：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
2：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。上部中央に 10cm 大の石灰岩礫。
3：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
4：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
5：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
6：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
7：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭、焼土を含む。上部中央に 10cm 大の石灰岩礫。
8：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭、焼土、石灰岩を含む。
9：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
10：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
11：明褐色 (10YR5/6) シルト。炭、焼土を含む。マージ主体。
12：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土、石灰岩を含む。
13：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭、焼土を含む。

サブトレンチ6 南壁
1：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
2：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭を含む。
3：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。
4：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
5：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。
6：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
7：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭を含む。
8：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
9：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭を含む。
10：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
11：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
12：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭を含む。
13：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
14：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭を含む。
15：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭を含む。
16：明褐色（7.5YR5/8）シルト。炭を含む。マージ主体。
17：明褐色（7.5YR5/8）シルト。炭を含む。マージ主体。

SX1 南壁
1：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
2：暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。炭を含む。
3：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土、石灰岩を含む。
4：褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。炭、焼土、石灰岩を含む。
5：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭、焼土を含む。
6：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭を含む。
7：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭を含む。
8：褐色 (10YR4/6) 砂質シルト。炭を含む。

図 32　トレンチ 4 西壁・南壁土層断面図

表７　トレンチ４ 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	番号	種類	器種	部位	法量（単位：cm） 口径 / 長軸	器高 / 短軸	底径 / 厚さ	観察事項	出土位置
	53	本土産近代磁器	小碗	口～底部	7.95	3.7 ～ 3.6	3.2	クロム青磁。外面に蓮弁文。外面高台から高台内は露胎。	Ⅱ層
	54	沖縄産施釉陶器	碗	口～底部	13.9	6.45	6.6	白化粧後に透明釉。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付は露胎。	Ⅱ層
	55	沖縄産施釉陶器	小碗	底部	—	—	3.8	白化粧後に透明釉。胴部に花文。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付は露胎。	SD 1
	56	沖縄産施釉陶器	皿	口～底部	13.4	3.7	6.6	外面は褐釉。内面は白化粧後に透明釉。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付は露胎。	SD 1
図 33 図版 30	57	沖縄産施釉陶器	火入	底部	—	—	11.0	外面は黒釉。内面及び外面腰部以下は露胎。胎土は緻密。	Ⅱ層
	58	沖縄産施釉陶器	蓋	庇	庇径 11.9	—	袴径 9.1	外面は黒釉。内面は露胎となる。	SD 1
	59	陶質土器	火炉	口縁部	—	—	—	器物を受ける突起に煤が付着。突起の先端は平坦に作られる。	SD 1
	60	沖縄産施釉陶器	碗	口～底部	13.2	6.1	7.4	内外面に灰釉。胎土は浅黄橙色で緻密。	SD 1
	61	沖縄産施釉陶器	碗	底部	—	—	6.7	内外面に褐釉。見込みは蛇の目釉剥ぎで中心の釉は薄い。	SD 1
	62	沖縄産施釉陶器	小碗	口～底部	8.4	4.4	3.8	外面は褐釉。内面は白化粧後に透明釉。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付は露胎。見込み付近に焼成時の付着物あり。	SD 1
	63	沖縄産施釉陶器	小碗	口～底部	8.3	4.1	4.0	白化粧後に透明釉。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付は露胎。	SD 1
	64	沖縄産施釉陶器	小碗	口縁部	7.6	—	—	白化粧後に透明釉。外面は蓮弁形に面取り。見込みは蛇の目釉剥ぎ。	SD 1
	65	沖縄産施釉陶器	鉢	口縁部	23.3	—	—	外面は白化粧後に透明釉。内面は白化粧後に褐釉、緑釉を掛ける。	SD 1
	66	沖縄産施釉陶器	鉢	底部	—	—	9.8	外面は褐釉。内面は白化粧後に透明釉。見込みは蛇の目釉剥ぎ。	SD 1
図 33 図版 31	67	沖縄産施釉陶器	壺	口縁部	8.0	—	—	内外面共に褐釉。口縁は露胎。	SD 1
	68	沖縄産施釉陶器	急須	底部	—	—	6.6	内外面共に白化粧後に透明釉。外面は底部が露胎。見込みは蛇の目釉剥ぎ。	SD 1
	69	沖縄産無釉陶器	鉢	口縁部	37.0	—	—	口唇部を肥厚させる。外面に轆轤跡。赤色粒含む。	SD 1
	70	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	口縁平坦部外側に沈線、内側は盛り上げて沈線状を作る。外面は褐灰色。内面は明赤褐色。	SD 1
	71	沖縄産無釉陶器	壺	胴部	—	—	—	４条の沈線と７条一組の波状文。外面は黒褐色。内面は明赤褐色。	SD 1
	72	沖縄産無釉陶器	甕	底部	—	—	—	内面に轆轤調整跡。褐灰色。	SD 1
	73	陶質土器	鉢	底部	—	—	6.9	胴部に沈線。外面を僅かに窪ませて底部を作る。外面は橙色。内面は鈍い橙色。	SD 1
	74	陶質土器	火炉	把手	—	—	—	指頭による調整跡。外面は褐灰色。内面は明赤褐色。	SD 1
図 33 図版 32	75	陶質土器	蓋	摘み	摘み 7.8	—	—	外面に白色圏線跡。内側に轆轤跡。摩耗が激しい。内外面共に橙色。	SD 1
	76	瓦質土器	コンロ	不明	—	—	—	指頭による調整跡。突起部に煤が付着。	SD 1
	77	金属製品（青銅）	指輪	—	1.8	1.15	0.25	四君子（竹、菊、梅、蘭）の文様。重量：3.4g。	SD 2
	78	沖縄産無釉陶器	擂鉢	底部	—	—	10.2	底部に工具による調整跡。内外面共に明赤褐色。	Ⅱ層
	79	石器	—	—	（4.4）	（3.1）	（1.45）	緑色片岩製。磨製石斧。研磨。重量：21.1 ｇ。	Ⅱ層
図 34 図版 32	80	沖縄産無釉陶器	甕	口縁部	—	—	—	外面口縁部に２条の圏線。内面口縁部を僅かに凹ます。外面は鈍い褐色。内面は明赤褐色。	Ⅱ層
	81	円盤状製品	—	—	2.5	2.5	1.0	沖縄産無釉陶器を利用。内外面から剥離。内外面共に褐灰色。重量：9.6g。	Ⅱ層
	82	銭貨	—	—	1.6	—	0.15	表面に菊の紋章、富士、「一銭」。裏面に「大日本」、「一」、「昭和十六年」。素材はアルミ。重量：0.7g。	Ⅱ層
	83	沖縄産無釉陶器	壺	口縁部	16.0	—	—	内面に調整跡。外面は褐灰色。内面は赤褐色。	Ⅱ層

表８　トレンチ４ 遺物出土状況一覧

種類 / 器種 / 材質 ＼ 出土地		SD 1	SD 2	I 層	II 層	総　計
石器	磨製石斧				1	1
	磨石・敲石				2	2
	磨石			1		1
	砥石				1	1
石材	チャート				1	1
	砂岩			12		12
中国産青磁	碗	1		1		2
中国産白磁	小碗			1	5	6
	皿			1		1
	蓋				1	1
中国産青花	碗				4	4
中国産褐釉陶器	壺	1		1	3	5
本土産近代磁器	碗				1	1
	小碗	1		2	1	4
	小皿			1		1
	急須	1				1
沖縄産施釉陶器	碗	49		20	66	135
	小碗	13		6	10	29
	皿	2		1	2	5
	瓶	1			3	4
	壺	1		2		3
	鉢	11		3	12	26
	鍋	1		1	1	3
	火炉			1		1
	火入	2			4	6
	蓋	1			3	4
	急須	4		10	10	24
	酒器	1			1	2
	袋物	1		1	3	5
	器種不明	1		1	4	6
沖縄産無釉陶器	瓶			1	1	2
	瓶 or 壺	9		1	4	14
	壺	29		8	19	56
	壺 or 甕	7		1	2	10
	鉢	4		2	3	9
	擂鉢	16		12	19	47
	甕	4			3	7
	鍋				1	1
	火入			1		1
	砥石				1	1
	器種不明	5		12	13	30
陶質土器	鍋	15		9	9	33
	鉢	4		1	1	6
	壺 or 鉢	3				3
	火炉	6				6
	火入				1	1
	蓋	4		1	6	11
	急須	25		3	12	40
	器種不明	10		10	23	43
瓦質土器	壺	1				1
	壺 or 鉢				1	1
	鉢	1			1	2
	コンロ	5			1	6
	器種不明	5		2	10	17
円盤状製品	本土産近代陶器			2	1	3
	沖縄産施釉陶器				1	1
	沖縄産無釉陶器	1		3	1	5
煙管	沖縄産施釉陶器				1	1
銭貨	アルミ				1	1
青銅製品	指輪		1			1
鉄製品	丸釘			5		5
	フック			1		1
	ナット			1		1
	不明	1				1
明朝系瓦	丸瓦	2			1	3
	平瓦	4		2	1	7
	丸平不明	2		5	12	19
ガラス製品	瓶				1	1
不明	茶器				1	1
総　計		255	1	149	291	696

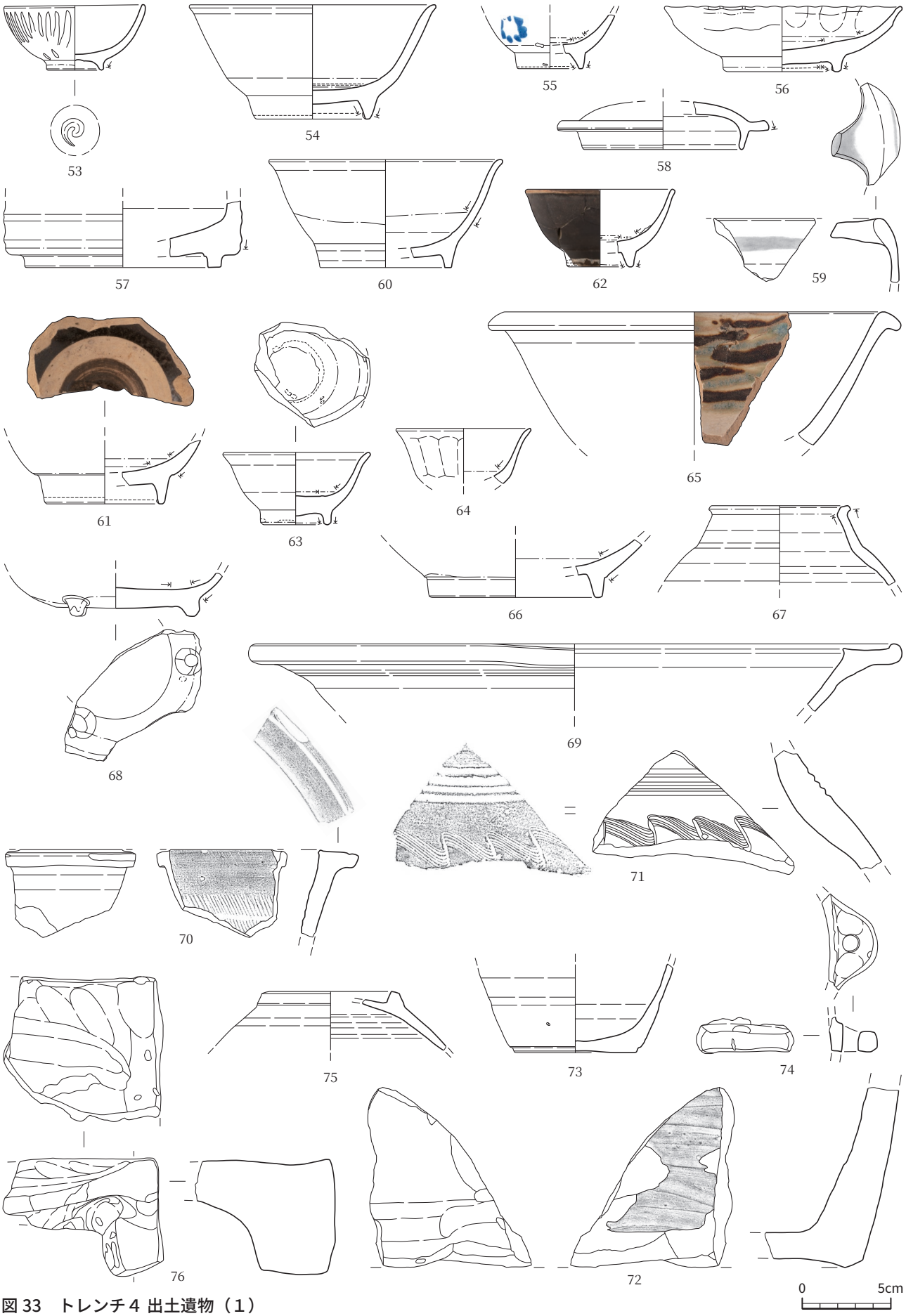


図 33　トレンチ４ 出土遺物（１）

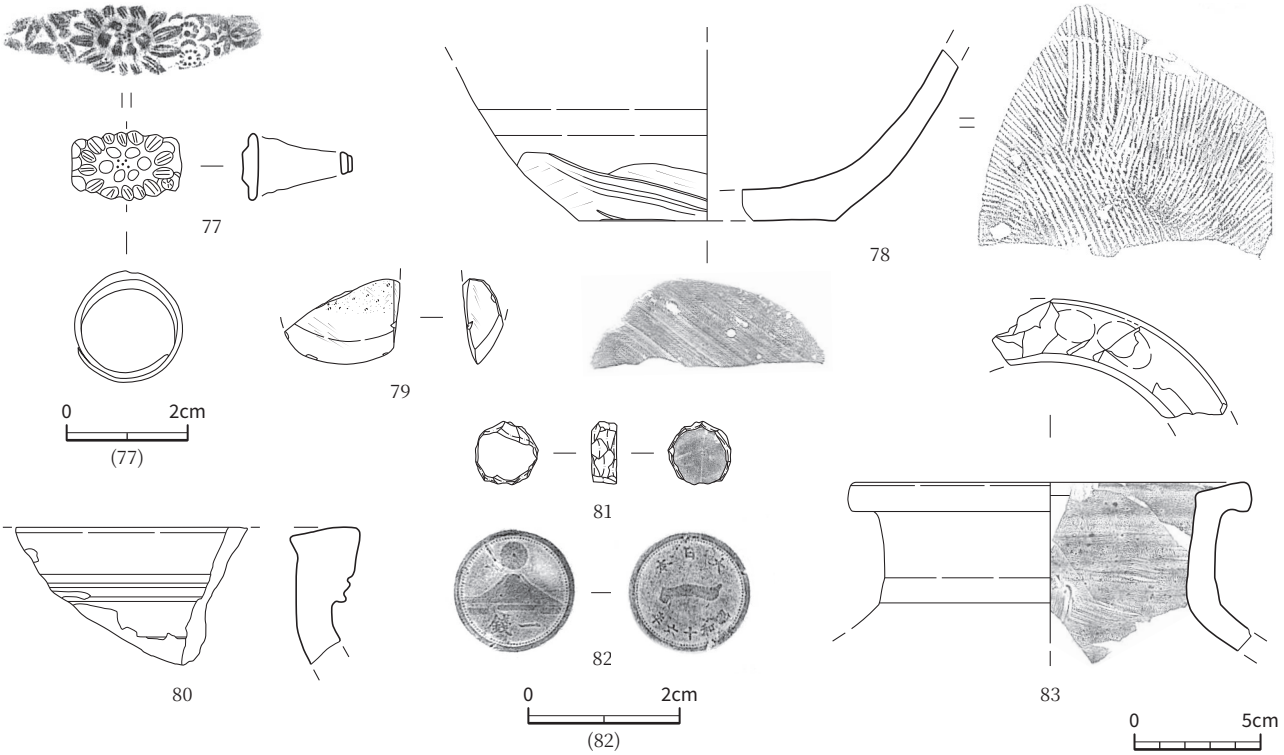


図 34　トレンチ４ 出土遺物（２）

第５節　トレンチ５

平成 17 年度の 5-1 トレンチ（図 11）の西端から南側に向けて長さ 55.6 m、幅４mのトレンチを設定して調査をはじめ、途中で遺構の広がりを確認するため長さ約 11 m、幅２mのトレンチを南端の東側に設定した。

層序

Ⅰ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層を確認した。Ⅰ層は最大 40 ㎝堆積し、南端に向けて浅くなる。

Ⅱ層は 20 ～ 30 ㎝の厚さで全体的に堆積しており、２つに細分できる。Ⅲ層は南側で部分的に確認しており非常に薄い。遺構の埋土の可能性もある。

遺構

北側から中央にかけて北から 60°東へ振った方向へ延びる溝状遺構（SD）と北から 30°西へ振った方向へ延びる SD が直交している。埋土はⅡ層のため耕作に関連した遺構と考えられる。南側には畝間跡が狭い範囲で確認できる。調査範囲の南端では土抗または竪穴建物跡（SX）及びピット（SP）があり、土器が出土していることからグスク時代以前の可能性がある。

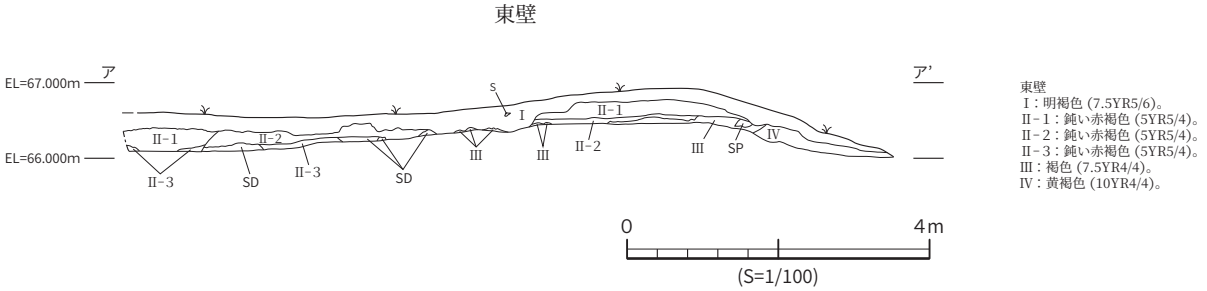


図 35　トレンチ５ 東壁土層断面図

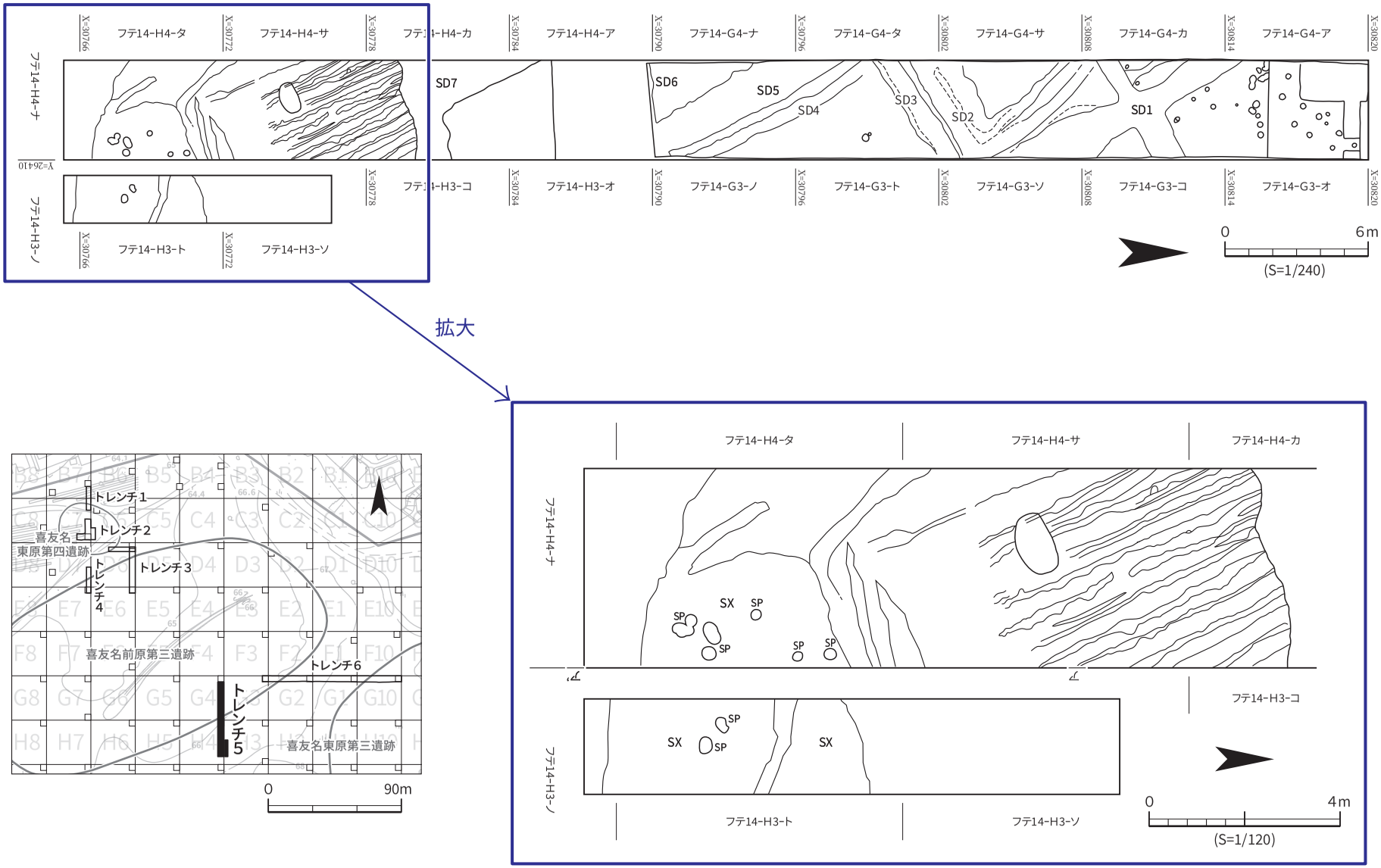


図 36　トレンチ５ 平面図

遺物

沖縄産陶器、陶質土器がⅠ層、Ⅱ層から多く出土し、　　石器、石製品、中国産陶磁器等も出土している。

表９　トレンチ５ 遺物出土状況一覧

種類 / 器種 / 材質 ＼ 出土地		SD １	SD ２	SD ５	SD ６	SX 内	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	総　計
土器	深鉢					2	2	5		9
石器	チップ							1		1
	磨石・敲石						1	1		2
	磨製石斧							1		1
石製品	石盤						1			1
石材	チャート						2			2
	石英						3			3
	不明						2	8		10
中国産青磁	碗							1		1
	器種不明						1			1
中国産白磁	碗							3		3
	小碗	1	1	1			3	2		8
中国産青花	碗		1				9	15		25
	皿						1			1
	器種不明							4		4
中国産褐釉陶器	壺						5	7		12
タイ産褐釉陶器	壺							2		2
本土産陶器	皿						1			1
	小皿						1			1
	器種不明						1	1		2
本土産磁器	皿						1			1
本土産近代陶器	器種不明						1			1
本土産近代磁器	碗							4		4
	小碗						3	3		6
	皿						2	1		3
沖縄産施釉陶器	碗	1		1			90	80		172
	小碗						6	3		9
	皿						5	3		8
	小皿						1			1
	瓶			1			1		1	3
	中壺							1		1
	鉢						8	3		11
	鍋							1		1
	火炉							1		1
	火取						1			1
	蓋						1	2		3
	急須						3	5		8
	袋物	1			1		13	20		35
	器種不明						3	9		12
沖縄産無釉陶器	瓶						1	2		3
	壺				1		21	13		35
	鉢						4	6		10
	擂鉢				1		18	8		27
	袋物						2	1		3
	器種不明	2					22	21		45
陶質土器	鉢							1		1
	鍋						5	9		14
	火炉						5	5		10
	蓋						7	9		16
	急須	1					10	9	1	21
	器種不明						12	12		24
瓦質土器	器種不明						4	4		8
円盤状製品	本土産近代磁器							1		1
煙管	沖縄産無釉陶器							1		1
青銅製品	手榴弾							1		1
鉄製品	丸釘						1	4		5
	鋲						2			2
明朝系瓦	丸瓦						1	1		2
	平瓦						10			10
	丸平不明						2	3		5
不明	鉢							1		1
総　計		6	2	3	3	2	299	299	2	616

表 10　トレンチ５ 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	番号	種類	器種	部位	法量（単位：cm） 口径 / 長軸	器高 / 短軸	底径 / 厚さ	観察事項	出土位置
	84	中国産白磁	小碗	口縁部	—	—	—	口縁部は外反。口唇は露胎。徳化窯。	SD 2
	85	中国産白磁	小碗	口～底部	7.8	4.3	3.4	口縁部は外反。口唇、畳付及び高台内は露胎。徳化窯。	SD 5
	86	陶質土器	急須	口縁部	—	—	—	外面に圏線跡。内面は調整跡。外面は明褐色。内面は明赤褐色。	Ⅰ層
	87	沖縄産施釉陶器	碗	口縁部	14.2	—	—	口縁部は僅かに外反。内外面共に白化粧後に透明釉。胎土は灰黄褐色。	Ⅱ層
	88	陶質土器	蓋	庇	—	—	—	庇は僅かに厚くなる。内外面共に摩耗が激しい。内外面共に橙色。	Ⅱ層
図 37 図版 33	89	土器	深鉢	口縁部	—	—	0.9	口縁部分類：Ⅱ a。胎土：赤褐色。やや粗粒。石英・砂岩粒多量。焼成：やや良。文様なし、仲原式。	Ⅱ層
	90	石器	—	—	1.85	1.45	1.15	チャート製。チップ。打撃。重量：2.8g。	Ⅱ層
	91	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	外面口縁部が下側に突出る。外面胴部は段々に成形される。外面は暗赤褐色。内面は明赤褐色。	Ⅰ層
	92	陶質土器	火炉	口縁部	—	—	—	口縁部に２条の沈線。内外面共に橙色。	Ⅰ層
	93	石器	—	—	4.95	3.5	3.4	砂岩製。 磨石 ・ 敲石。 研磨 ・ 磨り痕。 重量：43.7 g。	Ⅰ層
	94	中国産青花	碗	口縁部	—	—	—	外面胴部に波文。口縁内面と見込みに圏線。福建・広東系。	Ⅰ層
図 37 図版 34	95	石製品	—	—	（4.6）	（2.15）	0.3	粘板岩製。石盤。研磨。重量：4.7g。	Ⅰ層
	96	明朝系瓦	平瓦	狭端部	—	—	1.2	凹面に布目圧痕。内外面共に橙色。重量：122.8g。	Ⅰ層

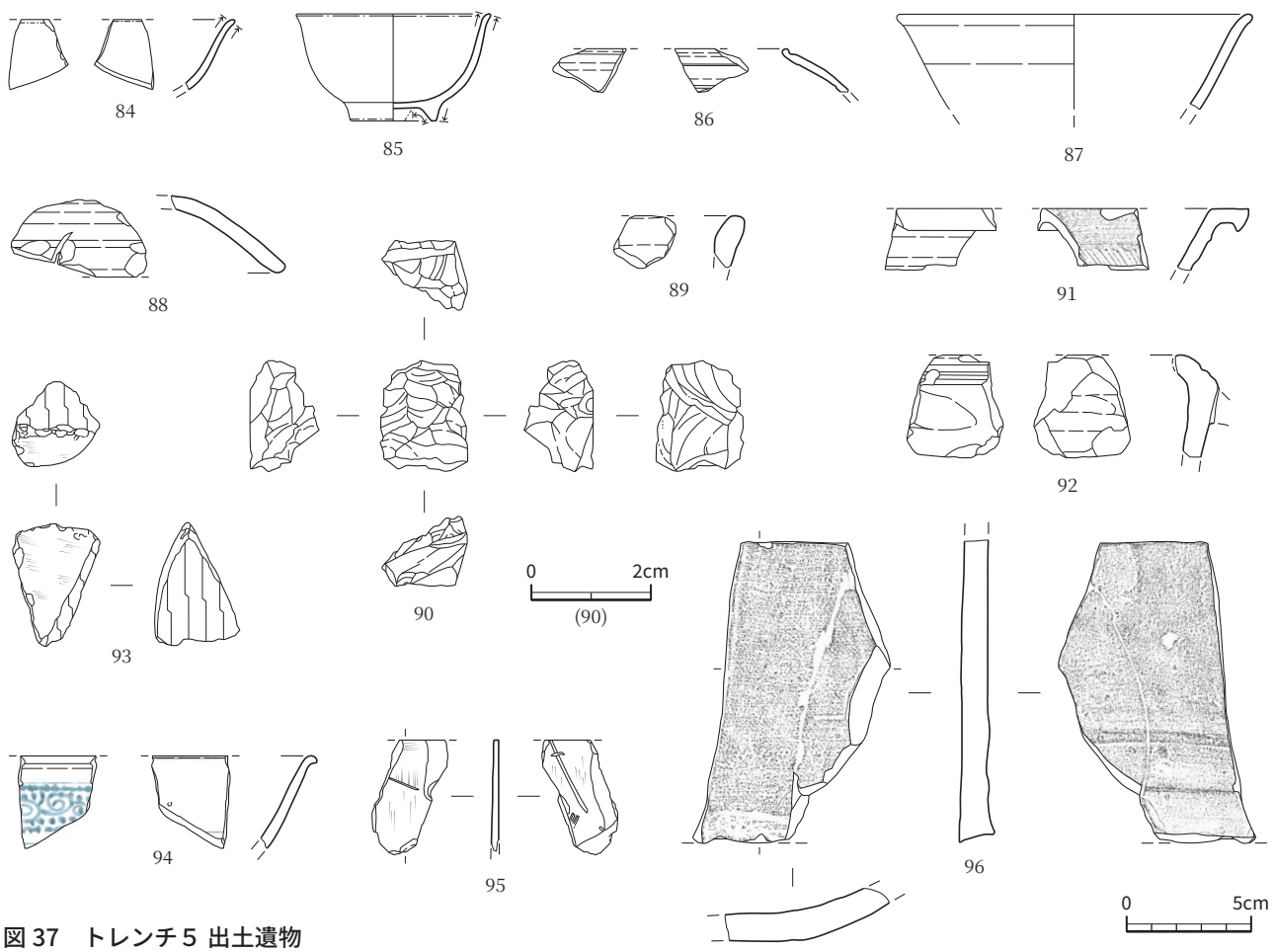


図 37　トレンチ５ 出土遺物

第６節　トレンチ６

喜友名前原第三遺跡と喜友名東原第三遺跡にかかる部分に東西方向へ長さ 94 m、幅４mのトレンチを設定し調査を行った。

層序

本トレンチは西側から東側に向かって高くなり、西端地表面の標高が約 65.7 mなのに対し、東端地表面の標高は約 67.6 mで２m程の高低差がある。Ⅰ層、Ⅱ層、

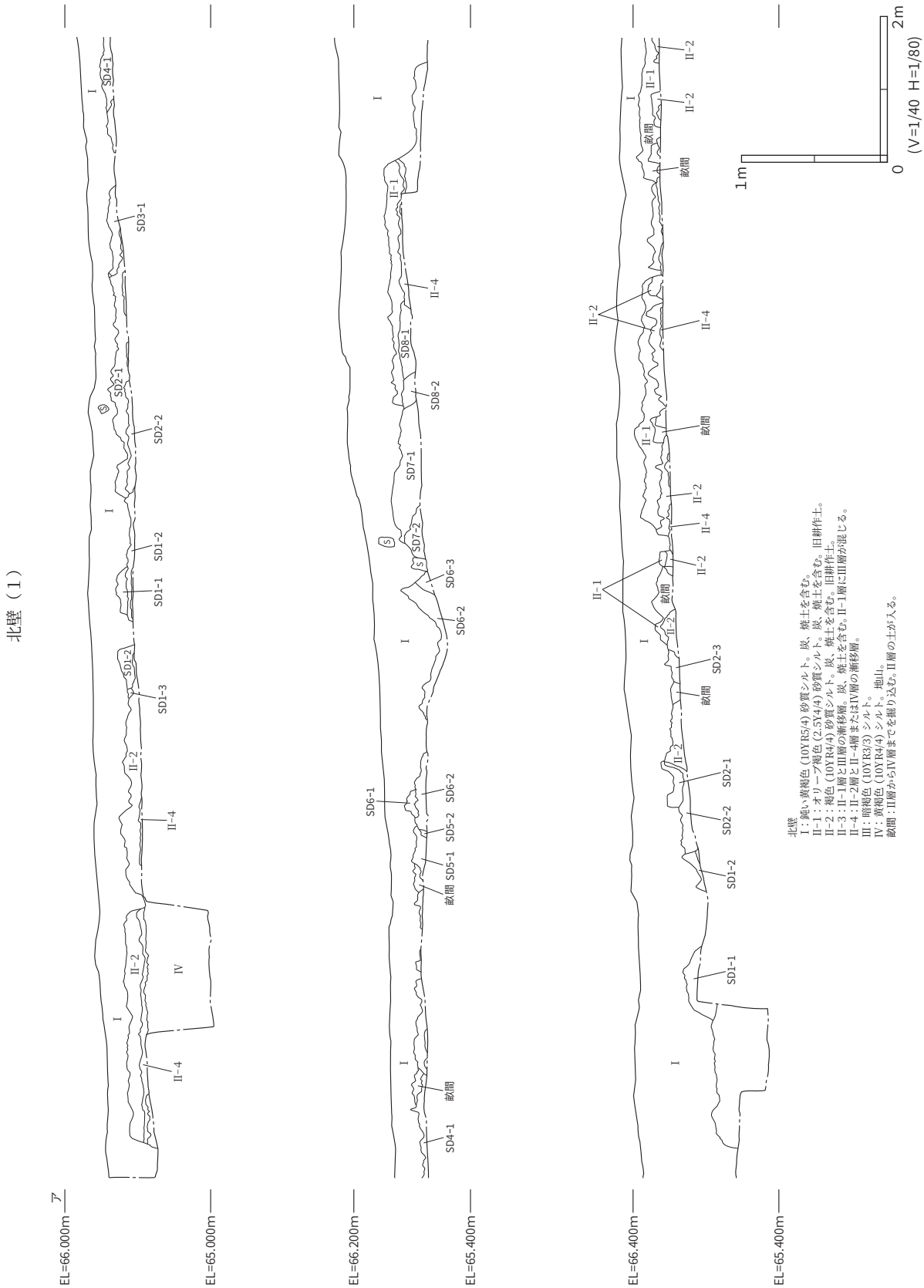


図 38　トレンチ６北壁土層断面図（１）

Ⅲ層、Ⅳ層を確認した。Ⅰ層は 50 ㎝程の厚さが多いが中央部では１ｍを超える部分もある。Ⅱ層は４つに細分できる。上部は耕作土と考えられ、下部は本層とⅣ層が混ざる土層となっている。Ⅲ層は東側で確認されており、20 ㎝程の厚さである。Ⅳ層は島尻マージとなっており、畝間跡は本層まで届いている。

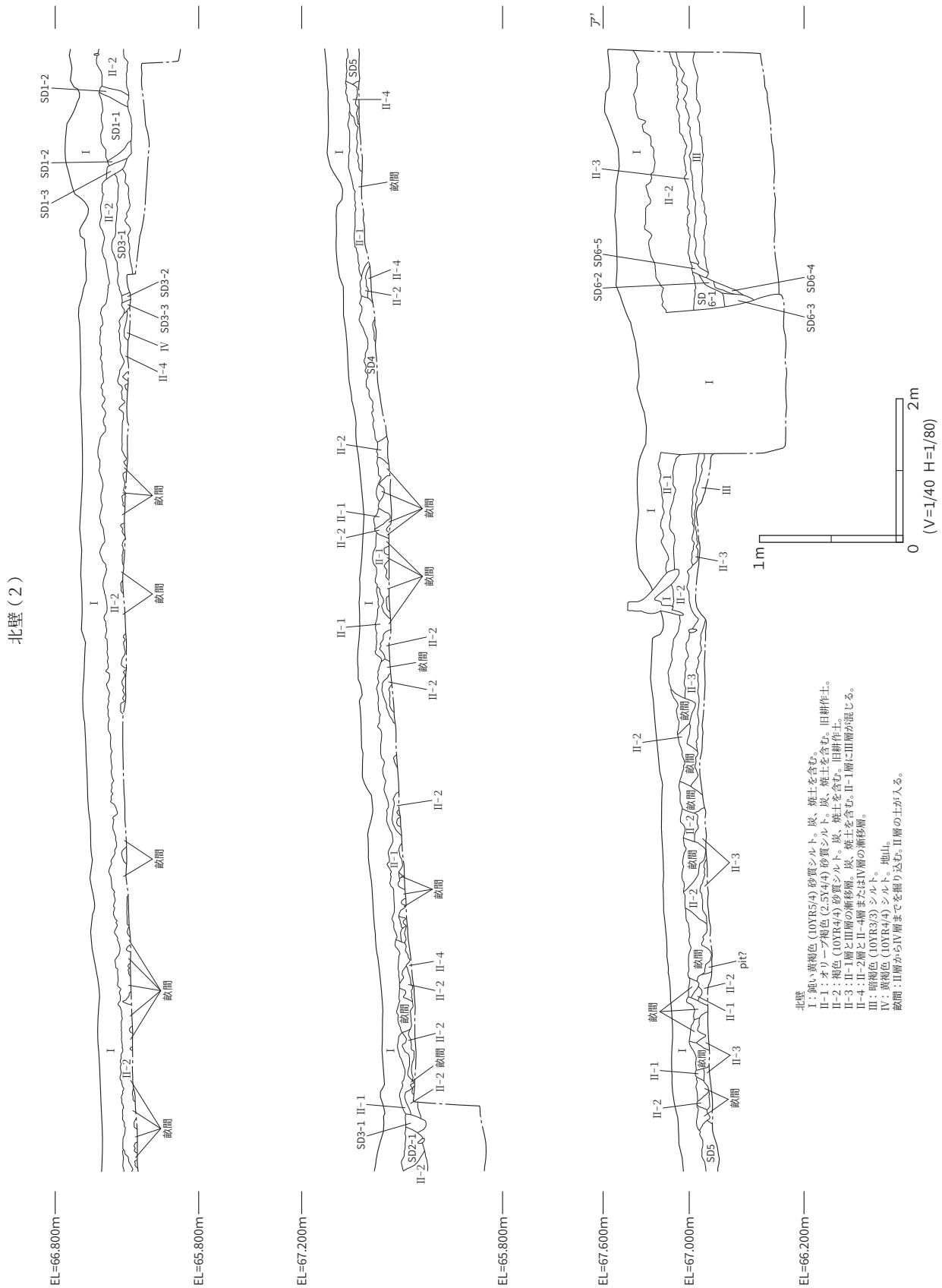


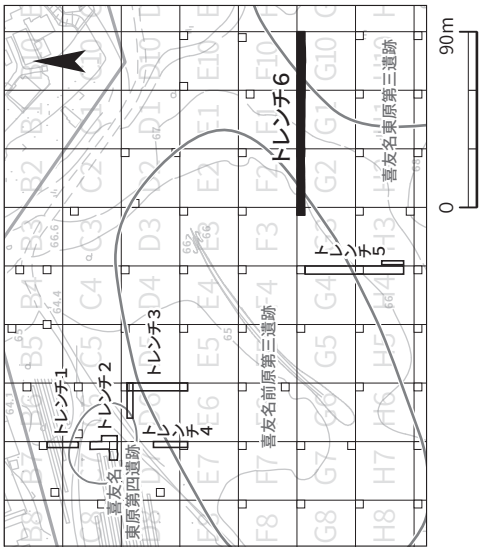
図 39　トレンチ６ 北壁土層断面図（２）

遺構

全体的に畝間跡を確認している。フテ 14-F2 から西側の畝間跡は北から 60°東へ振った方向へ延び、フテ 14-F2 から東側の畝間跡は北から 50°東へ振った方向へ延びる。畝を立てる際にⅢ層、Ⅳ層まで削ったようで、畝間跡の埋土はⅡ層の土である。また、畝間跡の間に同じ方向で溝状遺構（SD）も確認している。フテ 14-F1 から東側では、Ⅳ層上に直径 20 ～ 25 ㎝のピットを多く確認している。ただし、今回の調査ではプランは確認できていない。

遺物

Ⅰ層、Ⅱ層から沖縄産陶器を中心に中国産陶磁器、本土産近代磁器、カムィヤキ、陶質土器等が出土している。



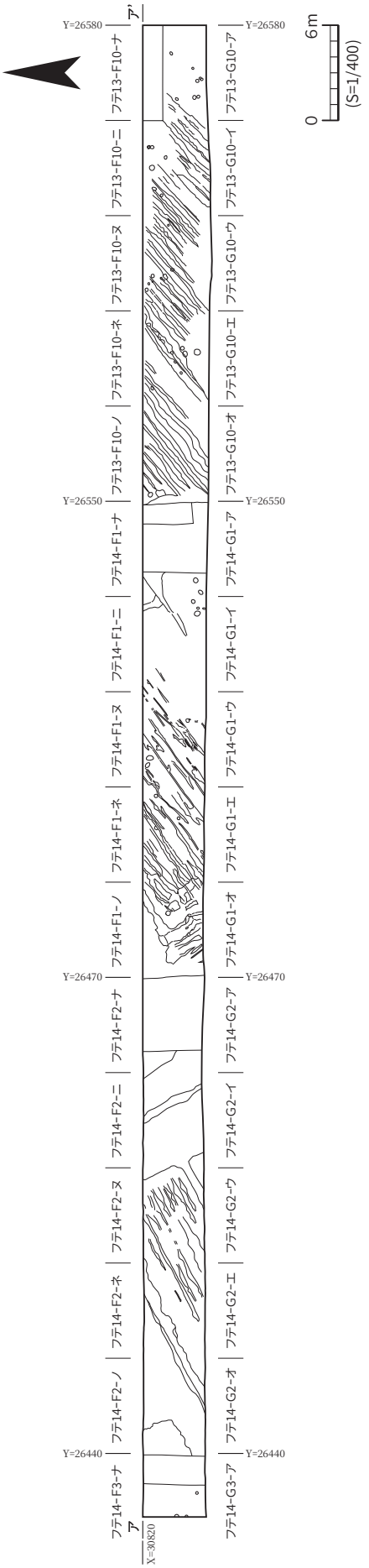


図 40　トレンチ 6 平面図

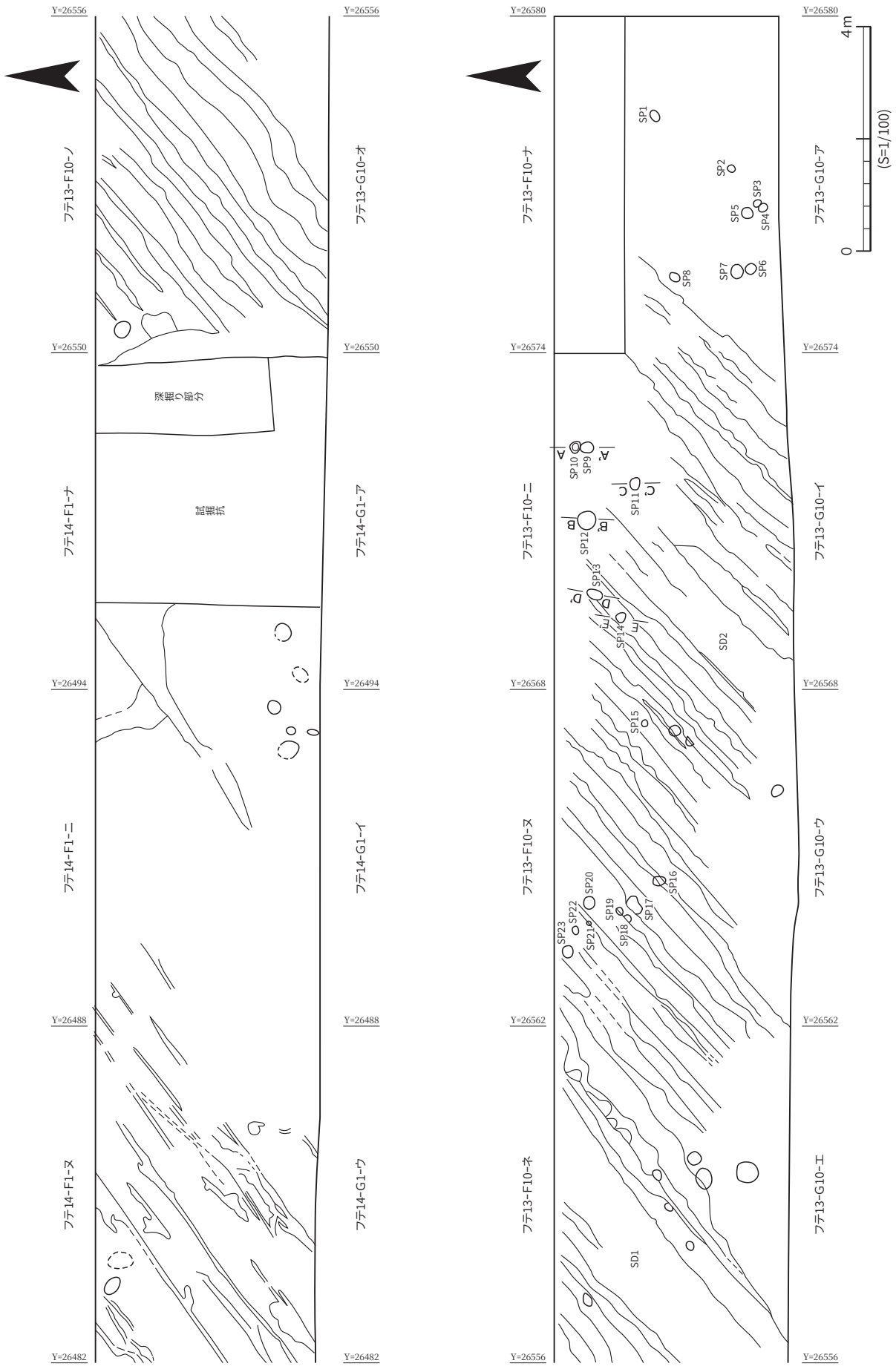


図 41　トレンチ 6 第 1 遺構面平面図

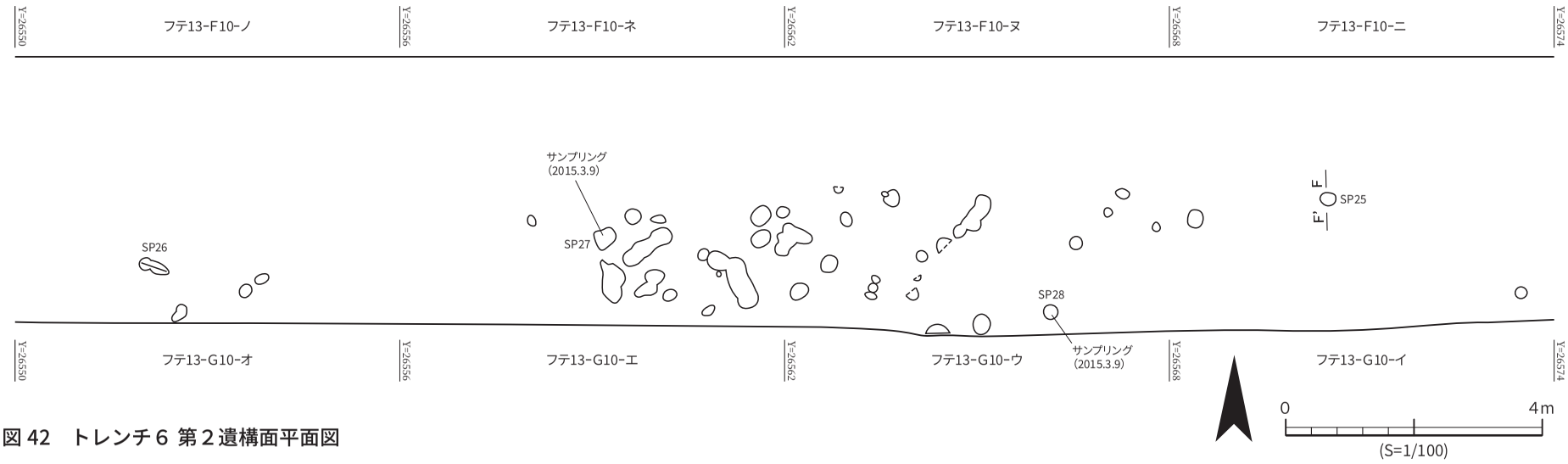


図 42　トレンチ 6 第 2 遺構面平面図

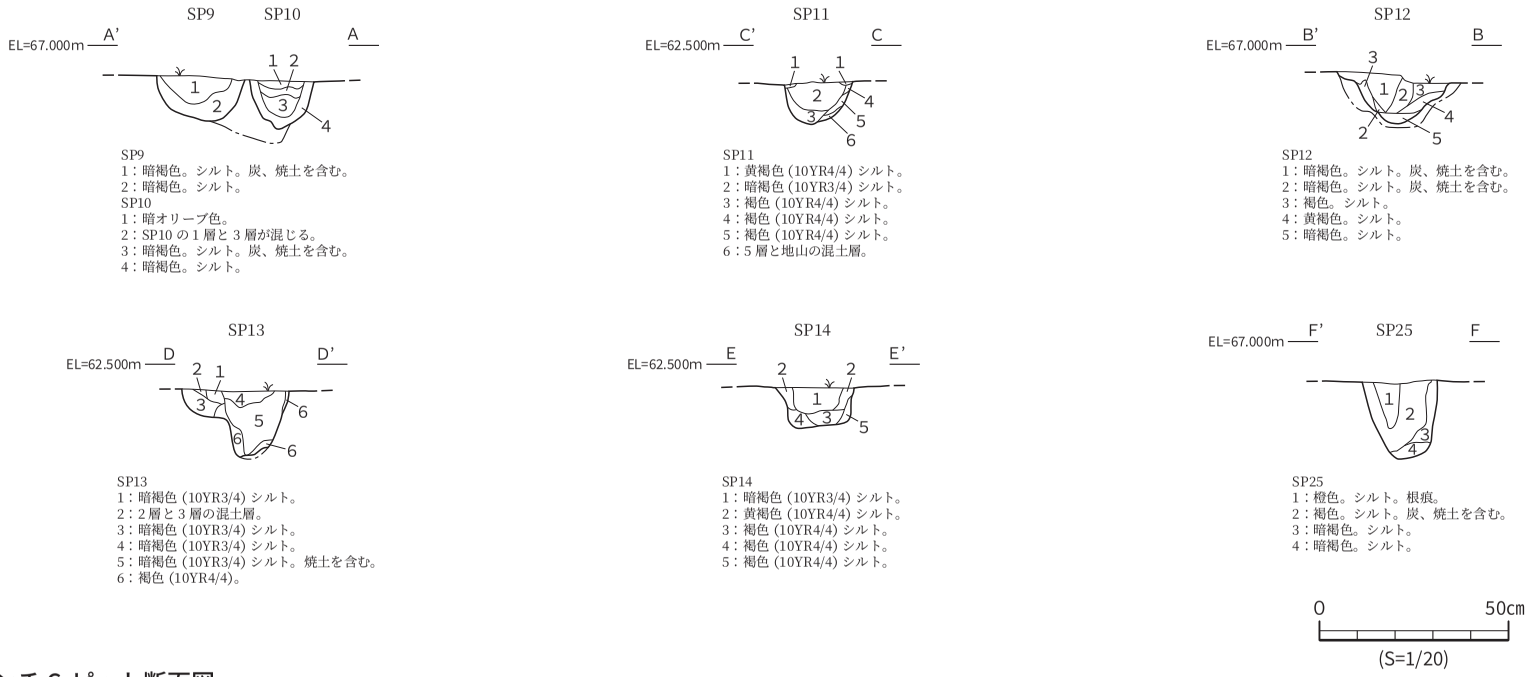


図 43　トレンチ 6 ピット断面図

表 11　トレンチ６ 出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	番号	種類	器種	部位	法量（単位：cm） 口径 / 長軸	器高 / 短軸	底径 / 厚さ	観察事項	出土位置
	97	沖縄産施釉陶器	碗	口縁部	—	—	—	白化粧後に透明釉。口縁は僅かに白化粧を厚くし、段を作る。	SD 1
	98	沖縄産施釉陶器	壺	口縁部	—	—	—	外面は黒釉。口唇は釉剥ぎ。内面は露胎。	SD 1
	99	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	口縁平坦部に２条の沈線。内外面共に赤褐色。	SD 1
図 44 図版 34	100	本土産陶器	碗	胴部	—	—	—	内外面に銅緑釉。肥前。	Ⅱ層
	101	沖縄産施釉陶器	碗	底部	—	—	—	外面高台脇まで黒釉。高台以下露胎。内面は白化粧後に透明釉。見込み蛇の目釉剝ぎ。	Ⅱ層
	102	沖縄産施釉陶器	碗	口縁部	13.4	—	—	内外面に灰釉。高台脇以下及び見込みは露胎。	Ⅰ層
	103	沖縄産無釉陶器	甕	底部	—	—	21.0	底部の内外面に調整跡。白色粒を含む。	Ⅰ層
	104	カムィヤキ	壺	底部	8.8	—	—	外底を僅かに窪ませる。内外面共に暗灰黄色。	Ⅱ層
	105	煙管	—	雁首	—	—	—	火皿は８面に面取り。火皿の内側に調整跡。褐灰色。重量：2.4g。	Ⅱ層
	106	煙管	—	—	火皿 0.65	火皿径 1.2	吸口径 0.6	延べ煙管。青銅製。重量：8.1g。	Ⅱ層
図 44 図版 35	107	石器	—	—	（3.6）	（2.85）	（4.2）	砂岩製。 磨石 ・ 敲石。 磨り痕 ・ 敲打痕。 重量：55.3 g。	Ⅱ層
	108	本土産近代磁器	皿	口～底部	13.2	3.0	8.1	緑色の銅板転写。瀬戸・美濃系。	Ⅰ層
	109	金属製品（鉄）	丸釘	—	16.4	2.25	1.0	頭部は丸い。軸部の上部は頭部を補強するように「十」状に張り出す。重量：97.8g。	Ⅰ層
	110	金属製品（青銅）	鋲	—	—	0.7	0.3	頭部は平ら。軸部は角をもつ。重量：0.8g。	Ⅰ層

表 12　トレンチ６ 遺物出土状況一覧

種類 / 器種 / 材質 ＼ 出土地		SD 1	SD 3	Ⅰ層	Ⅱ層	総　計
土器	器種不明			1		1
石器	磨石・敲石				1	1
	火打ち石			1		1
石材	石英				2	2
	不明			1		1
中国産青磁	碗				4	4
中国産青花	碗	1		4	6	11
	袋物			1	1	2
	器種不明				1	1
中国産褐釉陶器	壺				1	1
	袋物				1	1
本土産陶器	碗				1	1
本土産近代磁器	碗			4	1	5
	小碗			2	1	3
	皿			3	2	5
	小杯				1	1
沖縄産施釉陶器	碗	4	1	25	49	79
	小碗			1	5	6
	瓶				3	3
	壺	1				1
	鉢			1	1	2
	蓋				1	1
	急須			1	7	8
	器種不明				2	2
沖縄産無釉陶器	碗			1		1
	壺			12	9	21
	鉢 or 擂鉢			2		2
	擂鉢	1		4	4	9
	甕			1		1
	蓋			1	1	2
	器種不明			12	22	34
カムィヤキ	壺				1	1
陶質土器	鍋				1	1
	火炉	1	1		1	3
	蓋			1		1
	急須			2	4	6
	器種不明	1		2	5	8
煙管	沖縄産施釉陶器			2	1	3
	沖縄産無釉陶器				1	1
	青銅				1	1
青銅製品	ボタン			1		1
	鋲			1		1
	不明			4		4
鉄製品	丸釘			1	6	7
	板状製品				1	1
明朝系瓦	丸瓦			2		2
	平瓦			5	7	12
	丸平不明			5	5	10
総　計		9	2	104	161	276

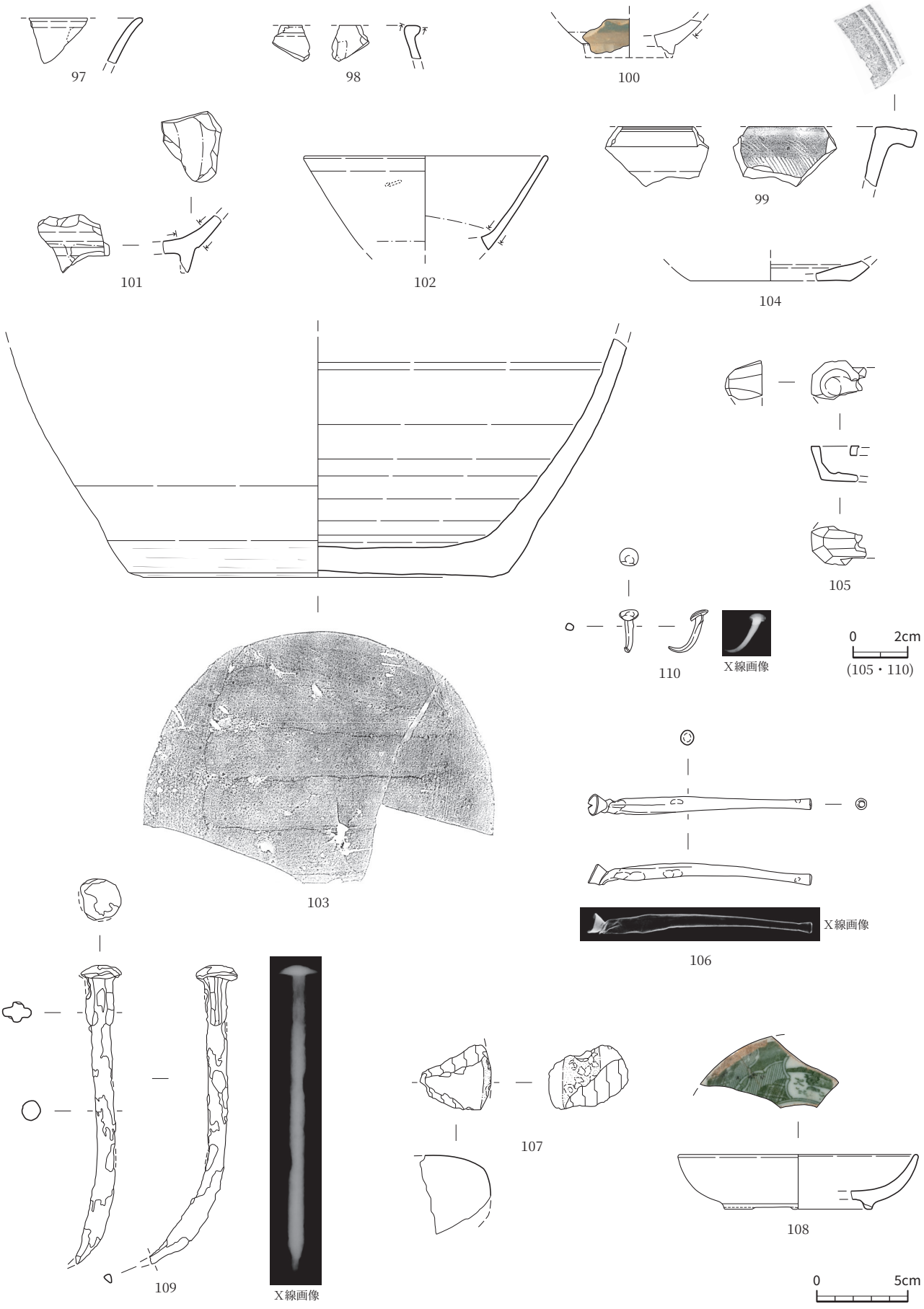


図 44　トレンチ６ 出土遺物

第６章　自然遺物

第１節　脊椎動物遺体

今回の発掘調査で得られた脊椎動物遺体については、当センター所蔵の現生標本を参考にして同定作業を行った。加えて丸山真史氏（東海大学）に同定作業中に助言をいただいた。

分析資料はすべて発掘現場で取り上げられた資料（ピックアップ資料）である。今回の発掘調査では、魚類、鳥類、哺乳類が確認できた（表 13、15）。

魚類　　今回の調査では、サメ類の出土があった。

哺乳類　　ウシ / ウマ、イノシシ / ブタ、ヤギ、ウシなどが見られる。

表 14　脊椎動物遺体種類一覧

軟骨魚類綱	CHONDRICHTHYES
サメ類	Lamniformes
哺乳綱	MAMMALLIA
ウシ／ウマ	*Bos taurus* ／ *Equus ferus*
イノシシ／ブタ	*Sus scrofa* ／ *S. s. domesticus*
ヤギ	*Capra hircus*
ウシ	*Bos taurus*

表 13　鳥類・哺乳類出土状況一覧

トレンチ１

遺構／層位	分類	部位	残存状況	成長	加工	被熱	左	右	不明	計
Ⅰ層	ヤギ	遊離歯（上顎）	M^1/M^2	－	－	－		1		1
		踵骨	近位部－遠位部	－	－	－		1		1
	種不明	部位不明	破片	－	－	－			1	1
合計							0	2	1	3

トレンチ２

遺構／層位	分類	部位	残存状況	成長	加工	被熱	左	右	不明	計
SI １・２③	ウシ／ウマ	遊離歯（上下不明）	破片	－	－	－			2	2
Ⅰ層	イノシシ／ブタ	脛骨	遠位部	－	－	－		1		1
	種不明	部位不明	破片	－	－	－			1	1
Ⅱ層	ウシ／ウマ	部位不明	破片	－	－	－			1	1
	イノシシ／ブタ	尺骨	近位端	－	－	－	1			1
	種不明	部位不明	近位端？－遠位端？	－	－	－			1	1
	種不明	部位不明	破片	－	－	－			5	5
合計							1	1	10	12

トレンチ３

遺構／層位	分類	部位	残存状況	成長	加工	被熱	左	右	不明	計
Ⅱ層	ヤギ	遊離歯（下顎）	dP_4	幼	－	－		1		1
			M_1	－	－	－	1	1		2
			M_2	－	－	－		1		1
		遊離歯（上下不明）	破片	－	－	－			1	1
	ウシ	脛骨	近位端－近位部	－	－	－	1			1
合計							2	3	1	6

トレンチ４

遺構／層位	分類	部位	残存状況	成長	加工	被熱	左	右	不明	計
SD １	ウシ／ウマ	遊離歯（上下不明）	歯根	－	－	－			1	1
		上腕骨？	破片	－	－	－			1	1
	ヤギ	下顎骨	下顎体× P_3 P_4 M_1 ×	－	－	－		1		1
	種不明	部位不明	破片	－	－	－			12	12
	鳥類 種不明	部位不明	骨幹部	－	－	－			1	1
Ⅱ層	イノシシ／ブタ	遊離歯（上下不明）	破片	－	－	－			1	1
		脛骨	遠位部	－	－	－		1		1
	ヤギ	遊離歯（上下不明）	破片	－	－	－			1	1
	ウシ	遊離歯（上顎）	dP^3	－	－	－		1		1
	種不明	肋骨	近位部	－	－	－		1		1
		部位不明	破片	－	－	－			8	8
				－	カットマーク	－			1	1
合計							0	4	26	30

トレンチ５

遺構／層位	分類	部位	残存状況	成長	加工	被熱	左	右	不明	計
Ⅱ層	イノシシ／ブタ	遊離歯（下顎）	M_2	未萌出	－	－		1		1
		脛骨？	遠位部	－	－	－	1			1
合計							1	1	0	2

表 15　魚類出土状況一覧

トレンチ１

層位	分類	部位	左	右	不明	計
Ⅰ層	サメ類	歯			1	1

トレンチ２

層位	分類	部位	左	右	不明	計
Ⅱ層	サメ類	歯			1	1

第２節　貝類遺体

今回の発掘調査で得られた貝類遺体については、当センター所蔵の貝類標本を参考にして同定作業を行った。

分析資料は全て発掘現場で取り上げられた資料（ピックアップ資料）である。同定資料に関しては、同定標本数（NISP）で示している。

今回の調査では、貝類遺体６科７種が確認できた。得られた貝類の生息地類型は表 16 に示す。

表 16　貝類の生息地類型

大区分		底質等	
Ⅰ	外洋−サンゴ礁域	a	岩礁
Ⅱ	内湾−転石域	b	転石
Ⅲ	河口干潟−マングローブ域	c	砂 / 泥
Ⅳ	淡水域	d	河川礫底
Ⅴ	陸域	f	植物上
Ⅵ	その他		

小区分			
0	潮間帯上部	5	止水
	Ⅰ−0 ノッチ	6	流水
	Ⅱ−0 マングローブ	7	林内
1	潮間帯中・下部	8	林内・林縁部
2	亜潮間帯上縁部	9	林縁部
	Ⅰ−2 イノー内	10	海浜部
3	干瀬	11	打ち上げ物
4	礁斜面	12	化石

表 17　巻貝出土状況一覧

No.	科　名	種　名	生息地	トレンチ１	トレンチ２			トレンチ３		トレンチ４			トレンチ６	合　計
				Ⅰ層	SD 4	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅰ層	Ⅲ層	SD 1	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅱ層	
1	ニシキウズ科	サラサバテイラ	I-4-a							1		6		7
2	スイショウガイ科	マガキガイ	I-2-c						1					1
3		不明	−			1			2					3
4	タカラガイ科	ヤクシマダカラ	I-2-a	1										1
5		不明	−	1									1	2
6	巻貝不明		−	3	1	2	2	1		15	1	1		26
合　計				5	1	3	2	1	3	16	1	7	1	40

表 18　二枚貝出土状況一覧

No.	科　名	種　名	生息地	トレンチ１	トレンチ２			トレンチ３	トレンチ４		トレンチ５	合　計
				Ⅰ層	SD 2	SI 1	Ⅰ層	Ⅱ層	SD 1	Ⅱ層	Ⅰ層	
1	ウミギク科	メンガイの一種	−						2			2
2	ツキガイ科	ツキガイ科不明	−								1	1
3	シャコガイ科	ヒレシャコ	I-2-c			1						1
4		オオシラナミ（シラナミ）	I-2-a		1							1
5	二枚貝不明		−	1			1	1		1		4
合　計				1	1	1	1	1	2	1	1	9

第７章　人骨

今回の発掘調査では僅かであるが人骨と考えられる資料も確認された。ほとんどが部位不明資料だが、被熱を受けている状況が確認できた。

表 19　人骨出土状況一覧

トレンチ２

遺構	部位	残存状況	被熱	左	右	不明	計
SD ２	部位不明	破片	熱			１	１

トレンチ４

遺構	部位	残存状況	被熱	左	右	不明	計
SD １	部位不明	破片	熱			２	２

トレンチ５

層位	部位	残存状況	被熱	左	右	不明	計
Ⅰ層	脛骨	骨幹部	熱？			１	１

第８章　自然科学分析

第１節　喜友名東原第四遺跡の年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに　喜友名東原第四遺跡は沖縄県宜野湾市の普天間飛行場内に所在する。これまでの試掘調査で縄文時代の遺物包含層が確認され、竪穴住居址や土器、黒曜石や石英製の石器、サメ歯が出土している。近隣の伊佐上原遺跡群Ａ地点・Ｆ地点や喜友名前原第二遺跡では、縄文時代晩期の竪穴住居址が検出され、喜友名第三遺跡では耕作に関する遺構が確認されている。

本報告では、トレンチ２のＳＩ１及びＳＩ１・２より検出された炭化材(物)を対象として、遺構の年代確認のための放射性炭素年代測定を実施する。

１.試料　分析試料が検出されたトレンチ２では、縄文時代の竪穴住居址とみられる遺構が２棟切り合った状態で検出され、それぞれＳＩ１、ＳＩ２の番号が付されている。調査の所見では、ＳＩ２、ＳＩ１と新しくなるとされる。今回はＳＩ１､ＳＩ２より検出された試料を分析対象としている。

試料は、炭化材(物)が９点、２点(試料番号５・10)は土器付着炭化物である(表 20)。

表 20　年代測定試料

試料番号	トレンチ	遺構	採取番号	対象試料
1	2	SI 1	1	炭化物
2	2	SI 1	2	炭化物
3	2	SI 1	3	炭化物
4	2	SI 1	4	炭化物
5	2	SI 1	5	土器付着炭化物
6	2	SI 1	5	炭化材
7	2	SI 1	6	炭化物
8	2	SI 1		炭化材
9	2	SI 1		炭化材
10	2	SI 1・2		土器付着炭化物
11	2	SI 1・2		炭化材

２.分析方法　放射性炭素年代測定

試料に土壌や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。試料をバイコール管に入れ、１ｇの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30 分) 850℃(２時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS 専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX- Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に$^{13}C/^{12}C$の測定も行うため、この値を用いてδ^{13}Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また､測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお､暦年較正は､RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0（Copyright 1986-2014M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは､大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}Cの半減期5,730 ± 40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表している。暦年較正は、測定誤差σ、２σ(σは統計的に真の値が68%、２σは真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

３.結果　放射性炭素年代測定結果、暦年較正結果、樹種同定結果を表21に、暦年較正曲線図を図45に示す。同位体効果の補正を行った補正年代は、試料番号１(トレ２SI １　１炭化物)が2,450 ± 30BP、試料番号２(トレ２SI １　２炭化物）2,520 ± 30BP、試料番号３(トレ２SI １　３炭化物）2,420 ± 20BP、試料番号４(トレ２SI １　４炭化物）2,460 ± 20BP、試料番号５(トレ２SI １　５土器付着炭化物）2,440 ± 30BP、試料番号６(トレ２SI １　５炭化材）2,460 ± 20BP、試料番号７(トレ２SI １　６炭化物）3,080 ± 30BP、試料番号８(トレ２SI １炭化材）2,400 ± 30BP、試料番号９(トレ２SI １炭化材）2,450 ± 30BP、試料番号10（トレ２SI １・２土器付着炭化物）2,580 ± 30BP、試料番号11（トレ２SI １・２炭化材）2,430 ± 20BPを示す。また、測定誤差をσで計算した暦年較正結果は、試料番号１(ト

レ２SI １　１炭化物)が calBC746-431、試料番号２(トレ２SI １　２炭化物）calBC774-562、試料番号３(トレ２SI １　３炭化物）calBC513-411、試料番号４(トレ２SI １　４炭化物）calBC750-516、試料番号５(トレ２SI １　５土器付着炭化物）calBC731-430、試料番号６(トレ２SI １　５炭化材）calBC 749-490、試料番号７(トレ２SI １　６炭化物）calBC1,395-1,297、試料番号８(トレ２SI １　炭化材) calBC488-405､試料番号９(トレ２SI １　炭化材）calBC 745-432、試料番号 10（トレ２SI １・２土器付着炭化物）calBC800-780、試料番号 11（トレ２SI １・２炭化材）calBC 727-416 である。

４.考察　炭化材(物)の放射性炭素年代値(補正年代)を見ると、試料番号７が 3,080 ± 30BP の縄文時代後期末(安里 2003)の年代値が得られ調査所見と調和する結果であった。他の 10 点は 2,580 ± 30BP から 2,400 ± 30BPのまとまった値を示し、これは縄文時代晩期から沖縄貝塚時代後期初頭に相当する。

試料番号１～７は SI １の層位的に連続して採取したものであり、試料番号７が遺構最下部にあたり、最も古い年代値が得られている。試料番号１～６では、試料番号２が 2,520 ± 30BP と一番古く、試料番号３が 2,420 ± 20BP と一番新しい。概ね100 年間でまとまった年代と言える。また、試料番号８、９も SI １から検出されたもので、それぞれ 2,400 ± 30BP、2,450 ± 30BP の同様の年代値である。SI １・２より検出された試料番号 10、11 も、2,580 ± 30BP、2,430 ± 20BP の年代値であり、試料番号 10 が若干古い年代値であるものの概ね SI １と同じものと言える。

このことから SI １の覆土は、縄文時代晩期から沖縄貝塚時代後期初頭の年代が想定される。また、最下部から検出された試料番号７の補正年代は、調査所見の縄文時代後期末と調和することから遺構構築及び使用年代の可能性も考えられる。

一方、試料番号５、10 は土器に付着した炭化物を試料とした。それぞれ、2,440 ± 30BP、2,580 ± 30BP の年代値が得られ、縄文時代晩期末から沖縄貝塚時代後期初頭の年代である。現段階では土器型式は確定されていないが、今後、出土土器の検討が進めば、不明点が多いとされる縄文時代晩期末の仲原式土器から沖縄貝塚時代後期前半の阿波連浦下層式土器、浜屋原式土器への移行期における資料の蓄積になるものと思われる。今後の調査成果を待ちたい。

引用文献

安里嗣淳，2003，総説．沖縄県史　各論編　第二巻　考古，財団法人沖縄県文化振興会(編)，沖縄県教育委員会，1-58.

表 21　放射性炭素年代測定・暦年較正・樹種同定結果

試料番号	地区 遺構 採取番号 試料	炭化材 樹種	処理方法	測定年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (BP)		暦年較正年代(cal)			相対比	Code No.
1	トレ２ SI 1 1 炭化物		AAA	2,520 ± 20	-29.49 ± 0.63	2,450 ± 30 (2,450 ± 26)	σ	cal BC 746 - cal BC 686	cal BP 2,695 - 2,635	0.386	IAAA- 140016
								cal BC 665 - cal BC 643	cal BP 2,614 - 2,592	0.131	
								cal BC 553 - cal BC 477	cal BP 2,502 - 2,426	0.430	
								cal BC 444 - cal BC 431	cal BP 2,393 - 2,380	0.053	
							2 σ	cal BC 752 - cal BC 682	cal BP 2,701 - 2,631	0.296	
								cal BC 669 - cal BC 612	cal BP 2,618 - 2,561	0.149	
								cal BC 593 - cal BC 412	cal BP 2,542 - 2,361	0.555	
2	トレ２ SI 1 2 炭化物		AAA	2,510 ± 20	-24.68 ± 0.59	2,520 ± 30 (2,515 ± 25)	σ	cal BC 774 - cal BC 748	cal BP 2,723 - 2,697	0.250	IAAA- 140017
								cal BC 684 - cal BC 667	cal BP 2,633 - 2,616	0.172	
								cal BC 640 - cal BC 588	cal BP 2,589 - 2,537	0.461	
								cal BC 579 - cal BC 562	cal BP 2,528 - 2,511	0.117	
							2 σ	cal BC 790 - cal BC 730	cal BP 2,739 - 2,679	0.281	
								cal BC 692 - cal BC 659	cal BP 2,641 - 2,608	0.163	
								cal BC 651 - cal BC 543	cal BP 2,600 - 2,492	0.556	
3	トレ２ SI 1 3 炭化物		AaA	2,460 ± 20	-27.31 ± 0.63	2,420 ± 20 (2,417 ± 24)	σ	cal BC 513 - cal BC 411	cal BP 2,462 - 2,360	1.000	IAAA- 140018
							2 σ	cal BC 731 - cal BC 691	cal BP 2,680 - 2,640	0.103	
								cal BC 660 - cal BC 650	cal BP 2,609 - 2,599	0.018	
								cal BC 544 - cal BC 405	cal BP 2,493 - 2,354	0.879	
4	トレ２ SI 1 4 炭化物		AaA	2,530 ± 20	-28.93 ± 0.52	2,460 ± 20 (2,464 ± 24)	σ	cal BC 750 - cal BC 683	cal BP 2,699 - 2,632	0.452	IAAA- 140019
								cal BC 668 - cal BC 638	cal BP 2,617 - 2,587	0.195	
								cal BC 590 - cal BC 576	cal BP 2,539 - 2,525	0.067	
								cal BC 571 - cal BC 516	cal BP 2,520 - 2,465	0.286	
							2 σ	cal BC 762 - cal BC 477	cal BP 2,711 - 2,426	0.973	
								cal BC 463 - cal BC 455	cal BP 2,412 - 2,404	0.009	
								cal BC 445 - cal BC 431	cal BP 2,394 - 2,380	0.018	
5	トレ２ SI 1 5 土器付着炭化物		AaA	2,430 ± 20	-24.08 ± 0.59	2,440 ± 30 (2,440 ± 25)	σ	cal BC 731 - cal BC 691	cal BP 2,680 - 2,640	0.274	IAAA- 140020
								cal BC 660 - cal BC 650	cal BP 2,609 - 2,599	0.056	
								cal BC 544 - cal BC 471	cal BP 2,493 - 2,420	0.505	
								cal BC 466 - cal BC 452	cal BP 2,415 - 2,401	0.077	
								cal BC 446 - cal BC 430	cal BP 2,395 - 2,379	0.088	
							2 σ	cal BC 750 - cal BC 683	cal BP 2,699 - 2,632	0.252	
								cal BC 667 - cal BC 638	cal BP 2,616 - 2,587	0.085	
								cal BC 590 - cal BC 409	cal BP 2,539 - 2,358	0.664	
6	トレ２ SI 1 5 炭化材	ヤマグワ	AAA	2,500 ± 20	-27.43 ± 0.53	2,460 ± 20 (2,457 ± 24)	σ	cal BC 749 - cal BC 684	cal BP 2,698 - 2,633	0.437	IAAA- 140021
								cal BC 667 - cal BC 640	cal BP 2,616 - 2,589	0.171	
								cal BC 588 - cal BC 578	cal BP 2,537 - 2,527	0.041	
								cal BC 564 - cal BC 507	cal BP 2,513 - 2,456	0.312	
								cal BC 500 - cal BC 490	cal BP 2,449 - 2,439	0.039	
							2 σ	cal BC 754 - cal BC 681	cal BP 2,703 - 2,630	0.332	
								cal BC 670 - cal BC 609	cal BP 2,619 - 2,558	0.191	
								cal BC 595 - cal BC 428	cal BP 2,544 - 2,377	0.467	
								cal BC 422 - cal BC 416	cal BP 2,371 - 2,365	0.010	
7	トレ２ SI 1 6 炭化物		AaA	3,130 ± 30	-28.33 ± 0.34	3,080 ± 30 (3,076 ± 26)	σ	cal BC 1,395 - cal BC 1,371	cal BP 3,344 - 3,320	0.275	IAAA- 140022
								cal BC 1,359 - cal BC 1,297	cal BP 3,308 - 3,246	0.725	
							2 σ	cal BC 1,412 - cal BC 1,269	cal BP 3,361 - 3,218	1.000	
8	トレ２ SI 1 炭化材	広葉樹	AAA	2,440 ± 20	-27.33 ± 0.68	2,400 ± 30 (2,397 ± 25)	σ	cal BC 488 - cal BC 405	cal BP 2,437 - 2,354	1.000	IAAA- 140023
							2 σ	cal BC 726 - cal BC 719	cal BP 2,675 - 2,668	0.009	
								cal BC 704 - cal BC 695	cal BP 2,653 - 2,644	0.014	
								cal BC 541 - cal BC 400	cal BP 2,490 - 2,349	0.977	
9	トレ２ SI 1 炭化材		AaA	2,460 ± 20	-25.53 ± 0.70	2,450 ± 30 (2,450 ± 25)	σ	cal BC 745 - cal BC 686	cal BP 2,694 - 2,635	0.390	IAAA- 140024
								cal BC 665 - cal BC 643	cal BP 2,614 - 2,592	0.133	
								cal BC 552 - cal BC 478	cal BP 2,501 - 2,427	0.428	
								cal BC 443 - cal BC 432	cal BP 2,392 - 2,381	0.049	
							2 σ	cal BC 752 - cal BC 682	cal BP 2,701 - 2,631	0.299	
								cal BC 669 - cal BC 633	cal BP 2,618 - 2,582	0.121	
								cal BC 629 - cal BC 613	cal BP 2,578 - 2,562	0.026	
								cal BC 593 - cal BC 412	cal BP 2,542 - 2,361	0.554	
10	トレ２ SI 1・2 土器付着炭化物		AaA	2,560 ± 30	-23.61 ± 0.30	2,580 ± 30 (2,582 ± 25)	σ	cal BC 800 - cal BC 780	cal BP 2,749 - 2,729	1.000	IAAA- 140025
							2 σ	cal BC 809 - cal BC 760	cal BP 2,758 - 2,709	0.997	
								cal BC 677 - cal BC 675	cal BP 2,626 - 2,624	0.003	
11	トレ２ SI 1・2 炭化材	広葉樹	AAA	2,480 ± 20	-27.65 ± 0.45	2,430 ± 20 (2,434 ± 24)	σ	cal BC 727 - cal BC 719	cal BP 2,676 - 2,668	0.046	IAAA- 140026
								cal BC 704 - cal BC 695	cal BP 2,653 - 2,644	0.066	
								cal BC 541 - cal BC 427	cal BP 2,490 - 2,376	0.845	
								cal BC 422 - cal BC 416	cal BP 2,371 - 2,365	0.044	
							2 σ	cal BC 748 - cal BC 685	cal BP 2,697 - 2,634	0.215	
								cal BC 666 - cal BC 641	cal BP 2,615 - 2,590	0.064	
								cal BC 587 - cal BC 580	cal BP 2,536 - 2,529	0.007	
								cal BC 559 - cal BC 407	cal BP 2,508 - 2,356	0.714	

1）処理方法 AAA は、酸処理－アルカリ処理－酸処理を示し、アルカリ濃度が 1N 未満の場合は AaA と示す。
2）年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用した。
3）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
4）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
5）暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0（Copyright 1986-2014M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
6）暦年の計算には、補正年代に（）で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
7）年代値は、１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は１桁目を丸めていない。
8）統計的に真の値が入る確率はσは 68.3%、2 σは 95.4% である。
9）相対比は、σ、2 σのそれぞれを１とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

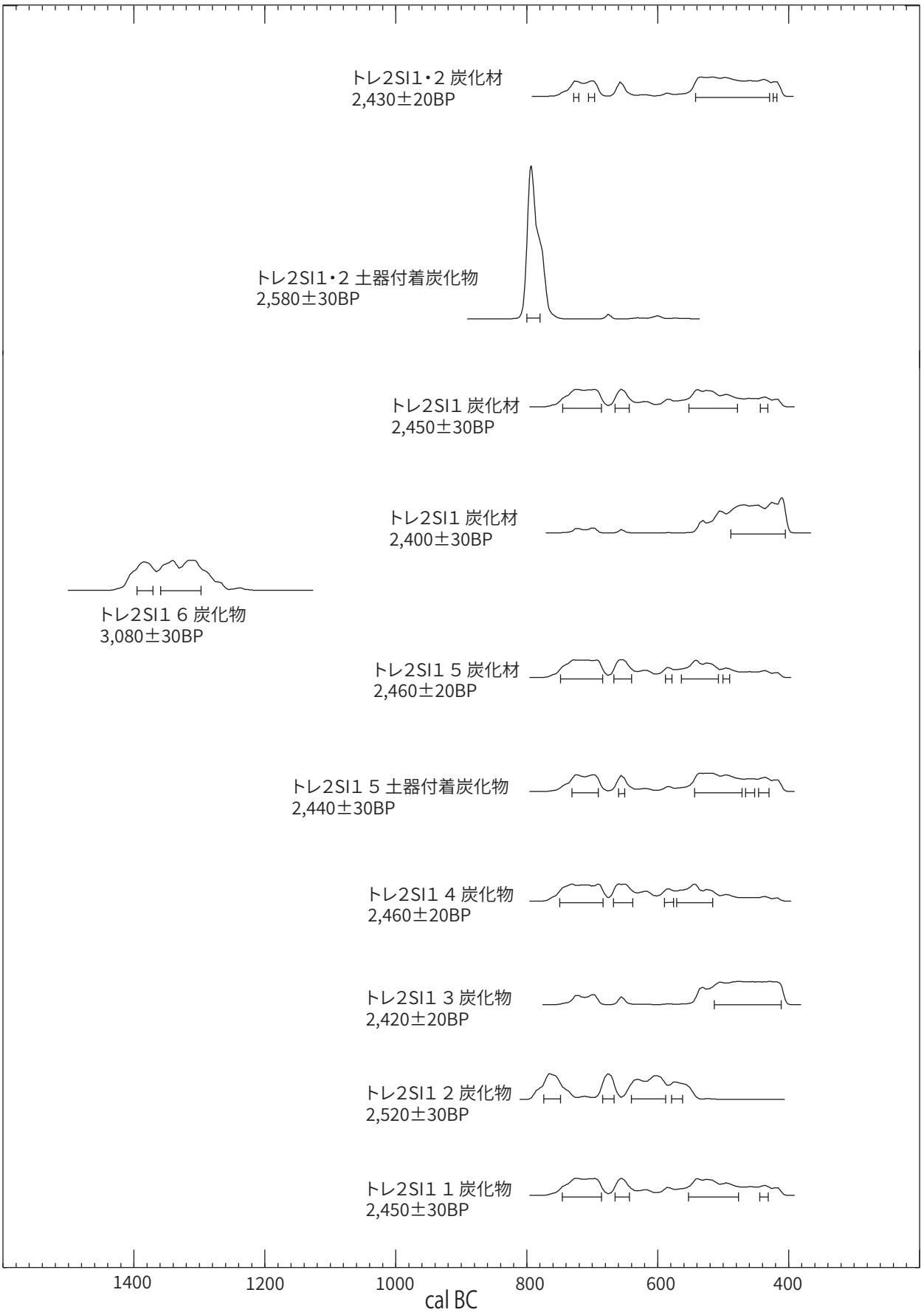

トレ2SI1・2 炭化材
2,430±20BP
トレ2SI1・2 土器付着炭化物
2,580±30BP
トレ2SI1 炭化材
2,450±30BP
トレ2SI1 炭化材
2,400±30BP
トレ2SI1 6 炭化物
3,080±30BP
トレ2SI1 5 炭化材
2,460±20BP
トレ2SI1 5 土器付着炭化物
2,440±30BP
トレ2SI1 4 炭化物
2,460±20BP
トレ2SI1 3 炭化物
2,420±20BP
トレ2SI1 2 炭化物
2,520±30BP
トレ2SI1 1 炭化物
2,450±30BP
1400
1200
1000
800
600
400
cal BC

図45　暦年較正曲線図

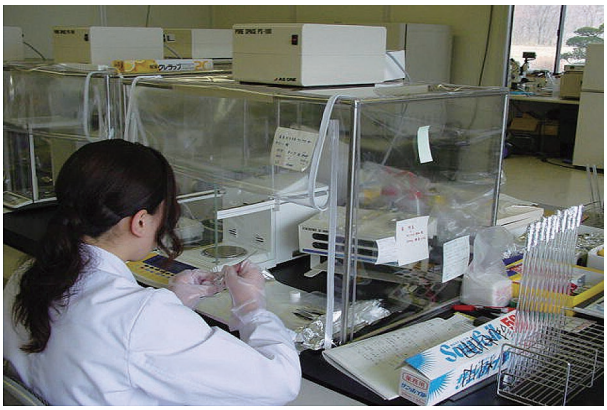
現地調査対象遺構（SI １）

遺構状況

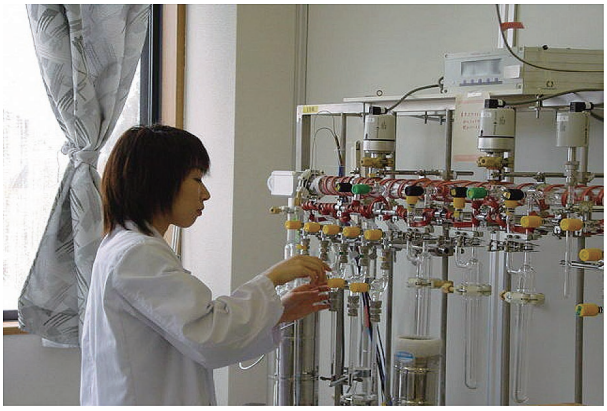
炭化物回収状況（現地調査）

炭化物回収状況（室内作業）

測定準備（計量）



前処理（年代測定）



グラファイト合成（年代測定）

年代測定装置

図版１　作業状況

第２節　喜友名前原第三遺跡の年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに　喜友名前原第三遺跡は、沖縄県宜野湾市喜友名に所在し、普天間飛行場内に位置する。本遺跡からは、縄文時代晩期の遺構、グスク時代～近世と考えられるピットや溝などが確認されている。

本報告では、各遺構の年代観に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定を実施する。

１.試料　試料は、トレンチ３内の北側ピット、SX １、SP41、SX ２、及びトレンチ６の西側ピット、中央部ピット、東側ピットより採取された土壌計７点から、それぞれ炭化物を抽出している。放射性炭素年代測定を実施するのは、各試料より抽出した炭化物計７点である。

２.分析方法　分析試料は AMS 法で実施する。試料表面の汚れをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。塩酸や水酸化ナトリウムを用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する（酸―アルカリ―酸処理：AAA）。試料が少量のものについては、塩酸処理のみに留める（表 22 には HCl と記載）。なお、本来は水酸化ナトリウム水溶液の濃度を上げていき、最終的に 1N 溶液で処理を実施するが、一部の試料は、脆弱で必要な炭素を得られなくなる可能性があったことから、水酸化ナトリウム溶液の濃度が薄い段階で処理を停止している（表 22 には AaA と記載）。

試料を燃焼させたあと、真空ラインで不純物（水など）を取り除き、CO_2 を精製する。これを鉄で還元してグラファイトを生成する。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、小型タンデム加速器にて測定する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX- Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて$\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0（Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

３.結果　同位体効果による補正を行った測定結果を表 22 に、暦年較正結果を表 23 に示す。試料の測定年代（補正年代）は、北側ピットが 900 ± 20BP、SX １が 12,570 ± 50BP、SP41 が 3,320 ± 30BP、SX ２が 1,910 ± 20BP、トレンチ６西側が 3,180 ± 30BP、トレンチ６中央部ピットが 1,610 ± 20BP、トレンチ６東側が 5,760 ± 30BP の値を示す。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正は、CALIB7.1.0 のマニュアルにしたがい、１年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。暦年較正は北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、２σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、２σは真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表された値を記す。

測定誤差をσとして計算させた結果、北側ピットは calAD 1,047-1,180、SX １は calBC 13,120-12,848、SP41 は calBC 1,634-1,535、SX ２は calAD 69-124、トレンチ６西側は calBC 1,496-1,430、トレンチ６中央部ピットは calAD 405-532、トレンチ６東側は calBC 4,670-4,551 である。

４.考察　本遺跡の遺構は、トレンチ３の SX １が縄文晩期相当、その他のピットが概ねグスク時代とされている。分析した試料のうち、北側ピットは補正年代で 900 ± 20 BP、暦年代で 11 世紀中頃～ 12 世紀（calAD 1,047-1,180）の年代値が得られており、想定される遺構の年代観に近い値を示す。

しかしながら、これ以外の試料は、トレンチ６中央部ピットが 1,610 ± 20BP、SX ２が 1,910 ± 20BP の補正年代を示し、概ね貝塚時代後期に相当する。また、トレンチ６西側が 3,180 ± 30BP、SP41 が 3,320 ± 30BP、トレンチ６東側が 5,760 ± 30BP の補正年代を示し、SX １に至っては 12,570 ± 50BP と極めて古い値を示す。今回測定にあたっては、採取試料中に炭化物が少なかったことから、拾い出しと共にフローテーションによる炭化物の回収を行っている。調査地域は、島尻マージの二次堆積が卓越する地域であり、今回確認された遺構もこれを掘り込んでいる。したがって、多量の土壌よりフローテーションを行った際に、古い時代の炭化物を多く回収してしまった可能性がある。このことを考慮すると、得られた年代値が遺構の年代か否かについては、その取り扱いに注意が必要である。今後は、当時の生活を象徴するような炭化物の集中部など、試料の選択を慎重に行い、引き続き年代測定結果の収集が望まれる。

表 22　放射性炭素年代測定結果

試料名		種類	処理	補正年代 BP	δ ^{13} C (‰)	測定年代 BP	Code No.
北側ピット	トレンチ３	炭化物	HCl	900 ± 20	-22.77 ± 0.59	860 ± 20	IAAA-143684
SX １	トレンチ３	炭化物	AAA	12,570 ± 50	-27.11 ± 0.46	12,610 ± 50	IAAA-143689
SP41	トレンチ３	炭化物	AaA	3,320 ± 30	-27.48 ± 0.59	3,360 ± 30	IAAA-143688
SX ２	トレンチ３	炭化物	AAA	1,910 ± 20	-25.34 ± 0.57	1,920 ± 20	IAAA-143686
西側ピット	トレンチ６	炭化物	AAA	3,180 ± 30	-26.79 ± 0.43	3,210 ± 30	IAAA-143690
中央部ピット	トレンチ６	炭化物	HCl	1,610 ± 20	-18.57 ± 0.53	1,500 ± 20	IAAA-143685
東側ピット	トレンチ６	炭化物	AaA	5,760 ± 30	-25.65 ± 0.46	5,770 ± 30	IAAA-143687

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。
2）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68% が入る範囲）を年代値に換算した値。

表 23　暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)			相対比	Code No.
トレンチ３ 北側ピット	900 ± 23	σ	cal AD 1,047 - cal AD 1,088	cal BP 903 - 862	0.554	IAAA-143684
			cal AD 1,122 - cal AD 1,138	cal BP 828 - 812	0.168	
			cal AD 1,148 - cal AD 1,169	cal BP 802 - 781	0.264	
			cal AD 1,179 - cal AD 1,180	cal BP 771 - 770	0.015	
		2σ	cal AD 1,042 - cal AD 1,106	cal BP 908 - 844	0.480	
			cal AD 1,117 - cal AD 1,207	cal BP 833 - 743	0.520	
SX １	12,573 ± 48	σ	cal BC 13,120 - cal BC 12,848	cal BP 15,069 - 14,797	1.000	IAAA-143689
		2σ	cal BC 13,210 - cal BC 12,662	cal BP 15,159 - 14,611	1.000	
SP41	3,320 ± 27	σ	cal BC 1,634 - cal BC 1,601	cal BP 3,583 - 3,550	0.438	IAAA-143688
			cal BC 1,585 - cal BC 1,543	cal BP 3,534 - 3,492	0.512	
			cal BC 1,539 - cal BC 1,535	cal BP 3,488 - 3,484	0.050	
		2σ	cal BC 1,682 - cal BC 1,672	cal BP 3,631 - 3,621	0.018	
			cal BC 1,666 - cal BC 1,526	cal BP 3,615 - 3,475	0.982	
SX ２	1,911 ± 24	σ	cal AD 69 - cal AD 92	cal BP 1,881 - 1,858	0.464	IAAA-143686
			cal AD 98 - cal AD 124	cal BP 1,852 - 1,826	0.536	
		2σ	cal AD 26 - cal AD 41	cal BP 1,924 - 1,909	0.031	
			cal AD 48 - cal AD 134	cal BP 1,902 - 1,816	0.969	
トレンチ６ 西側ピット	3,182 ± 28	σ	cal BC 1,496 - cal BC 1,474	cal BP 3,445 - 3,423	0.405	IAAA-143690
			cal BC 1,461 - cal BC 1,430	cal BP 3,410 - 3,379	0.595	
		2σ	cal BC 1,503 - cal BC 1,413	cal BP 3,452 - 3,362	1.000	
トレンチ６ 中央部ピット	1,607 ± 24	σ	cal AD 405 - cal AD 432	cal BP 1,545 - 1,518	0.421	IAAA-143685
			cal AD 489 - cal AD 532	cal BP 1,461 - 1,418	0.579	
		2σ	cal AD 398 - cal AD 476	cal BP 1,552 - 1,474	0.538	
			cal AD 483 - cal AD 536	cal BP 1,467 - 1,414	0.462	
トレンチ６ 東側ピット	5,759 ± 29	σ	cal BC 4,670 - cal BC 4,637	cal BP 6,619 - 6,586	0.295	IAAA-143687
			cal BC 4,618 - cal BC 4,551	cal BP 6,567 - 6,500	0.705	
		2σ	cal BC 4,694 - cal BC 4,534	cal BP 6,643 - 6,483	1.000	

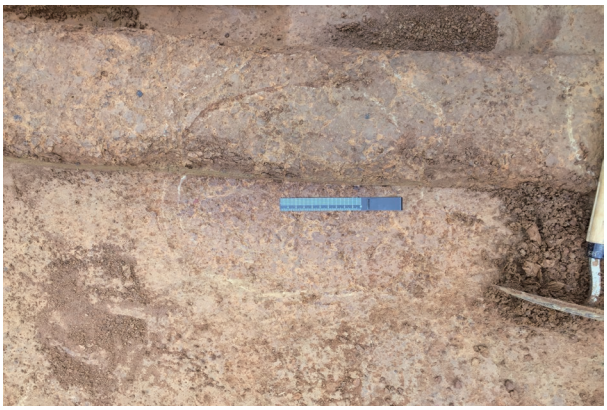
1）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0（Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer）を使用。
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、１桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率はσは 68%、２σは 95% である。
5）相対比は、σ、２σのそれぞれを１とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

1．トレンチ３北側ピット

2．トレンチ３北側ピット（遠景）

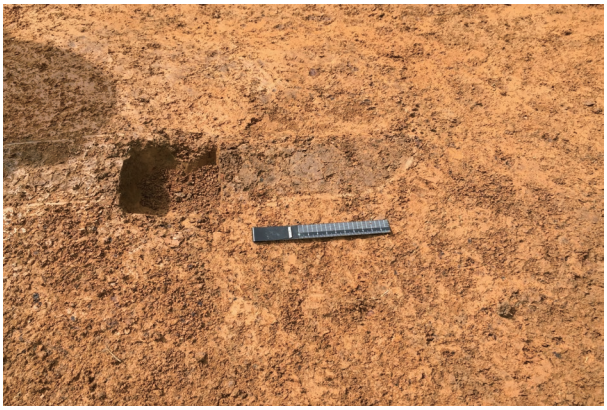
3．トレンチ３SX １

4．トレンチ３SX １遠景



5．トレンチ３SP41

6．トレンチ３SP41 遠景（作業後）

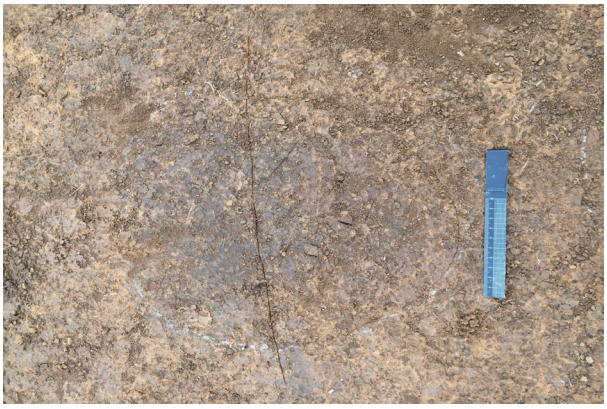


7．トレンチ３SX ２

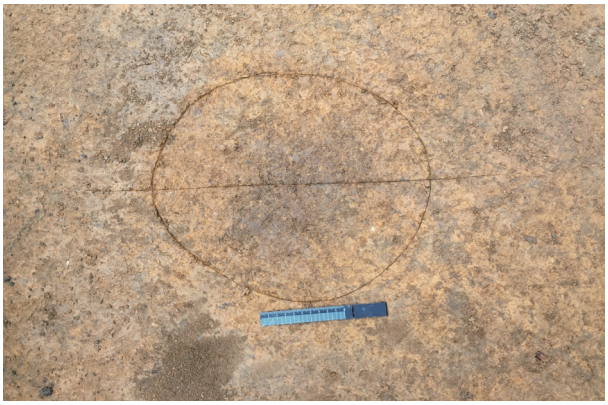
8．トレンチ３SX ２遠景

図版２　作業状況１

９. トレンチ６西側ピット



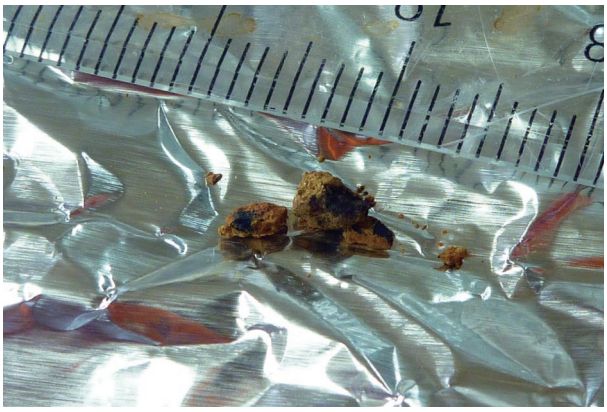
10. トレンチ６中央部ピット



11. トレンチ６東側ピット

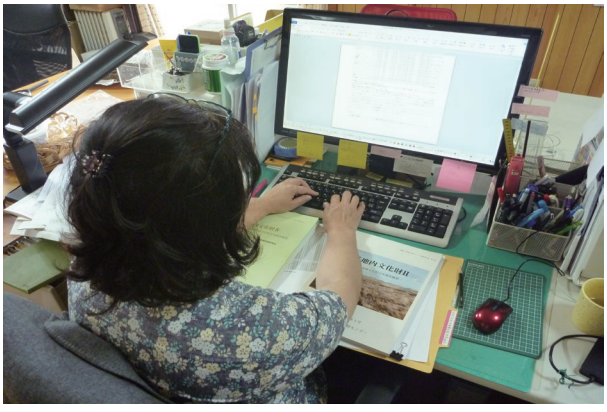
12. トレンチ６東側から西側を望む

13. 炭化物拾い出し状況



14. 拾い出し炭化物状況

15. 年代測定装置



16. 報告書執筆

図版３　作業状況２

第３節　喜友名東原第四遺跡出土黒曜石の産地同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに　喜友名東原第四遺跡は沖縄県宜野湾市喜友名に所在する。本報告では喜友名東原第四遺跡より出土した黒曜石５点について、その元素分析を行うことにより、原産地の検討を行う。

１.試料　試料は、喜友名東原第四遺跡から出土した黒曜石５点である。各試料の出土地点名、層位などは一覧にして表 24 に示す。

表 24　試料一覧

遺物番号	地点 No.	層位	備考	分析番号
5	トレ１重機掘削後清掃		角礫	120721
16	トレ２SI １・２ 南北サブトレ	２層		120722
17	トレ２SI １・２ 南北サブトレ④		角礫	120723
18	トレ２SI １・２ 南北サブトレ			120724
39	トレ２SI １ 付近	２層		120725

２.分析方法　（１）試料の測定　本分析では、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（セイコーインスツルメンツ社製 SEA2110L シリーズ卓上型蛍光Ｘ線分析計）を用いて元素分析を行う。分析元素は Al、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nb の 12 元素である。試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それらを産地の特定のための指標とした。ここでは、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zr、Al/K、Si/K の値を求め、産地を区別する指標として用いる。なお、黒曜石製遺物の蛍光Ｘ線分析においては、試料の表面の風化程度、試料の厚さ及び試料の形状によって分析値に影響が及ぶ。表面が曇っているほどの風化程度の場合は、カリウムの分析値が大きくなるため、Ca/K、Ti/K の両軽元素比を除いて産地判定をする。試料の厚さが 1.5mm 以下の場合は、重い元素は小さく測定されるため、分析値に実験で求めた厚さ補正値を乗じて産地判定をする。厚さ 0.3mm 以下の試料については補正困難なため、産地判定はできない。試料の形状については、厚さの薄い部分を含んでいたり、極端な曲面しかないものなどを測定した場合に、分析値は変動し、産地判定結果は一定しない。そのような場合には、分析場所を変えて多数の分析値により産地判定をし、最も多く判定された産地を選択する。

（２）産地判定　a）黒曜石原石の分析　黒曜石の原産地は、北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布している。調査を終えている原産地の一部を図 46 に示す。これら原石について、上述した測定を行い、上記の元素比を求め、分類した。ここでは分類の単位を「群」とよび、例えばその地名を付して「和田峠第１群」などとする。現時点では、日本及び近隣国（ロシア、北朝鮮、台湾など）の原石群と、原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると、合計 331 個の原石群・遺物群を得ている。産地判定は、試料の元素比とこれら 331 群の元素比とを比較し、必要条件と十分条件を求めて行う。

b）産地の判定　上述した各元素比を変量とし、それらの相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングの T2 乗検定を、試料と 331 個の原石群・遺物群との間で行い、各群に帰属する確率を求めて産地を判定する（東村 ,1976;1990）。ただし、低い確率（0.1% 未満）で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略する。なお、本分析では、低い確率の原産地も確認しているということが重要である。すなわち、低い確率とされた原産地の原石が使用された可能性を考える必要がないという結果でもあるからである。

次に、ホテリングの T2 乗検定の定量的な同定結果から、石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して遺物の原石産地を判定する。石材の成分組成以外の特徴としては、肉眼観察においてキラキラ光る鉱物が多いか少ないか、また光る鉱物は輝石か雲母か、さらに表面の光沢の状況や角礫あるいは円礫の特徴が認められるなどがあげられる。なお、本分析は、遺物材料研究所の協力を得て行ったものである。

３.結果　各試料の元素比分析結果を表 25 に示し、ホテリングの T2 乗検定結果による原産地とその帰属確率及び検定結果に成分組成以外の特徴などを加えて判定した産地を表 26 に示す。今回分析した喜友名東原第四遺跡出土の遺物は、共に腰岳産と同定された。なお、露頭がある腰岳産地の原石は、角礫状の自然面を持つが、他の九州北西部腰岳系産地では、原石は転石であることから、多くは円礫である。このことにより、遺物に自然の礫面が認められる場合、角礫か円礫かの状態により、腰岳の露頭原石か、他の場所の転石原石かを同定することができる。しかし、今回分析した中で角礫の自然面を持つと思われる遺物は分析番号（遺物番号）120721（５）と 120723（17）で腰岳露頭からの原石と推測した。他の遺物の原石産地は表 26 の複数の地点を考慮する必要がある。

引用文献

藁科哲男・東村武信（1975）, 蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（II）. 考古学と自然科学 ,8,61-69
藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977）,（1978）, 蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（III）.（IV）. 考古学と自然科学 ,10,11,53-81,33-47
藁科哲男・東村武信（1983）, 石器原材の産地分析。考

古学と自然科学 ,16:59-89
東村武信 ,1976, 産地推定における統計的手法 . 考古学と自然科学 ,9,77-90.
東村武信 ,1990, 考古学と物理化学 . 学生社 ,212p.

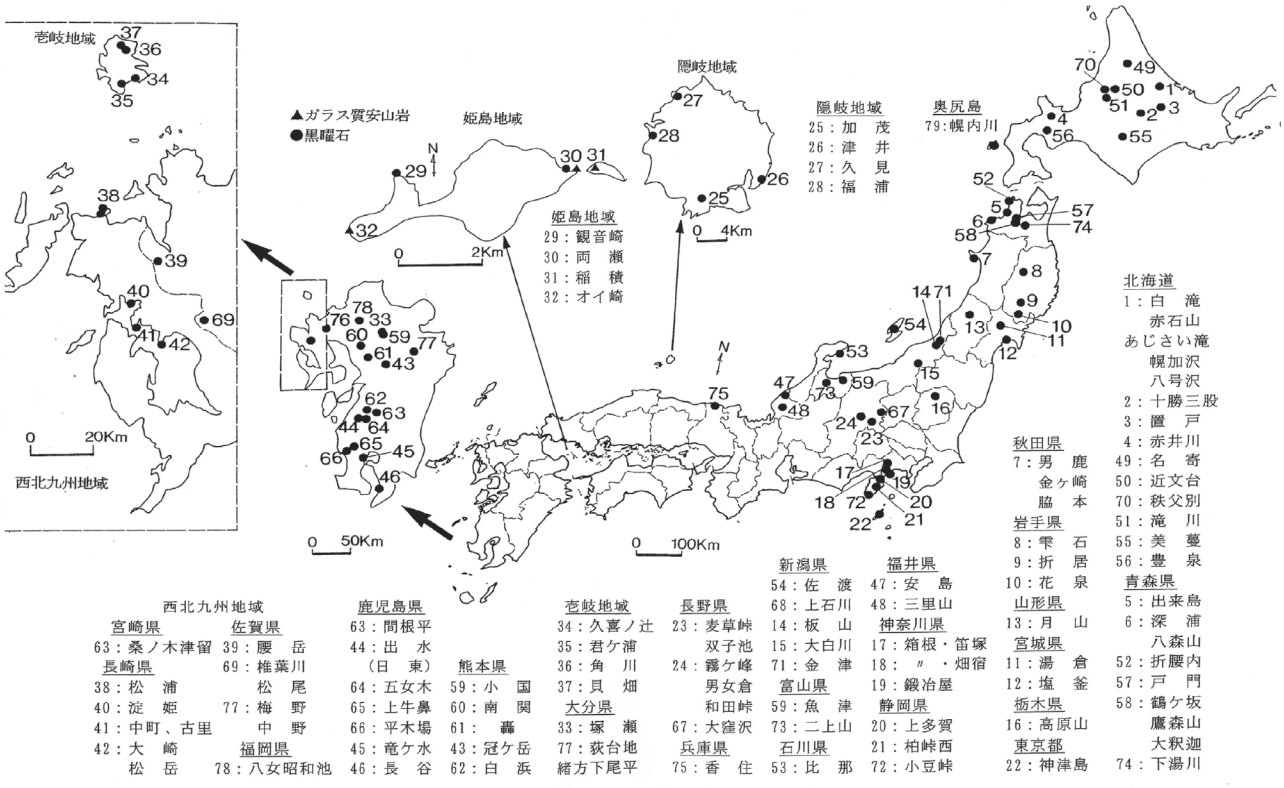


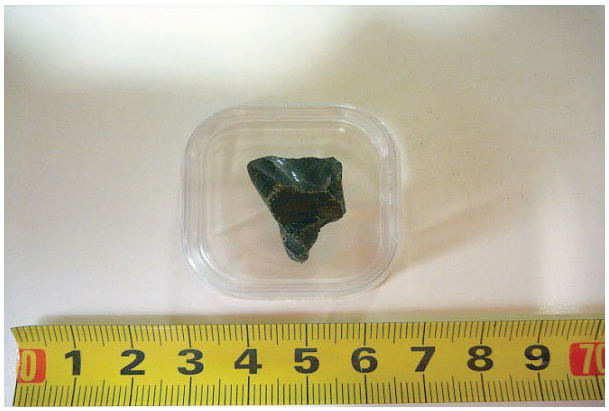
図 46　黒曜石原産地

表 25　元素比組成結果

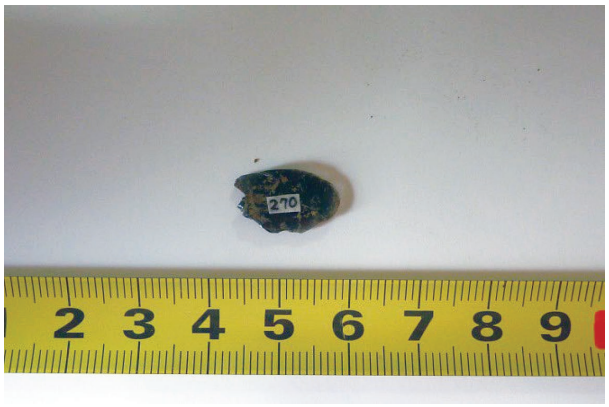
遺物番号	分析番号	元素比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
5	120721	0.216	0.03	0.069	2.538	1.613	0.441	0.3	0.206	0.024	0.322
16	120722	0.204	0.032	0.074	2.605	1.635	0.428	0.328	0.206	0.028	0.335
17	120723	0.208	0.027	0.075	2.582	1.609	0.391	0.309	0.219	0.024	0.33
18	120724	0.215	0.033	0.071	2.54	1.563	0.404	0.272	0.241	0.023	0.315
39	120725	0.21	0.032	0.074	2.517	1.621	0.4	0.312	0.209	0.028	0.327

表 26　黒曜石の産地同定結果

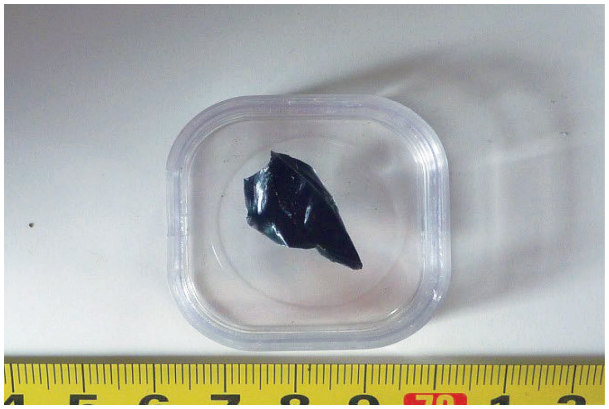
遺物番号	地点 No.	層位	分析番号	ホテリングの T^2 検定結果	判定	備考
5	トレ１重機掘削後清掃		120721	腰岳(67%)、古里第１群(55%)、松浦第１群(53%)	腰岳	角礫
16	トレ２ SI １・２南北サブトレ	２層	120722	古里第１群(99.4%)、腰岳(76%)、松浦第１群(58%)、松浦第２群(4%)	腰岳	
17	トレ２ SI １・２ 南北サブトレ④		120723	腰岳 (99%)、古里第１群 (74%)、松浦第１群 (53%)、松浦第２群 (0.2%)	腰岳	角礫
18	トレ２ SI １・２ 南北サブトレ		120724	松浦第１群(99%)、腰岳(94%)、古里第１群(83%)	腰岳	
39	トレ２ SI １ 付近	２層	120725	古里第１群 (93%)、松浦第１群 (48%)、腰岳 (16%)、松浦第２群 (0.7%)	腰岳	



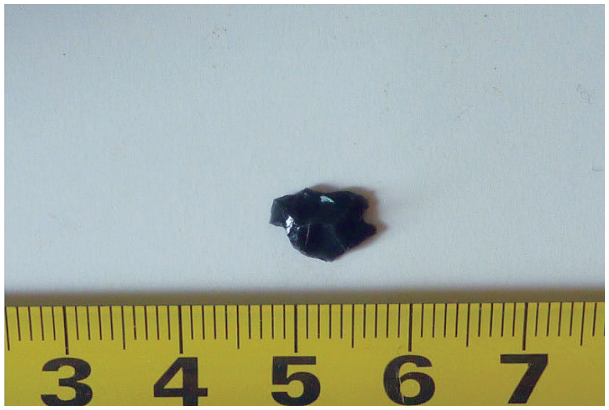
１．黒曜石分析試料観察（５）



２．黒曜石分析試料観察（16）



３．黒曜石分析試料観察（17）

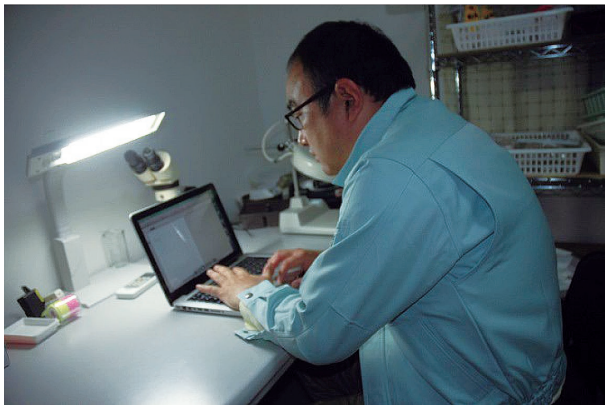


４．黒曜石分析試料観察（18）

５．黒曜石分析試料観察（39）

６．黒曜石分析試料観察

７．黒曜石分析



８．報告書作成

図版４　作業状況

第９章　総括

前章までトレンチごとの状況を記載してきた。ここでは時代ごとの整理を行い、過去の調査成果も参考にしてまとめを行う。

縄文時代

竪穴建物はトレンチ２から切り会い関係のある２基を確認しており、遺構内から仲原式土器、黒曜石が出土している。年代測定の結果も補正年代 2,580 ± 30BP から 2,400 ± 30BP と縄文時代晩期の値を示している。トレンチ３から円弧状遺構が確認されており、年代測定の結果が補正年代 1,910 ± 20BP と晩期の値を示している。トレンチ５は竪穴建物と考えられる遺構を確認しているが、内部の調査は行っていないため確定はできていないのでグスク時代まで降りる可能性もある。これらの遺構は地山（島尻マージ）面で確認しており、明確な遺物包含層は確認できていない。遺物は仲原式土器を主とした

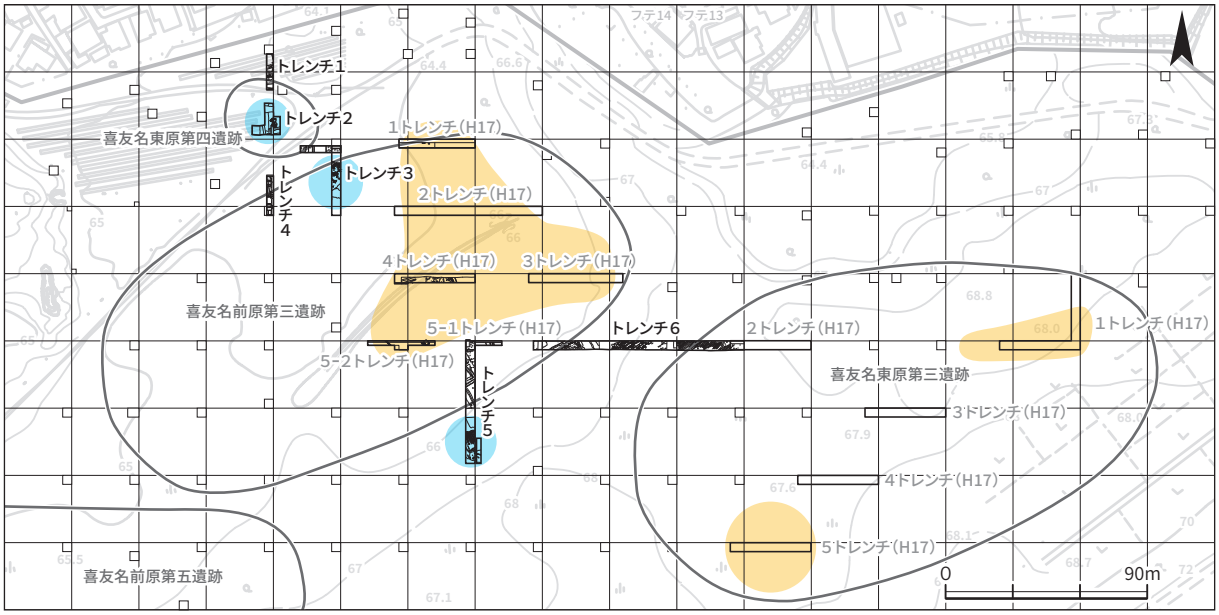


図 47　縄文時代の遺構分布図

：過去の調査で確認された遺構および遺物包含層
：今回の調査で確認した遺構
※トレンチ５の遺構についてはグスク時代の可能性もある。

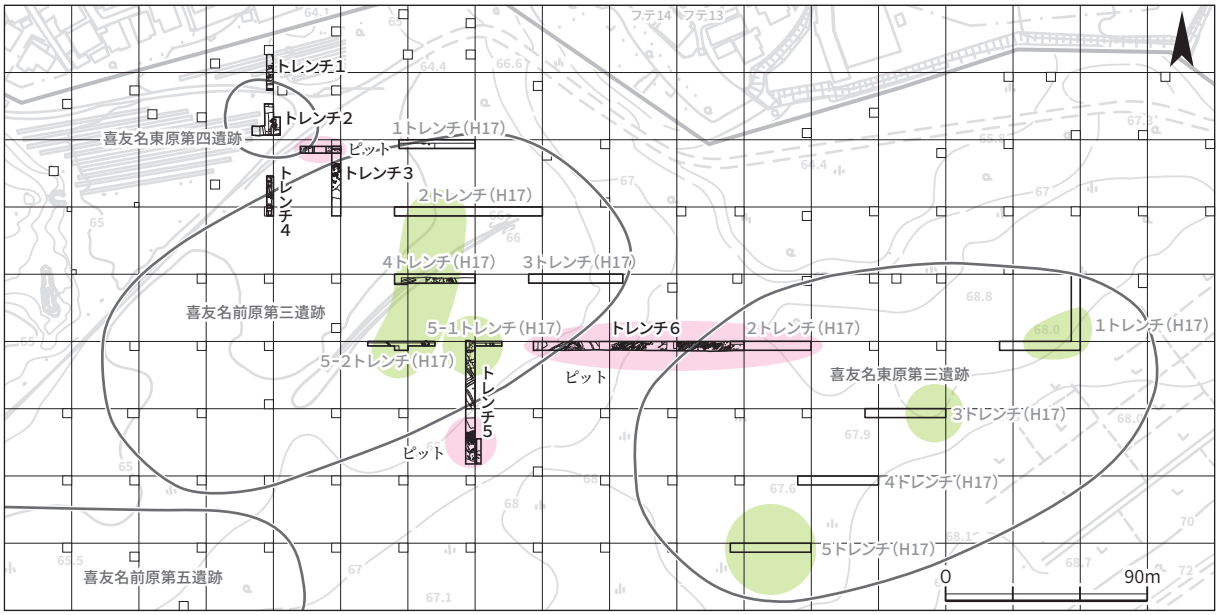


図 48　グスク時代の遺構、遺物包含層分布図

：過去の調査で確認された遺構および遺物包含層
：今回の調査で確認した遺構

土器、石器は磨石・敲石、石斧、チップ等が出土している。土器は小片かつ胴部が多く、石器は破片や再利用のものが多い。

グスク時代

トレンチ３、５、６からピットが確認されており、トレンチ３、６では集中して検出されている箇所がある。平成17年度に調査を行ったトレンチ５北側〔５－１トレンチ（H17)〕では掘立柱建物の可能性がある列状に並んだピットを検出しているが、今回検出したピットでは建物跡等のプランは確認できていない。ピットは近世～近代の耕作土を取り除いた面で検出されたものが多いことから、耕作の際に削られたものも多いと考えられる。遺物包含層はトレンチ３、５、６で確認しているが、10 ㎝程度の厚さしかない。近代までの耕作により削られた可能性が高い。ピットの年代は、トレンチ３のピットから検出された炭化物の年代測定は補正年代 900 ± 20BP の値となっている。遺構に伴う遺物はないが、カムィヤキ、青磁等のグスク時代の遺物が出土している。

近世～近代

すべてのトレンチから遺構が確認されている。トレンチ３、５、６から畝間跡が確認されている。トレンチ３、６ではグスク時代の遺物包含層を耕して畝間を作っていることが分かった。畝間の方向は米軍が撮影した航空写真に写っている耕作地の方向と同じであることから戦前の畝間跡と考えられる。溝状遺構はすべてのトレンチから確認されており、断面の状況や畝間との関係から２つに分類できる。一つ目はトレンチ２、４の溝状遺構のように中心部分を深く掘り下げてその中に石を密に詰めて暗渠としたもの。二つ目はトレンチ５、６の溝状遺構のように畝間の方向と同じ方向または直行するもので、耕作地において何らかの境界となっていたと考えられるもの。その他、トレンチ１の溝状遺構のように浅く、他の遺構との関連がないため､性格が分からないものもある。遺物は小片が多く、復元可能な遺物は僅かである。種類としては沖縄産無釉陶器、沖縄産施釉陶器、陶質土器が多く、その他中国産陶磁器、本土産近代磁器等が出土している。

これまでの試掘・確認調査と今回の調査成果をまとめると、縄文時代の遺構は、平成 17 年度の確認調査で焼土面が確認されており、今回の調査で喜友名東原第四遺跡から竪穴建物跡、喜友名前原第三遺跡の北側から円弧状遺構、南側から土坑または竪穴建物跡を確認した。喜友名東原第四遺跡の竪穴建物は、平成 14 年度の試掘調査では小面積なため縄文時代晩期の土器を含む土層として確認されていたものを今回の調査で遺構と確認できたものである。

遺物包含層は、試掘調査及び平成 17 年度の確認調査時に確認している。平成 17 年度の調査では迫地の堆積として喜友名前原第三遺跡と喜友名東原第三遺跡で確認されている。

グスク時代の遺構は、平成 17 年度の確認調査時及び今回の調査でピット群を確認している。また、喜友名東原第四遺跡と喜友名前原第三遺跡の間、喜友名前原第三遺跡と喜友名東原第三遺跡の間からもピットを検出した。遺物包含層は平成 17 年度の確認調査時に喜友名前原第三遺跡と喜友名東原第三遺跡で確認されている。

近世～近代の遺構は畝間跡、溝状遺構等や耕作土が全域で検出されており、1945 年に米軍が撮影した航空写真に見ることができる耕作地の状況を調査でも確認できた。

参考文献

Angela Von Den Driesch　1976　"A Guide to Measurement of Animals Bones From Archeological Sites" Peabody Museum Bulletin1. Peabody Museum of Aecheology and Ethnology. Harvard University

沖縄県教育委員会　2002『普天間飛行場内埋蔵文化財調査実施計画（中間報告）』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2002『基地内文化財Ⅱ－基地内埋蔵文化財分布調査概要－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 11 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2004『基地内文化財Ⅲ－基地内埋蔵文化財分布調査概要（平成 14･15 年度）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 24 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2006『基地内文化財Ⅳ－平成 15・16 年度基地内埋蔵文化財分布調査概要－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 38 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2011『基地内文化財 5　普天間飛行場内範囲確認調査』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 61 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2013『首里城跡－御内原北地区発掘調査報告書（２）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 69 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2014『基地内文化財 6　平成 18・19・20 年度　普天間飛行場内試掘調査』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 71 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2015『基地内文化財 7　大山加良当原第四遺跡確認調査　神山黒数原古墓群分布調査　付編：沖縄県における駐留軍用地内の埋蔵文化財取扱い方針』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 76 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2015『首里城跡－銭蔵地区発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 77 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2019『神山古集落－普天間飛行場雨水排水施設整備に伴う発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 99 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2021『中城御殿跡（首里高校内）・櫨園跡－首里高校校舎改築に伴う発掘調査（2）－』第 110 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2022『普天間石川原第一遺跡　普天間グスクンニー遺跡　普天間下原古墓群－キャンプ瑞慶覧内東普天間住宅地区に係る文化財発掘調査報告書－』第 111 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2022 『基地内文化財 9　普天間飛行場内試掘調査総括報告書』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 112 集

沖縄県教育委員会・宜野湾市教育委員会　2010『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』

宜野湾市教育委員会　1989『土に埋もれた宜野湾』宜野湾市文化財調査報告書第 10 集

宜野湾市教育委員会　1995『上原濡原遺跡発掘調査記録』宜野湾市文化財保護資料第 43 集

宜野湾市教育委員会　2000『宜野湾市史　第９巻　資料編８　自然』

宜野湾市教育委員会　2013『基地内埋蔵文化財調査報告書６　基地内遺跡ほか発掘調査事業－普天間飛行場基地内－遺跡発掘事前総合調査（平成 21･22 年度試掘調査）』宜野湾市文化財調査報告書第 50 集

宜野湾市教育委員会　2020『宜野湾市文化財情報図〔令和元年度版〕』宜野湾市文化財保護資料第 78 集

喜友名区自治会　2015『喜友名誌　ちゅんなー』

調査箇所近景（北から）

東壁土層断面（西から）

図版５　トレンチ１（１）

北側遺構検出状況（南西から）

南側遺構検出状況（南西から）

図版６　トレンチ１（２）

遺構掘下げ状況（北西から）

遺構掘下げ状況（北から）

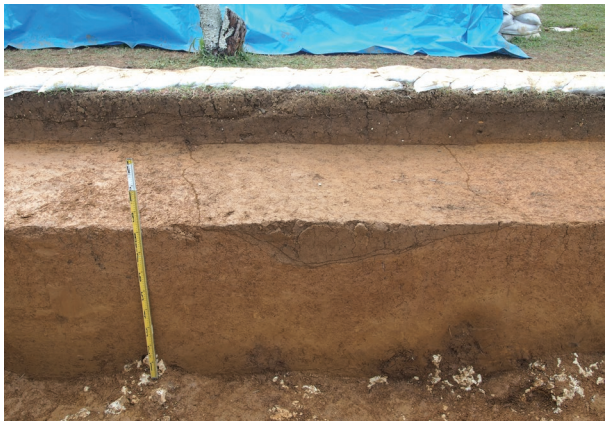
SP １半截状況（東から）

遺物検出状況

図版７　トレンチ１（３）

トレンチ１全景（北西から）

SD ２掘下げ状況（東から）



SD ２土層断面（東から）

SD ３土層断面（東から）

SD ６土層断面（東から）

図版８　トレンチ１（４）

遺構検出状況（北から：拡張前）

完堀状況（北から）

図版９　トレンチ２（１）

東壁土層断面（南西から：拡張前）

SD １掘下げ状況（北東から）

SD ２内集石検出状況（北から）

黒曜石検出状況

土器検出状況

図版 10　トレンチ２（２）

SI １・２、SX １調査状況（西から）

南北サブトレンチ内遺物検出状況（南から）

南北サブトレンチ内遺物検出状況（西から）

南北サブトレンチ土層断面（東から）

東西サブトレンチ土層断面（北から）

図版 11　トレンチ２（３）

遺構検出状況（西から）

北壁土層断面（南から）

図版 12　トレンチ３（１）

東側遺構半截状況（北から）

SP ４半截状況

SP ９半截状況

SP12 半截状況

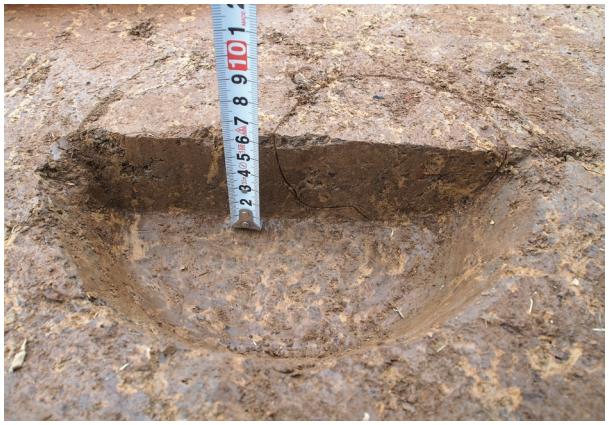
SP37 半截状況

図版 13　トレンチ３（２）

西側遺構半截状況（北から）

SP20 半截状況

SP21 半截状況



SP28 半截状況

SP32、33 半截状況（右が SP33）

図版 14　トレンチ３（３）

完掘状況（北東から）

完掘状況（南西から）

図版 15　トレンチ３（４）

遺構検出状況（西から）

遺構検出状況（南西から）

図版 16　トレンチ３（５）

東壁土層断面（西から）

東壁土層断面（西から）

図版 17　トレンチ３（６）

完堀状況（南西から）

SX １完堀状況（西から）

円弧状遺構断面

SX １内ピット半截状況

SP １半截状況

図版 18　トレンチ３（７）

遺構検出状況（北から）

サブトレンチ２周辺西壁土層断面（東から）

SD １内集石検出状況（北西から）

SD ２・３掘下げ状況（東から）

図版 19　トレンチ４（１）

完堀状況（北から）

完堀状況（南東から）

図版 20　トレンチ４（２）

遺構検出状況（北西から）

遺構検出状況（北西から）

図版 21　トレンチ５（１）

遺構検出状況（南から）

東壁土層断面（西から）

東壁土層断面（西から）

遺構検出状況（西から）

図版 22　トレンチ５（２）

遺構検出状況（南から）

遺構検出状況（南から）

遺構検出状況（南から）

遺構検出状況（南から）

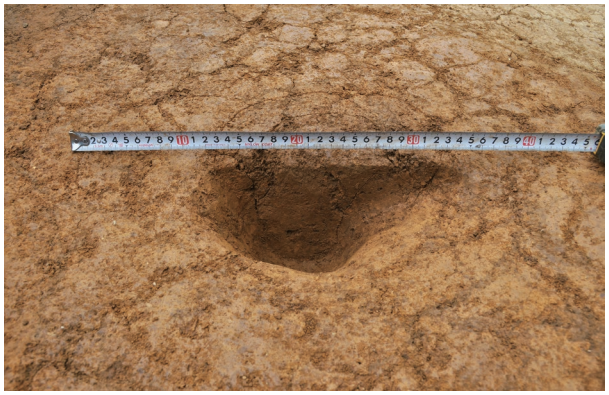
フテ 14-G1 北壁土層断面（南から）

フテ 13-G10 北壁土層断面（南から）

図版 23　トレンチ 6（1）

完堀状況（東から）

SP26 半截状況



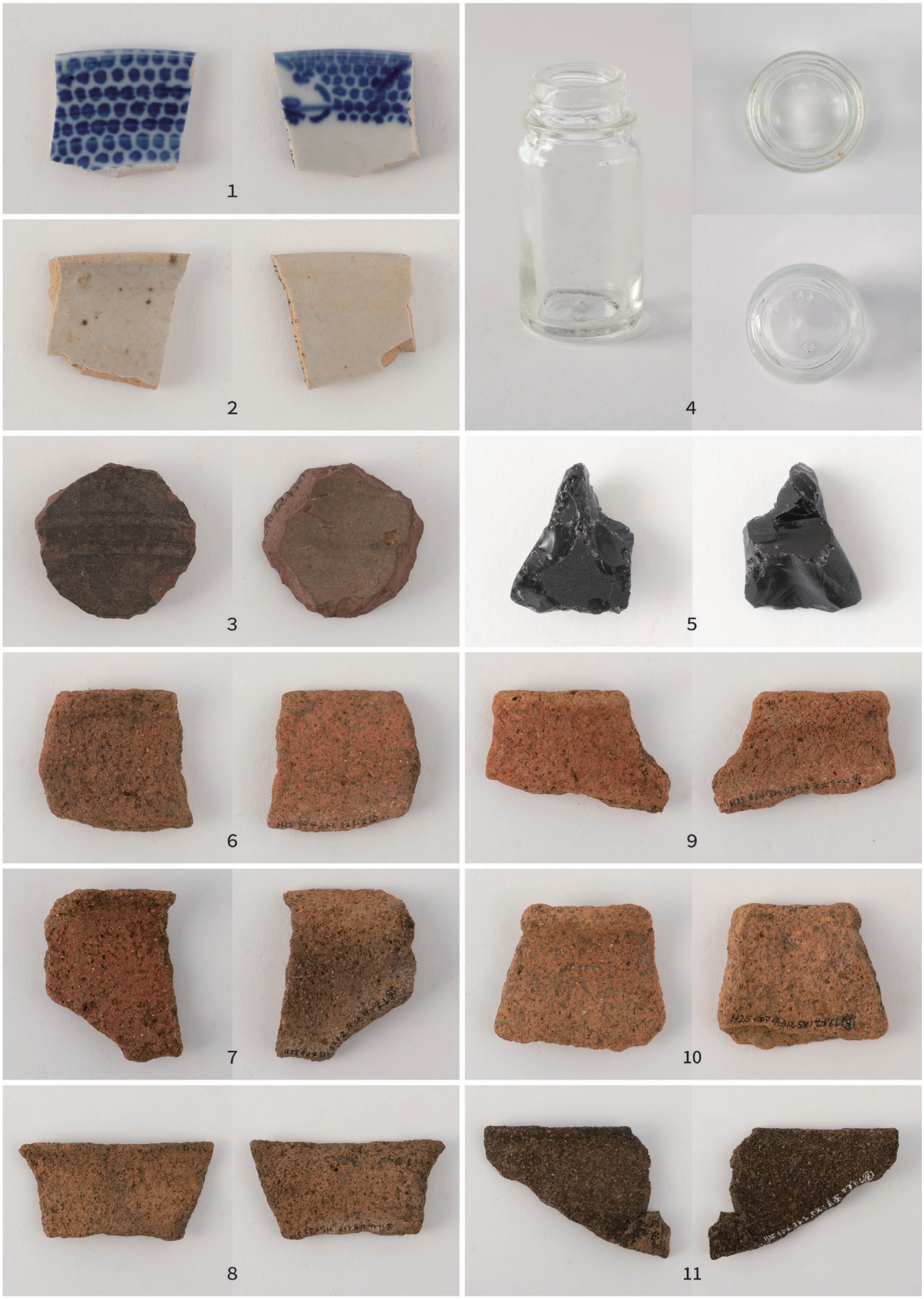
SP28 半截状況

図版 24　トレンチ６（２）

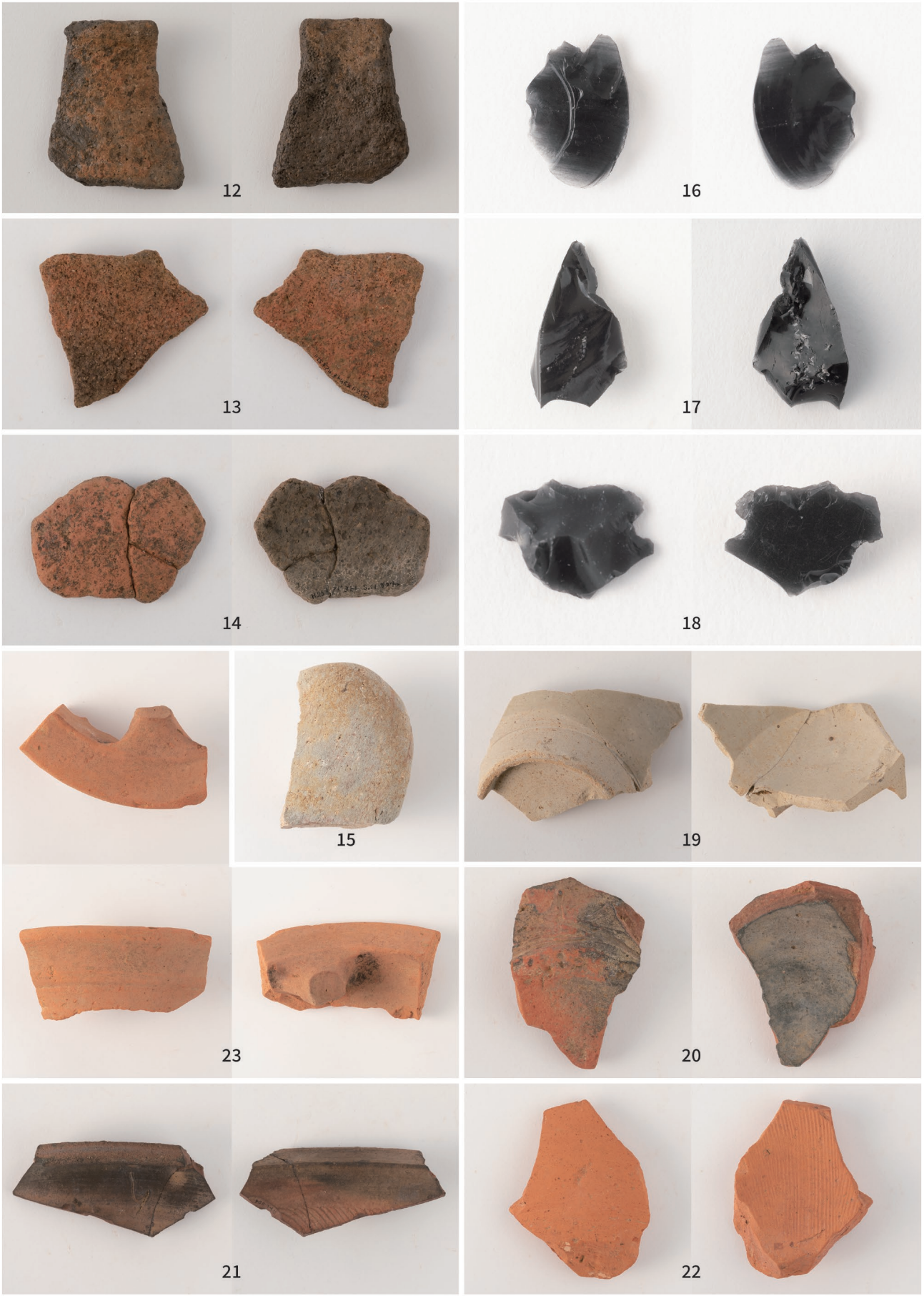
完堀状況（南西から）

完堀状況（東側拡大：南西から）

図版 25　トレンチ６（３）

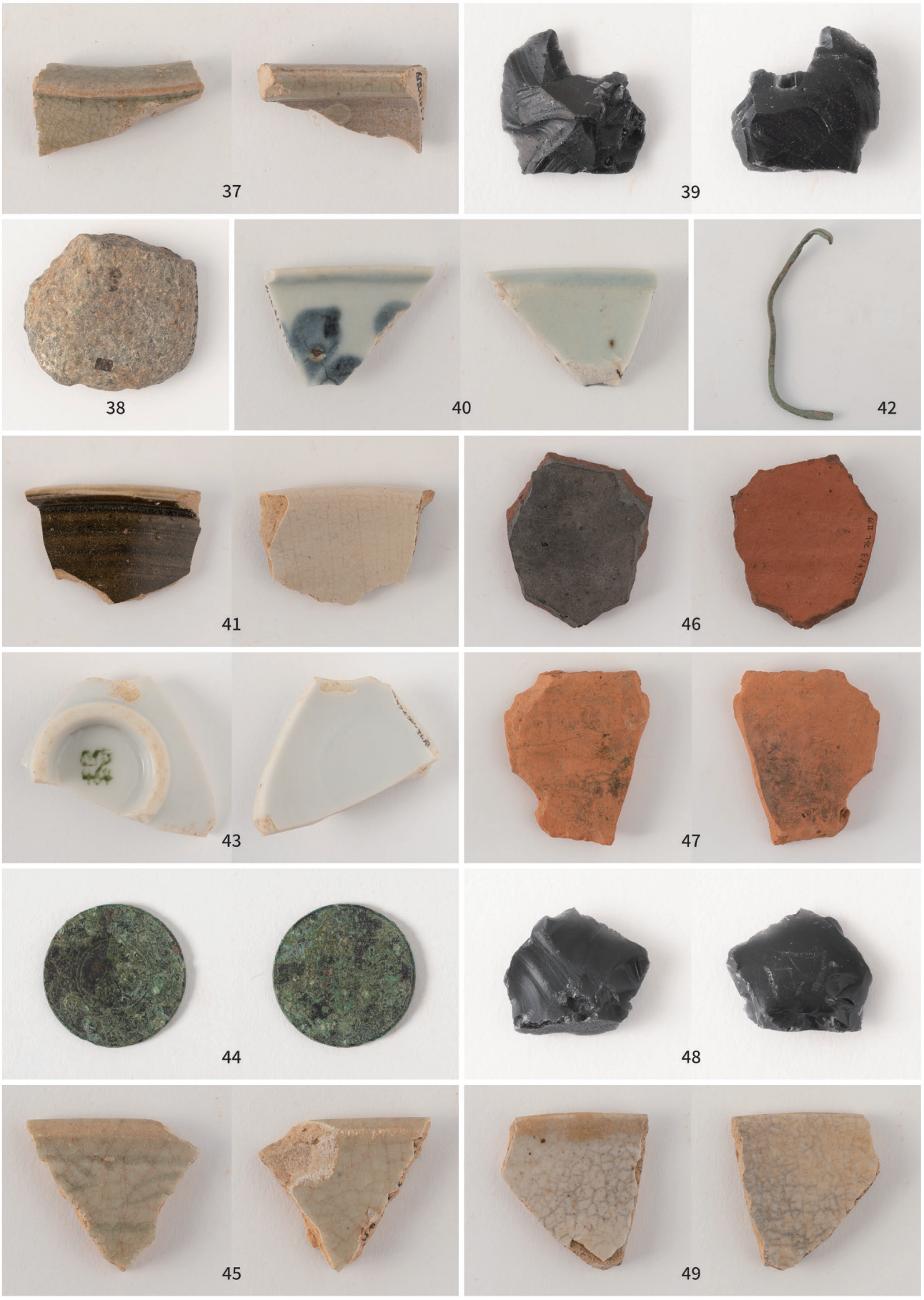


図版26　トレンチ1（1～5）、トレンチ2（6～11）



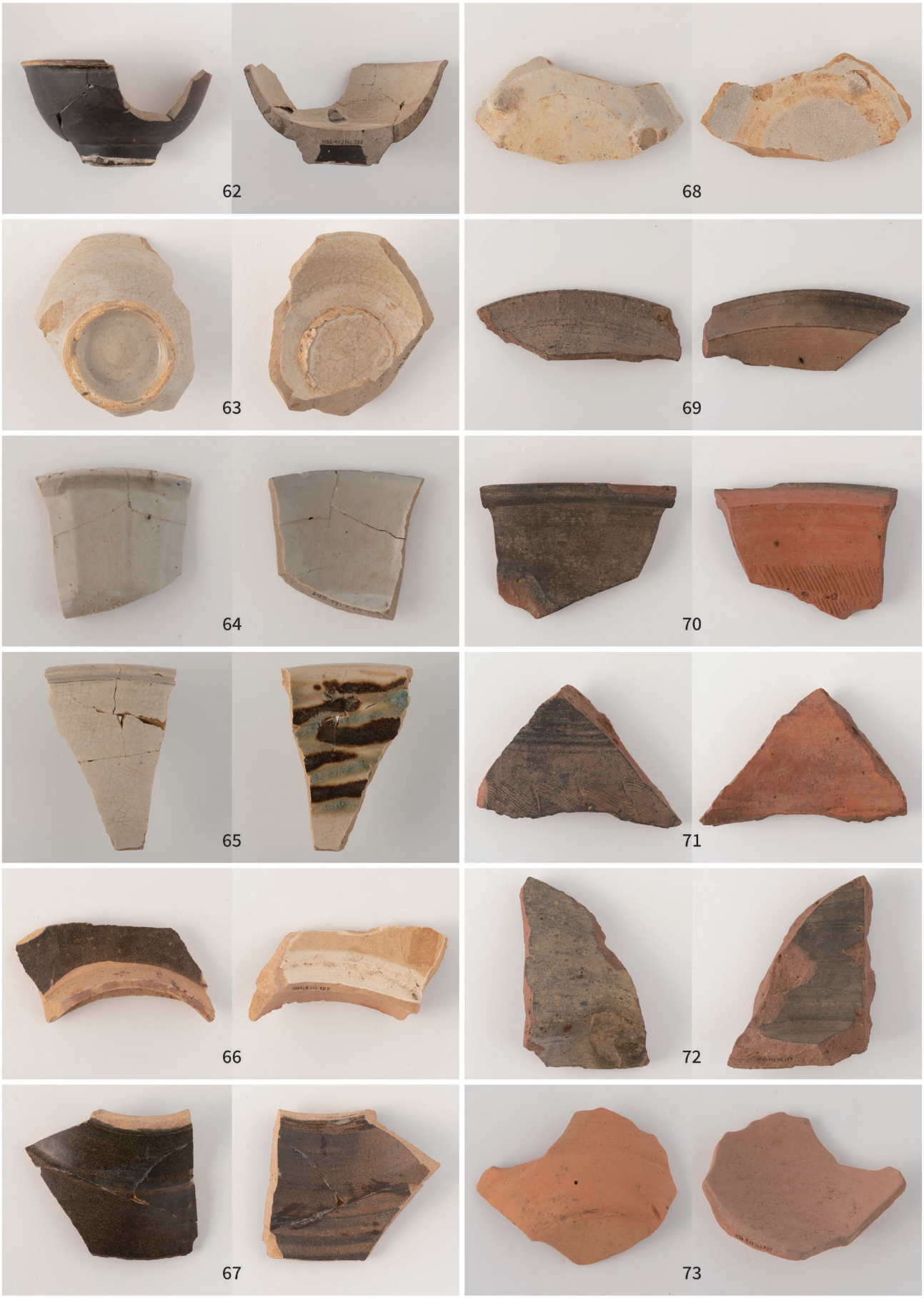
図版27　トレンチ2（12〜23）

図版28　トレンチ2（24～36）



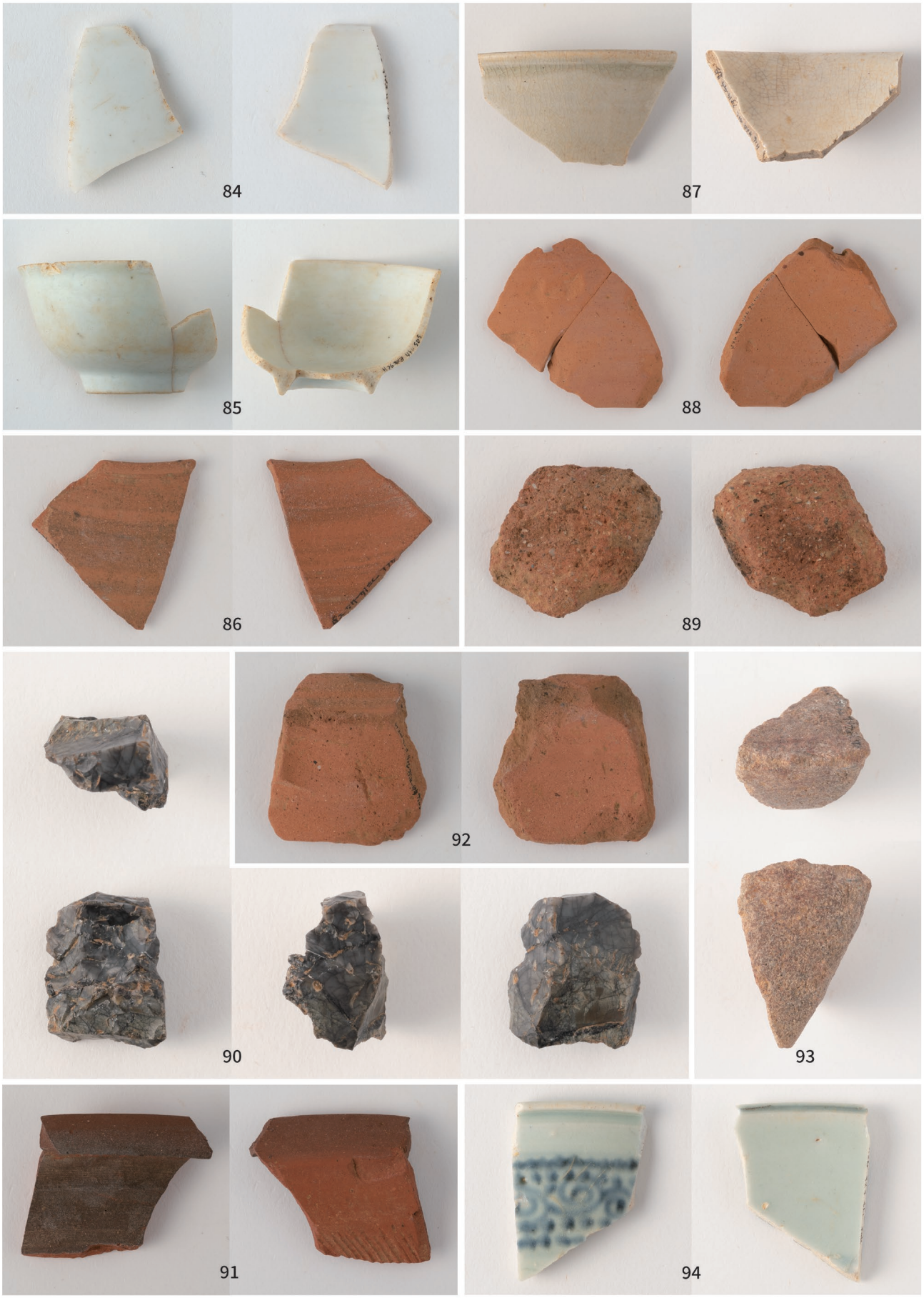
図版29　トレンチ2（37～39）、トレンチ3（40～49）

図版30　トレンチ3（50～52）、トレンチ4（53～61）

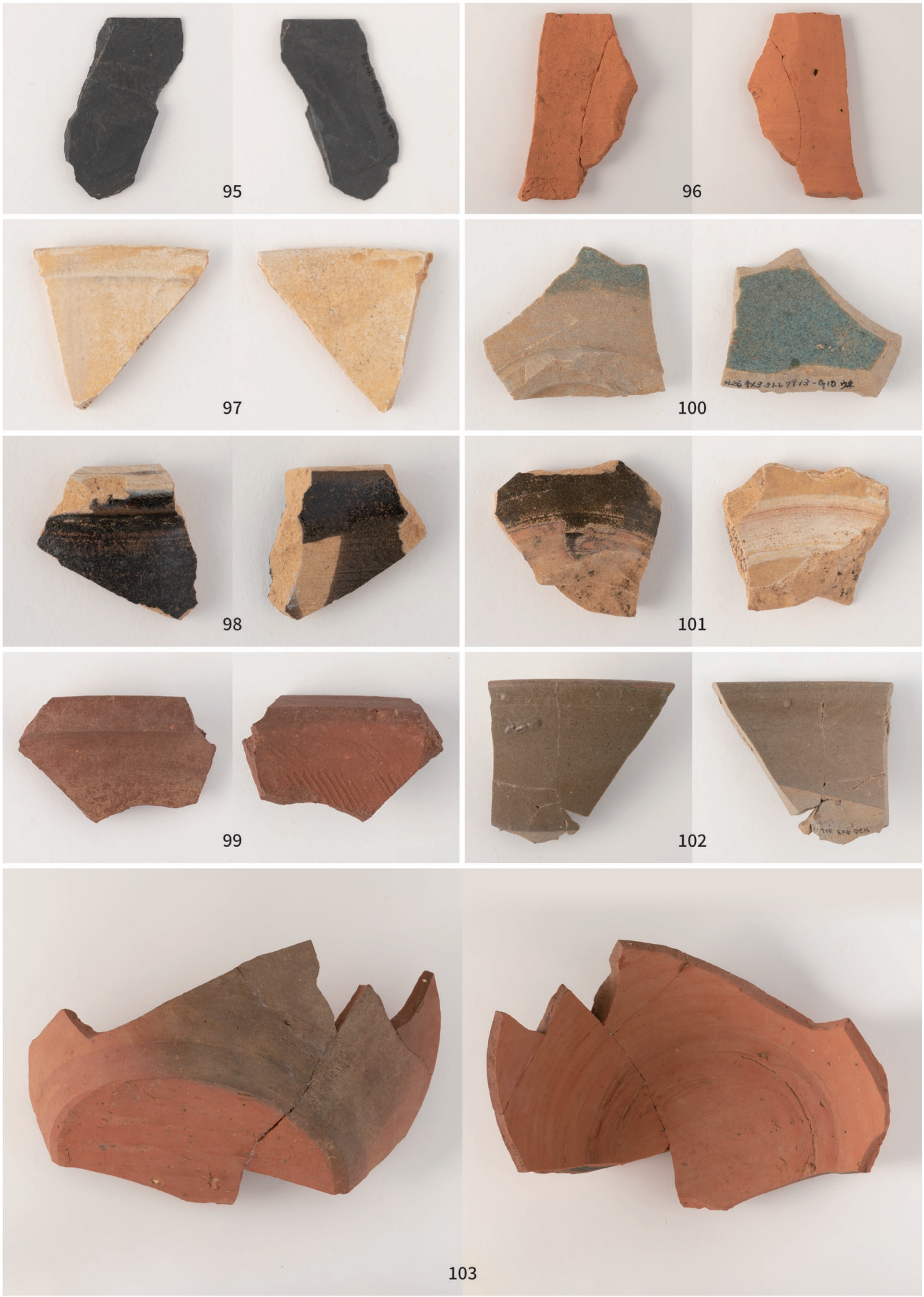


図版31　トレンチ4（62～73）

図版32　トレンチ4（74～83）

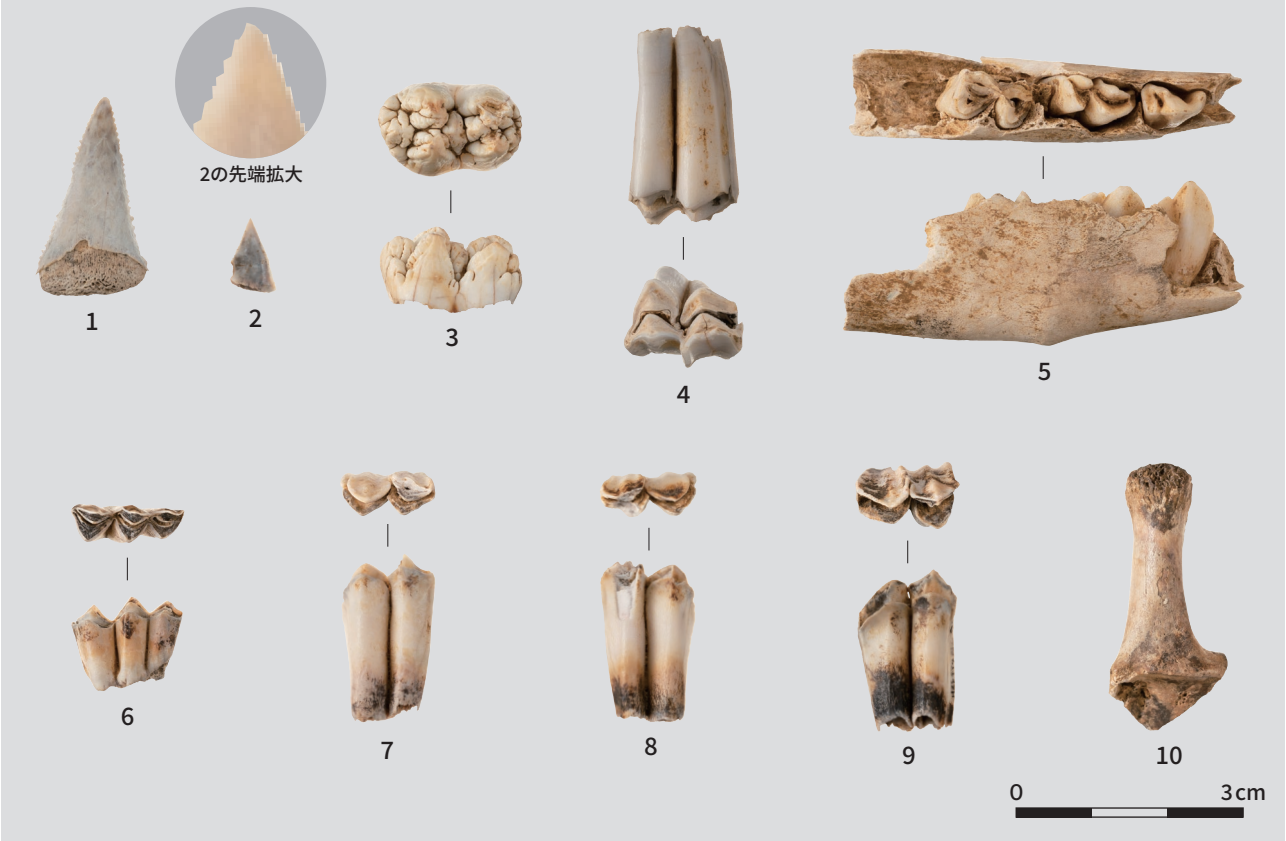


図版33　トレンチ5（84〜94）



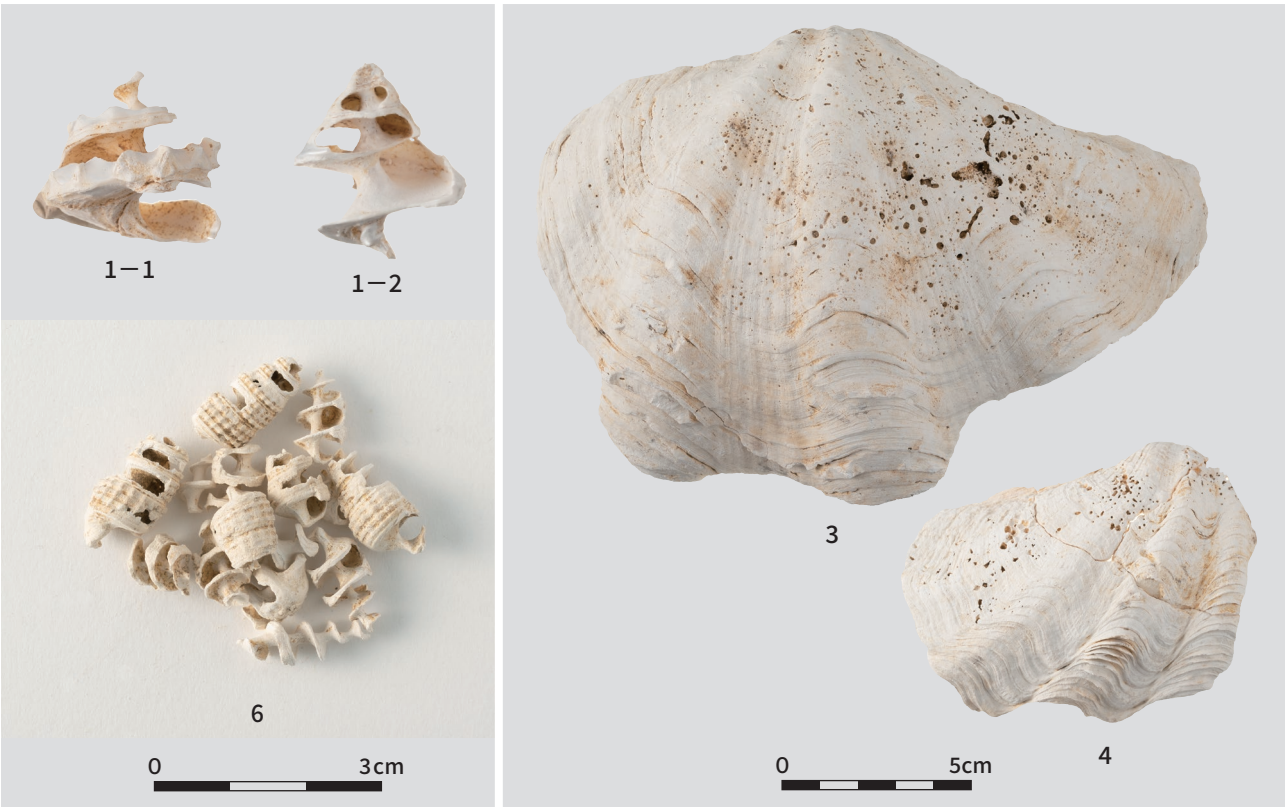
図版34　トレンチ5（95・96）、トレンチ6（97～103）

図版35　トレンチ6（104～110）



図版36　脊椎動物遺体

サメ類　1・2.歯　**イノシシ/ブタ**　3. 右 下顎歯 M_2　**ヤギ**　4. 右 上顎歯 M^1/M^2　5. 右 下顎体 ×$P_3P_4M_1$×　6. 右 下顎歯 dP_4(未成獣)　7. 右 下顎歯 M_1　8. 左 下顎歯 M_1　9. 右 下顎歯 M_2　10. 右 踵骨



図版37　貝類遺体（左：巻貝　右：二枚貝）　※番号は表17、18と同じ

報 告 書 抄 録

ふりがな	きちないぶんかざい
書名	基地内文化財 10
副書名	―確認調査報告書―
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 115 集
編著者名	知念隆博、廣岡　凌、亀島慎吾、パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒 903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7　TEL 098-835-8752　FAX 098-835-8754
発行年月日	2023 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
きゆなあがりばる 喜友名東原 だいよんいせき 第四遺跡	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざきゆな 字喜友名	47205		26° 16′ 58″	127° 45′ 42″	20131210 ～ 20140326	228 ㎡	確認調査
きゆなめーばる 喜友名前原 だいさんいせき 第三遺跡	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざきゆな 字喜友名	47205		26° 16′ 55″	127° 45′ 43″	20131210 ～ 20140326 20140902 ～ 20150324	614 ㎡	確認調査
きゆなあがりばる 喜友名東原 だいさんいせき 第三遺跡	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市 あざきゆな 字喜友名	47205		26° 16′ 55″	127° 45′ 43″	20140902 ～ 20150324	188 ㎡	確認調査

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
喜友名東原第四遺跡	集落跡、生産遺跡	縄文時代晩期、グスク時代、近世～近代	竪穴建物、ピット群、溝状遺構	縄文時代晩期土器、石器、石材、沖縄産陶器、陶質土器、中国産陶磁器	竪穴建物跡、グスク時代のピット群を検出
喜友名前原第三遺跡	生産遺跡	グスク時代、近世～近代	ピット、溝状遺構	沖縄産陶器、陶質土器、中国産陶磁器	グスク時代のピット群を検出
喜友名東原第三遺跡	生産遺跡	グスク時代、近世～近代	ピット、溝状遺構	沖縄産陶器、陶質土器、中国産陶磁器	グスク時代のピット群を検出

要約	在沖米軍施設である普天間飛行場内で平成 25 年度、平成 26 年度に喜友名東原第四遺跡、喜友名前原第三遺跡、喜友名東原第三遺跡の確認調査を実施した。調査は過去の試掘調査、確認調査を基にトレンチを設定して実施した。調査の結果、喜友名東原第四遺跡より縄文時代晩期の竪穴建物跡を確認し、グスク時代のピット群、近世～近代の耕作跡は 3 遺跡で確認でき、遺構が遺跡範囲外へ広がることも確認できた。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 115 集

基地内文化財 10

－確認調査報告書－

発　行　日　　令和 5（2023）年 3 月 31 日
編集・発行　　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒 903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7
TEL：098-835-8752　FAX：098-835-8754
印　　刷　　有限会社　サン印刷
〒 901-1111　沖縄県島尻郡南風原町字兼城577
TEL：098-889-3679　FAX：098-889-4282

© 沖縄県立埋蔵文化財センター　2023　Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる